

**ISDN&ブロードバンドルータ/TA**
RTA54i**スタートマニュアル****本機を使い始めるときにお読みください**

本機をお使いになる前に本書をよくお読みになり、正しく設置や設定を行ってください。
本書中の警告や注意を必ず守り、正しく安全にお使いください。

マニュアルのご案内

RTA54iの機能を十分に活用していただくために、下記のマニュアルを用意致しました。目的にあわせてマニュアルをお選びください。🌀マークのマニュアルは付属のCD-ROMにPDF形式で収録しており、お読みになるにはAcrobat Readerが必要です。先にCD-ROMのAcrobat Readerをインストールしてください。(→ユーザーズマニュアル 付録参照)



スタートマニュアル (本書)

RTA54iを使い始めるときに読むマニュアルです。
設置のしかたや設定のしかた、基本的な使いかたについて説明しています。



ユーザーズマニュアル

RTA54iの機能をもっと活用したくなるときに読むマニュアルです。
電話、FAX、ルータとしての代表的な使いかたについて、その解説と設定方法を説明しています。また、困ったときの対処方法についてもまとめて説明しています。



コマンドリファレンス (PDF形式)

コマンドを使って高度な設定を行いたいときに読むマニュアルです。
RTA54iのコンソールコマンドについて解説しています。

- ・ 本書の記載内容を一部または全部を無断で転載することを禁じます。
- ・ 本書の記載内容は将来予告なく変更されることがあります。
- ・ 本製品を使用した結果発生した情報の消失等の損失については、当社では責任を負いかねます。保証は本製品の物損の範囲に限ります。予めご了承ください。

重要なお知らせ

■ プロバイダ契約について

RTA54i をルータとしてご使用になる前、もしくは新たにプロバイダ契約を行う前に、必ずプロバイダの契約上ルータによる複数台のパソコン接続が可能であることを確認してください。プロバイダによっては禁止もしくは別の契約が必要な場合があります。 契約に違反して本機を使用すると、予想外の料金を請求される場合があります。 使用できない場合は、必要な契約を行うか、使用可能な他のプロバイダと契約してください。

■ 通信料金について

RTA54i をダイヤルアップルータとしてご使用になる場合には、自動発信の機能をよくご理解の上ご使用ください。ダイヤルアップルータをパソコンやLANに接続した場合、ダイヤルアップルータはパソコンのアプリケーション（メールソフト、ブラウザなど）が送信するデータやLAN上を流れるデータの宛先を監視し、LAN外の宛先があると本体に設定された内容に従って自動的に回線への発信を行います。そのため設定間違い、回線切断忘れ、ソフトウェアや機器が定期送信パケットを発信していた場合には、予想外の電話料金やプロバイダ接続料金がかかる場合があります。 ときどき通信記録や累積料金を調べて、意図しない発信がないか、また累積料金が適当であるかどうかにご注意ください。また設定やリビジョンアップなどの最新情報を得るために、ときどきNetVolanteシリーズのホームページ (<http://NetVolante.rtrpro.yamaha.co.jp/>) を見ることを強く推奨します。

次のようなケースでは、予想外の通信料金がかかっている場合があります。

- 本機を使い始めた時
- 本機のプロバイダ接続設定を変更した時
- MP接続を設定した時
- TA機能を利用時にパソコンのダイヤルアップネットワーク設定を変更した時
- Real Player をインストールした時
- パソコンに新しいソフトウェアをインストールした時
- ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続した時
- 本機のファームウェアをリビジョンアップした時
- その他、いつもと違う操作を行ったり、通信の反応に違いを感じた時など

注意

- ・ プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定（TA接続利用時）の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・ MP接続に対応していないプロバイダに対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。意図しない料金を請求される場合があります。
- ・ プロバイダ側の状態（アクセスポイントの変更、メンテナンス、障害など）によって予想外の通信料金がかかる場合がありますので、プロバイダからの告知情報には常に注意してください。

■ セキュリティについて

インターネットに接続すると、世界中のいろいろなホームページを見ることができたり、電子メールで自由な情報交換ができたりして、とても便利です。しかし、同時に世界中の危険にさらされることをも意味します。特にインターネットに常時接続するときやサーバなどを公開するときは、その危険性を理解し、セキュリティ対策を行う必要があります。本機にはそのためのファイアウォール機能がありますが、不正アクセスの手段やセキュリティホールは、日夜新たに発見されており、それを防ぐ完璧な手段はありません。インターネット接続には、常に危険がともなうことをご承知いただくとともに、常に新しい情報を入手し、自己責任でセキュリティ対策を行うことを強く推奨します。

■ 電波障害規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置が、ラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

目次

マニュアルのご案内	表紙裏
重要なお知らせ	1
本書の表記について	5
商標について	5
安全にお使いいただくために	6
各部の名称と機能	8
前面	8
電池ボックス内部	9
左側面	9
背面	10

第1章 準備しよう

1.1 本機の接続方法について	1-2
1.2 回線契約について	1-3
1.3 インターネット接続契約について	1-6
1.4 LANポートについて	1-12

第2章 ルータを設置しよう

2.1 ルータを設置する	2-2
設置のしかた	2-2
2.2 回線を接続する	2-4
ISDN回線の接続	2-4
CATV/ADSLの接続	2-9
専用線を接続する	2-11
2.3 電源を接続する	2-15
2.4 電話機やFAXを接続する	2-17
バックアップ電池のセット	2-17
電話機やFAXの接続	2-19
通話の確認	2-20
TELポートの設定	2-23
2.5 パソコンを接続する	2-24

第3章 パソコンを設定しよう

3.1 ソフトウェアをインストールする	3-2
Windows 95/98/Me/2000の場合	3-2
MacOSの場合	3-5
3.2 パソコンのネットワーク機能を設定する	3-6
3.3 手動でネットワーク機能を設定する	3-14
Windows 95/98/Meのネットワーク設定	3-14
Windows 2000のネットワーク設定	3-16
MacOSのネットワーク設定	3-19

第4章 ルータを設定しよう

4.1 端末型ダイヤルアップ接続を設定する	4-2
4.2 フレッツ・ISDN接続を設定する	4-9
4.3 CATV/ADSL接続を設定する	4-17
4.4 フレッツ・ADSL接続を設定する	4-23
4.5 専用線接続を設定する	4-30

第5章 ルータを使ってみよう

5.1 RTAssistで操作する	5-2
RTAssistを開く	5-2
RTAssistを閉じる	5-3
手動で接続する	5-4
手動で切断する	5-4
接続状態を確認する	5-5
料金情報を確認する	5-5
ルータ設定や通信記録を保存する	5-6
5.2 インターネット接続を開始する	5-7
自動で接続する	5-7
ボタンで接続する	5-8
5.3 インターネット接続を終了する	5-9
自動で切断する	5-9
ボタンで切断する	5-10
5.4 ルータの動作状態を確認する	5-11
ランプで確認する	5-11
かんたん設定ページで確認する	5-12
5.5 プロバイダ接続を制限する	5-15
5.6 接続制限をリセットする	5-19
5.7 ブザーを止める	5-22
5.8 不審な自動接続が見つかったときは	5-25
通信記録の見かた	5-26
原因になりやすい設定項目	5-28

第6章 USB 接続で使うときは

6.1 USBポートについて	6-2
6.2 USBドライバをインストールする	6-3
Windows 98SEの場合	6-3
Windows Meの場合	6-8
Windows 2000の場合	6-11
MacOS 9の場合	6-14
6.3 TA接続を設定する	6-15
Windows 98SE/Meの場合	6-15
Windows 2000の場合	6-20
MacOS 9の場合	6-27
6.4 擬似LAN接続を設定する	6-31
Windows 98SE/Meの場合	6-31
Windows 2000の場合	6-36
MacOS 9の場合	6-41

第7章 付録

索引	7-2
製品サポートのご案内	巻末

本書の表記について

■ マークの意味

本書では、安全にお使いいただくため、守っていただきたい事項に次のマークを表示しています。必ずお読みください。

 **警告** ・人体に危険を及ぼしたり、装置に大きなダメージを与える可能性があることを示しています。必ず守ってください。

 **注意** ・機能停止を招いたり、各種データを消してしまう可能性があることを示しています。十分注意してください。

MEMO ・操作や運用上に関連した情報です。参考にお読みください。

■ 略称について

本書では、YAMAHA RTA54i のことを本機、Microsoft® Windows® を Windows、Microsoft® Windows NT® を WindowsNT、INS ネット 64 のことを ISDN、10BASE-T ケーブルのことを LAN ケーブルと記述しています。

■ 設定例について

本書に記載されている IP アドレスやドメイン名、URL アドレスなどの設定例は、説明のためのものです。実際に設定するときは、必ずプロバイダから指定されたものをお使いください。

商標について

- ・ イーサネットは富士ゼロックス社の登録商標です。
- ・ Apple、Macintosh、MacOS は米国 Apple 社の登録商標および商標です。
- ・ Microsoft、Windows は米国 Microsoft 社の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Adobe、Acrobat は米国 AdobeSystems 社の登録商標です。
- ・ INS ネット 64 は日本電信電話株式会社の登録商標です。
- ・ Stac LZS は米国 Hi/fn 社の登録商標です。

安全にお使いいただくために

本機を安全にお使いいただくために下記をよくお読みになり、必ず守ってお使いください。



警告

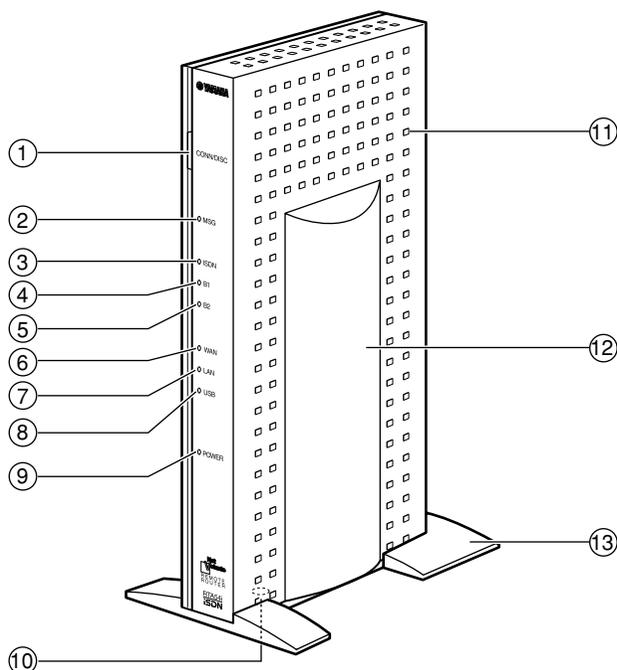
- ・本機は家庭および一般小規模オフィス向けの製品であり、人の生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される分野に適応するには設計されていません。誤って本機を使用した結果、発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・ダイヤルアップルータはプロバイダ接続のために自動的に電話をかける機能を持った装置であり、本機にも自動的に電話をかける機能があります。それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめ製品の機能や動作をよく理解した上でご使用ください。本機の使用方法や設定を誤って使用した結果発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・メール確認や転送を設定すると定期的にインターネットへ自動接続を行うので、それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめご理解いただいた上で、この機能を設定およびご使用ください。
- ・自動接続が設定されている場合、「かんたん設定ページ」の「ネットボランチホームページ」を押すとインターネットへ自動接続します。それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかりますので、あらかじめご理解いただいた上で、この機能をご使用ください。
- ・本機から発煙や異臭がするとき、内部に水分や薬品類が入ったとき、およびACアダプタや電源コードが発熱しているときは、直ちに電源スイッチを切り、ACアダプタをコンセントから抜いてください。そのまま使用を続けると、火災や感電の恐れがあります。
- ・濡れた手でACアダプタや電源コードを触らないでください。感電や故障の恐れがあります。
- ・電源コードを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。火災や感電、故障、ショート、断線の原因となります。
- ・ACアダプタは必ず本機に付属のものをお使いください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因となります。
- ・本機は日本国内用AC100V(50/60Hz)の電源専用です。他の電源で使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- ・本機を落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。内部の部品が破損し、感電や火災、故障の原因となります。
- ・本機を分解したり、改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- ・本機の換気口を塞いだ状態で使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- ・電源を入れたままケーブル類（USBケーブルを除く）を接続しないでください。感電や故障、本機および接続機器の破損の恐れがあります。
- ・乾電池は逆向きに入れたり、充電したり、ショートさせたりしないでください。破裂や液漏れの恐れがあります。
- ・電池を破棄する場合には、端子にテープなどを貼って絶縁してください。他の金属と接触すると発熱や破裂などの原因となります。
- ・アナログポートやISDNポート、USBポートに指や異物を入れないでください。感電や故障、ショートの原因となります。

 **注意**

- ・直射日光や暖房器等の風が当たる場所、温度や湿度が高い場所には、置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- ・極端に低温の場所や温度差が大きい場所、結露が発生しやすい場所で使用しないでください。故障や動作不良の原因となります。結露が発生した場合は、ACアダプタをコンセントから抜き、乾燥させるか、充分室温に慣らしてから使用してください。
- ・ほこりが多い場所や油煙が飛ぶ場所、腐蝕性ガスがかかる場所、磁界が強い場所に置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- ・本機を他の機器と重ねて置かないでください。熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
- ・近くに雷が発生したときは、ACアダプタやケーブル類を取り外し、使用をお控えください。落雷によって火災や故障の原因となることがあります。
- ・本機のアースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。
- ・停電後や長時間電源を切っていた場合には、電池を交換することをお勧めします。また、停電等が発生しなかった場合でも、1年間を目安に電池を交換することをお勧めします。電池から液が漏れて火災やけが、周囲を汚損する原因となることがあります。
- ・本機を修理や移動等の理由により輸送する場合には、必ず本機の設定を保存し、電池をすべて外した状態にしてください。輸送中に電池から液が漏れて、火災やけが、周囲を汚損する原因となることがあります。電池の液漏れによる修理は、保証期間中であっても実費を請求させていただきます。
- ・本機のアナログポートにはモデムを接続して使用することができますが、モデムの最高通信速度で接続できるとは限りません。モデムの通信速度は、その時の通信回線の環境や相手先の機器との組み合わせによって決まりますので、モデムの最高性能よりも遅い速度でしか接続できない場合があります。

各部の名称と機能

前面



① CONN/DISC ボタン

プロバイダへのルータ接続を手動で切断したり、接続するときに押します。(→P.5-8, 5-10)

② MSG ランプ

登録したメールアドレスへメールが着信しているときに、点滅します。(→ P.5-11)

③ ISDN ランプ

ISDN の回線状態を表わすランプです。回線が使用可能なときに点灯します。(→P.2-20, 5-11)

④ B1 ランプ

ISDN B1チャンネルの使用状態を表わすランプです。接続中は点灯、データ通信中は点滅します。(→ P.2-22, 4-35, 5-8, 5-11)

⑤ B2 ランプ

ISDN B2チャンネルの使用状態を表わすランプです。接続中は点灯、データ通信中は点滅します。(→ P.2-22, 4-35, 5-8, 5-11)

⑥ WAN ランプ

WAN ポートの使用状態を表わすランプです。接続中は点灯、通信中は点滅します。(→ P.5-11)

⑦ LAN ランプ

LAN ポートの使用状態を表わすランプです。接続中は点灯、通信中は点滅します。(→ P.2-27, 5-11)

⑧ USB ランプ

USB ポートの使用状態を表わすランプです。接続中は点灯、通信中は点滅します。(→P.5-11)

⑨ POWER ランプ

電源の状態を表わすランプです。電源がオンのときは点灯、停電でバックアップ電源(電池)により動作しているときは点滅します。(→P.2-20, 5-11)

⑩ INIT スイッチ (本機の底面)

このスイッチを押しながら電源スイッチをオンにすると、本機の設定を工場出荷状態に戻すことができます。

⑪ 換気口

内部の熱を逃がすための穴です。

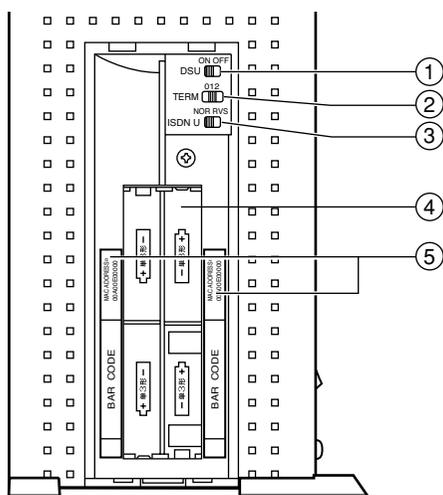
⑫ 電池ボックスカバー

カバー内部に電池ボックスと DSU スイッチ、ターミネータスイッチ、極性反転スイッチがあります。(→ P.2-3)

⑬ スタンド

本機を縦置きで設置するためのスタンドです。取り外して、横置きで設置することも可能です。(→ P.2-2)

電池ボックス内部



① DSU スイッチ

内蔵のDSUを切り離すスイッチです。内蔵のDSUを使うときはON側、使わないときはOFF側にします。(→P.2-5, 2-7, 2-12, 2-13, 2-21)

② ターミネータスイッチ

ISDN機器のターミネータ(終端抵抗)を設定するスイッチです。(→P.2-5, 2-7, 2-12, 2-14, 2-21)

③ 極性反転スイッチ

ISDN Uポートの極性を反転させるスイッチです。(→P.2-21)

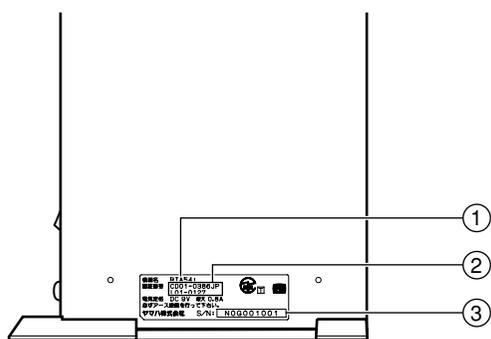
④ 電池ボックス

停電時のバックアップ電源用電池を入れます。停電中でもTEL1ポートに接続したアナログ電話機が使用可能になります。(→P.2-18)

⑤ MAC アドレス

機器固有のネットワーク識別番号です。

左側面



① 機器名

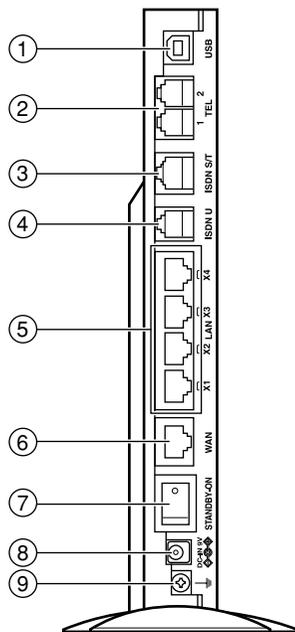
ISDN回線の申し込み時には、ここに表示されている機器名を記入します。(→P.1-3)

② 認証番号

ISDN回線の申し込み時には、ここに表示されている認証番号を記入します。2つとも記入してください。(→P.1-3)

③ シリアル番号

製品を管理/区別するための製造番号です。



① USB ポート

本機をTAとして使う場合に、パソコンのUSBポートとUSBケーブルで接続します。(→P.6-2)

② TEL ポート

アナログの電話機やFAX、モデムを2台まで接続できます。停電時はバックアップ電源により、TEL 1ポートのみ使用可能となります。(→ P.2-19, 2-23)

③ ISDN S/T ポート

ISDN機器を接続するポートです。内蔵のDSUを使わない場合は、このポートとDSUまたはISDN機器をISDNケーブルで接続します。(→ P.2-8, 2-14)

④ ISDN Uポート

ISDN回線や専用線をモジュラーケーブルで接続します。(→ P.2-6, 2-13)

⑤ LAN ポート

パソコンのLANポートまたはHUBのポートをLANケーブルで接続します。各ポート毎に使用状態を表すランプがあり、接続中は点灯、通信中は点滅します。(→ P.2-25)

⑥ WAN ポート

CATVやADSLで接続する場合、ケーブルモデムやADSLモデムをLANケーブルで接続します。(→ P.2-10)

⑦ POWER スイッチ (STANDBY-ON)

電源をオン/オフするスイッチです。(→ P.2-20)

⑧ 電源コネクタ

付属のACアダプタを接続します。(→ P.2-16)

⑨ アース端子

アースコードを接続します。必ず接続してください。(→ P.2-16)

第 1 章

準備しよう

この章では、RTA54i を使う上で必要な契約や準備について説明しています。設置を始める前にお読みになり、必要なものや情報を揃えてください。

1.1	本機の接続方法について	1-2
1.2	回線契約について	1-3
1.3	インターネット接続契約について	1-6
1.4	LAN ポートについて	1-12

1.1 本機の接続方法について

本機は、いろいろな回線やインターネット接続方法に対応しています。本機の接続形態に合わせて、必要な契約を確認してください。

接続形態	回線契約	インターネット接続契約
ISDN回線で電話のみ使用する	ISDN回線	
ISDN回線で必要なときだけインターネットへ接続する	ISDN回線	端末型ダイヤルアップ接続契約 →プロバイダ
フレッツ・ISDNでインターネットへ常時接続する	ISDN回線	フレッツ・ISDN → NTT フレッツ・ISDN接続 → プロバイダ
CATVでインターネットへ常時接続する		CATV接続 → CATV業者
CATVのインターネット常時接続とISDNの電話も使用する	ISDN回線	CATV接続 → CATV業者
ADSLでインターネットへ常時接続する	一般回線	ADSL接続 → プロバイダ
フレッツ・ADSLでインターネットへ常時接続する	一般回線	フレッツ・ADSL → NTT フレッツ・ADSL接続 → プロバイダ
OCNエコノミーなどの専用線でインターネットへ常時接続する	専用線	専用線接続契約 → プロバイダ



注意

- ・CATVまたはADSLの場合、本機をCATVアンテナ線やADSL用の一般回線に直接接続することはできません。必ず、ケーブルモデムまたはADSLモデムに接続してください。

1.2 回線契約について

本機の接続形態に応じて、ISDN回線、一般回線、専用線の契約が必要です。

■ ISDN回線

ISDN回線で電話機を使用したい場合や端末型ダイヤルアップでインターネットへ接続する場合、フレッツ・ISDNで接続する場合は、ISDN回線が必要です。これからISDN回線を引く場合は、NTTへお申し込みください。

申込票の各項目は、下記を参考に記入してください。

お取付工事

・通信機器の名称	RTA54i
・メーカー	YAMAHA
・認証番号	CD01-0386JP L01-0127
・DSU	DSU内蔵型 TA お客さま工事、またはNTT工事

コンサルティング項目

・インタフェース形態	
およびレイヤ1起動種別	P-MP常時またはP-MP呼毎
・発信者番号通知サービス	通常通知（通話ごと非通知）*
・ユーザ間情報通知サービス	着信許可
・通信中着信通知サービス	許可
・グローバル着信	有
・i・ナンバーサービス	※複数の電話番号を取得したい場合（3つまで）
・ダイヤルインサービス	※4つ以上の電話番号を取得したい場合

*「通常非通知（回線ごと非通知）」を選択した場合は、番号通知を利用した一部のサービスが受けられない場合があります。

MEMO

- ・コンサルティング項目の無料項目については、なるべく「許可」で申し込むことをお勧めします。実際に使うときの動作は、本機の機能で使わないように設定することができます。
- ・電池駆動時の電池節約のために、「インタフェース形態およびレイヤ1起動種別」はP-MP呼毎で申し込むことをお勧めします。

■ 一般回線

ADSL 接続やフレッツ・ADSL 接続でインターネットへ接続する場合は、一般回線（アナログ回線）が必要です。一般回線をお使いの場合は、そのまま利用できます。すでに ISDN 回線をお使いの場合は、一般回線に戻す工事、または別途一般回線が必要になります。

また回線環境によっては、ADSL 接続が利用できない場合もあります。利用の可否については、ADSL 接続対応プロバイダにご相談ください。回線環境を調査してもらえます。



注意

- ・一般回線の場合は、絶対に本機の U ポートや TEL ポートへ回線を接続しないでください。一般回線では、本機の TEL ポートや電話機能を使用することはできません。

■ 専用線

専用線を利用する場合は、いずれかのプロバイダに専用線接続サービスをお申し込みください。OCN エコノミーやデジタルアクセス 64 / 128 などの申し込みも一緒に手配されます。

専用線では、一般の電話や FAX の発着信をすることはできません。詳しくは、各プロバイダへご相談ください。

申込票の各項目には、下記を参考に記入してください。

・通信機器の名称	RTA54i
・メーカー	YAMAHA
・認証番号	CD01-0386JP L01-0127

■ ISDNの付加サービスについて

ISDN回線では、次のようなサービスが利用できます。サービスによって申し込みが必要なものや有料のものがあります。この他にもさまざまなサービスがありますので、詳しくはNTTへお問い合わせください。

発信者番号通知：	発信者の番号を相手に通知できます。
サブアドレス通知：	ISDN回線やPHSからの通話の場合に、接続した機器を指定して着信させることができます。
ナンバー・ディスプレイ（有料）： i・ナンバー（有料）：	着信時に発信者の番号が通知されるサービスです。電話番号を最大2つまで増設でき、アナログ回線からの通話でも最大3つの電話番号を使い分けて着信させることができます。
ダイヤルイン（有料）：	電話番号を最大99個まで増設できます。アナログ回線からの通話でも電話番号を使い分けて着信させることができます。
料金情報通知：	通話にかかった料金が通知されるサービスです。回線から通知される料金は、小数点以下が切り上げられたり、各種割引サービスが適用されないことなどにより、実際に請求される料金と異なる場合があります。あくまで目安とと考えてください。また、NTT以外の通信業者では通知されません。
ユーザ間情報通知：	通信開始時と終了時にメッセージを送受信できます。
通話中着信通知サービス：	通話中に着信を知らせるサービスです。
[フレックスホン]	
INS キャッチホン（有料）：	通話中に着信があったとき、通話中の相手を保留にして着信に応答できるキャッチホンサービスです。
三者通話（有料）：	通話中に第三者を呼び出し、三者間通話ができます。
通話中転送（有料）：	通話中の通信を第三者へ転送できます。
着信転送（有料）：	着信した通信を応答する前に第三者へ転送できます。

MEMO

- ・本機では、フレックスホンとほぼ同等の機能を本機だけで実現することができます。フレックスホン同様に4つのサービスの先頭に「擬似」を付けて、擬似キャッチホン、擬似通話中転送、擬似三者通話、擬似着信転送と呼んで区別しています。
- ・NTTのフレックスホンでは交換機がサービスを行うので、回線の状態にかかわらず利用することができます。
- ・擬似フレックスホンでは、ISDN回線の2チャンネル同時に通信できる特徴を利用して、擬似的に同等の機能を実現しています。したがって、擬似フレックスホン機能が働いている時は、2チャンネル共に通話中となり、それに伴った課金が行われます。また、インターネット接続などで既に1チャンネルを接続している状態では擬似フレックスホン機能を使用することはできません。

1.3 インターネット接続契約について

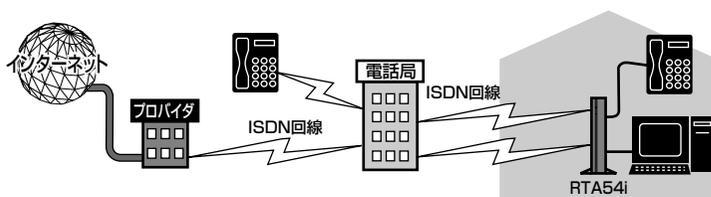
インターネットへ接続するためには、本機の接続形態に応じていずれかのプロバイダとの接続契約が必要です。



注意

- ・プロバイダを変更したり、解約したときは、必ず本機から不要な設定を削除してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない課金を請求される場合があります。
- ・RTA54i をルータとしてご使用になる前、もしくは新たにプロバイダ契約を行う前に、必ずプロバイダの契約上ルータによる複数台のパソコン接続が可能であることを確認してください。プロバイダによっては禁止もしくは別の契約が必要な場合があります。契約に違反して本機を使用すると、予想外の料金を請求される場合があります。使用できない場合は、必要な契約を行うか、使用可能な他のプロバイダと契約してください。

■ 端末型ダイヤルアップ接続契約



端末型ダイヤルアップ接続は、必要なときだけ電話をかけてインターネットへ接続する方法です。すでにモデムを使ってインターネットへ接続していた場合以下の条件を満たしていれば、同じ契約のまま本機を使用することができます。まだ、契約していない場合は、いずれかのプロバイダにお申し込みください。

●必要な条件

- プロバイダに ISDN 対応のアクセスポイント電話番号があること。
- プロバイダがダイヤルアップルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

●必要な契約

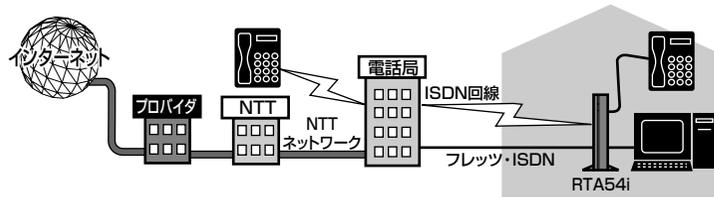
- 「端末型ダイヤルアップ接続」契約（→プロバイダ）

設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

●プロバイダから通知される情報

- ネームサーバアドレス（DNS サーバアドレス）
- ISDN 対応アクセスポイントの電話番号
- 回線速度（64kbit/s、128kbit/s MP 接続）
- ユーザ ID（アカウント名）
- パスワード

■ フレッツ・ISDN 接続契約



フレッツ・ISDN 接続は、ISDN 回線の 1 チャンネルを使ってインターネットへ常時接続する方法です。お住まいの地域の電話局がフレッツ・ISDN に対応していれば、利用できます。NTT と「フレッツ・ISDN」契約を行った後、フレッツ・ISDN 対応プロバイダに「フレッツ・ISDN 接続」の契約をお申し込みください。

●必要な条件

- ISDN 回線を接続している電話局がフレッツ・ISDN に対応していること。
- プロバイダがルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

●必要な契約

- 「フレッツ・ISDN」契約 (→ NTT)
- 「フレッツ・ISDN 接続」契約 (→ フレッツ・ISDN 接続対応のプロバイダ)

設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

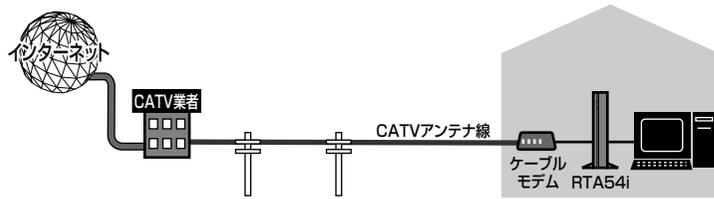
●NTT から通知される情報

- フレッツ・ISDN 用アクセスポイントの電話番号

●プロバイダから通知される情報

- ネームサーバアドレス (DNS サーバアドレス)
- ユーザ ID (アカウント名)
- パスワード

CATV（ケーブルテレビ）接続契約



CATV接続は、電話回線を使わずにCATVのアンテナ線でインターネットへ常時接続する方法です。お住まいの地域にCATV業者があって、以下の条件を満たしていれば利用できます。ケーブルモデムは別途ご用意ください。お申し込みについては、お住まいの地域のCATV業者にお問い合わせください。

●必要な条件

- お住まいの地域にCATV業者があり、インターネット接続サービスを提供していること。
- 建物のアンテナ設備がCATVインターネット接続に対応できること。
- CATV業者がルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

●必要な契約

- 「ルータを使用した複数台接続可能なCATVインターネット接続」契約（→CATV業者）

設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

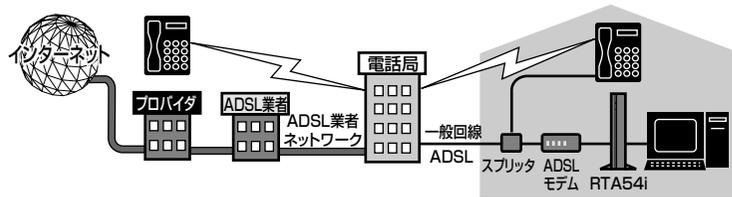
●CATV業者から通知される情報

- ネームサーバアドレス（DNSサーバアドレス）
- IPアドレス
- ネットマスク

⚠注意

- ・CATV業者から通知されるIPアドレスが下記のプライベートIPアドレスの範囲に含まれる時は、ファイアウォールでのセキュリティフィルタの設定変更が必要な場合があります。（→P.4-22）
10.0.0.0～10.255.255.255
172.16.0.0～172.31.255.255
192.168.0.0～192.168.255.255

■ ADSL 接続契約



ADSL 接続は、一般回線の銅線を使い、ADSL 業者のネットワークを経由して高速にインターネットへ常時接続する方法です。お住まいの地域の電話局が ADSL 接続に対応していて、以下の条件を満たしていれば利用できます。スプリッタや ADSL モデムは別途ご用意ください。お申し込みや接続の可否については、ADSL 接続対応プロバイダにお問い合わせください。

●必要な条件

- お住まいの地域の電話局が ADSL 接続に対応していること。
- 電話局からお宅までの配線が、ADSL 接続に対応していること。
ADSL 接続の可否はプロバイダに申し込むと NTT に調査してもらえます。
- LAN 接続の ADSL モデムが使えること。(USB 接続の ADSL モデムは不可)
- プロバイダがルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

●必要な契約

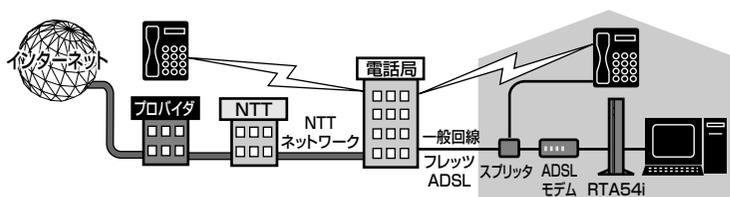
- 「ADSL 接続 (LAN 接続タイプ)」 契約 (→ ADSL 接続対応のプロバイダ)

設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

●プロバイダから通知される情報

- ネームサーバアドレス (DNS サーバアドレス)
- ユーザ ID (PPPoE 方式 ADSL 接続の場合のみ)
- パスワード (PPPoE 方式 ADSL 接続の場合のみ)

■ フレッツ・ADSL 接続契約



フレッツ・ADSL 接続は、一般回線の銅線を使い、NTTのネットワークを経由して高速にインターネットへ常時接続する方法です。お住まいの地域の電話局がADSL接続に対応していて、以下の条件を満たしていれば利用できます。スプリッタやADSLモデムは別途ご用意ください。お申し込みや接続の可否については、NTTにお問い合わせください。

●必要な条件

- お住まいの地域の電話局がADSL接続に対応していること。
- 電話局からお宅までの配線が、ADSL接続に対応していること。
ADSL接続の可否はプロバイダに申し込むとNTTに調査してもらえます。
- LAN接続のADSLモデムが使えること。(USB接続のADSLモデムは不可)
- プロバイダがルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

●必要な契約

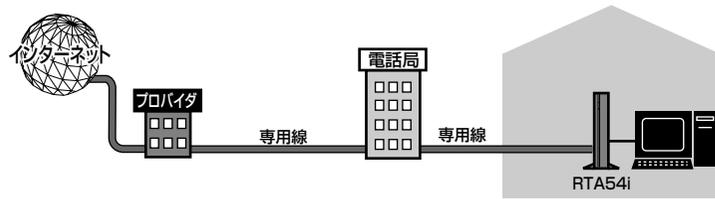
- 「フレッツ・ADSL」契約 (→NTT)
- 「フレッツ・ADSL接続 (LAN接続タイプ)」契約
(→フレッツ・ADSL接続対応のプロバイダ)

設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

●プロバイダから通知される情報

- ネームサーバアドレス (DNSサーバアドレス)
- ユーザID
- パスワード

■ 専用線接続契約



専用線接続は、インターネット接続専用の回線を引いて常時接続する方法です。OCNエコノミーやデジタルアクセス64などいろいろな専用線サービスがあり、本機はデジタル回線を使った専用線接続でお使いいただけます。常時接続できる他、グローバルIPアドレスを取得できるので、インターネットに常時公開するサーバを設置することが可能です。お申し込みについては、専用線接続対応のプロバイダにお問い合わせください。

●必要な契約

- 「専用線接続」契約（→専用線接続対応のプロバイダ）

設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

●プロバイダから通知される情報

- ネームサーバアドレス（DNSアドレス）
- IPアドレス番号（例：133.176.200.112）
- ネットマスク（例：255.255.255.240）
- 回線速度（64kbit/s、128kbit/s）

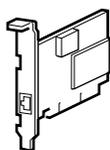
1.4 LANポートについて

本機をLAN接続で使う場合は、パソコンにLANポート（10BASE-Tポート）が必要です。お使いのパソコンにLANポートがない場合は、本機の設置を始める前に、10BASE-T対応LANボードまたは10BASE-T対応LANカード（PCカード）を取り付けて、LANポートを増設してください。

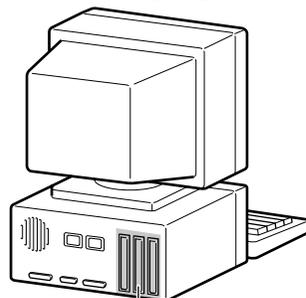
取り付け後は、LANボード/カードのマニュアルにしたがって、正常に動作することを確認してください。もし、正常に動作していない場合は、先にLANボード/カードの問題を解決してから、本機の設置を行ってください。

■ デスクトップ型やタワー型パソコンの場合

デスクトップ型やタワー型パソコンの場合は、拡張スロットにLANボードを取り付けます。スロットには、PCIやISAなどの種類があるので、お使いのパソコンで空いているスロットの種類を調べてから、対応したLANボードを取り付けてください。



LANボード



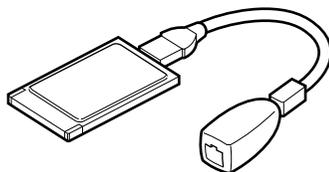
拡張スロット

● 購入時のチェックポイント

- ・ OSの種類（Windows95/98/Me/2000、MacOS など）
- ・ スロットの種類（PCI、ISA、Cバス、Nubus など）
- ・ コネクタの種類（10BASE-T または 10BASE-T/100BASE-TX）

■ ノート型パソコンの場合

ノート型パソコンの場合は、PCカードスロットにLANカードを取り付けます。PCカードスロットの規格や添付ソフトに種類があるので、お使いのパソコンに対応したPCカード型LANカードを取り付けてください。



LANカード

● 購入時のチェックポイント

- ・ OSの種類（Windows95/98/Me/2000、MacOS など）
- ・ PCカードスロットの種類（CardBus、PCMCIA Type I/Type II/Type III）
- ・ コネクタの種類（10BASE-T または 10BASE-T/100BASE-TX）

第2章

ルータを設置しよう

この章では、RTA54i の設置方法について説明しています。

2-1～2-3 の手順に従って設置を行い、ISDN 回線の場合は2-4 の手順で電話機の設置と確認を行います。インターネットに接続する場合は、2-5 の手順でパソコンと接続します。本機各部の名称と機能については「各部の名称と機能」(→P.7) をご覧ください。

2.1	ルータを設置する	2-2
	設置のしかた	2-2
2.2	回線を接続する	2-4
	ISDN 回線の接続	2-4
	CATV/ADSL の接続	2-9
	専用線を接続する	2-11
2.3	電源を接続する	2-15
2.4	電話機やFAXを接続する	2-17
	バックアップ電池のセット	2-17
	電話機やFAXの接続	2-19
	通話の確認	2-20
	TEL ポートの設定	2-23
2.5	パソコンを接続する	2-24

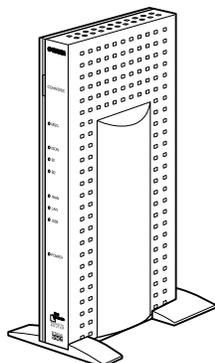
2.1 ルータを設置する

設置のしかた

本機には脱着可能なスタンドが付属しており、縦置きでも、横置きでも設置することができます。

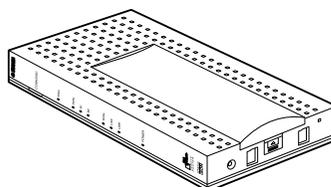
●縦置きの場合

スタンドを取り付けて設置します。



●横置きの場合

スタンドを取り外して設置します。



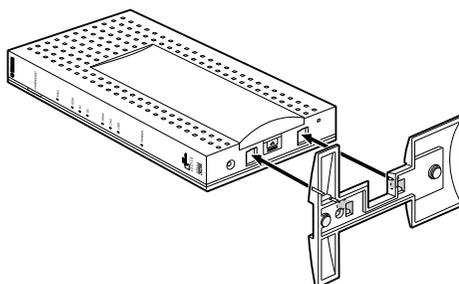
注意

- ・風通しのよい場所を選び、換気口をふさがないように設置してください。
- ・放熱する機器の上には乗せないでください。

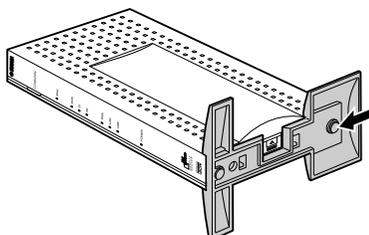
■ スタンドの取り付けかた

縦置きで設置するときは、次の手順でルータ本体にスタンドを取り付けます。

- 1 ルータ本体を持ち、スタンドの突起をルータ本体底面の穴に合わせて差し込みます。足の細長い方が前側になるように差し込んでください。



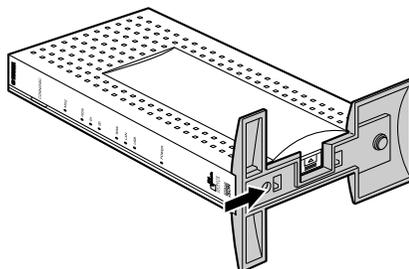
- 2 スタンドを図の方向にスライドさせてロックします。



■ スタンドの取り外しかた

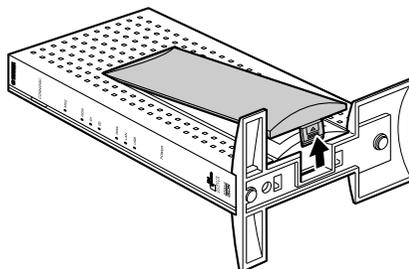
横置きで設置するときは、次の手順でルータ本体からスタンドを取り外します。

- 1 ルータ本体を持ち、底面のスタンドを図の方向にスライドさせて取り外します。



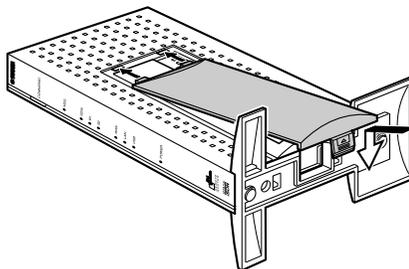
■ 電池ボックスカバーの取り外しかた

- 1 図の方向に押し開きます。



■ 電池ボックスカバーの取り付けかた

- 1 上部のツメを合わせ、図の方向に閉じます。



2.2 回線を接続する

本機は、ISDN回線や専用線、CATV/ADSL接続に対応しています。接続形態に合わせて、回線を接続してください。

2

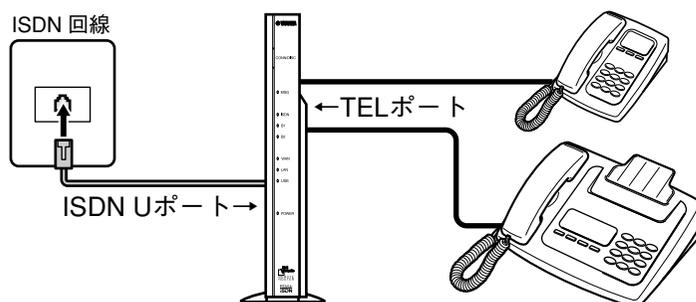
ルータを設置しよう

ISDN回線の接続

ISDN回線で電話機や端末型ダイヤルアップ接続、フレッツ・ISDN接続、TA接続の場合は、以下の方法で接続します。本機のDSUを使用するかどうかによって作業が異なりますので、ISDN回線の申込票をご確認の上、該当する方法で接続してください。

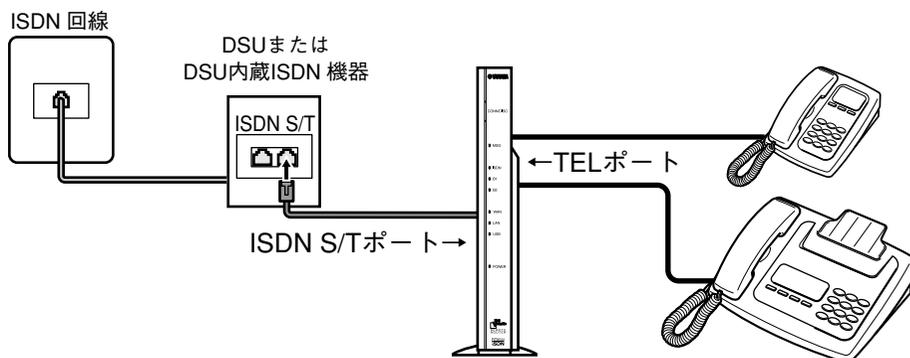
●本機のDSUを使う場合

- ・申込票の「DSU」項目で、「DSU内蔵TA」を選択したとき
- ・工事後のISDN回線が、通常のもジュラージャックと同じ形（6極端子）をしているとき



●他のISDN機器のDSUを使う場合

- ・申込票の「DSU」項目で、「NTT工事」を選択したとき
- ・工事後のISDN回線が、通常のもジュラージャックより幅の広い形（8極端子）をしているとき
- ・他のISDN機器やDSUと接続するとき



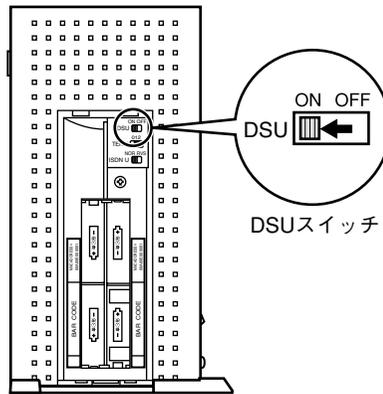
■ 本機の DSU を使う場合

●必要なもの

- モジュラーケーブル 一般に市販の電話用ケーブル（2極用、4極用、6極用のいずれでも可、ただしビジネスホン専用の特殊な結線のもの除く）が使用できます。接続に必要な距離に合わせてご用意ください。本機には1本（3m）付属しています。

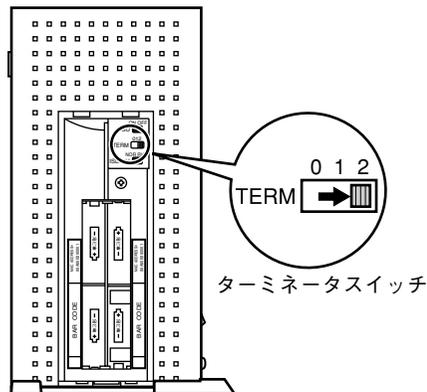
●接続のしかた

- 1 電池ボックスカバーを取り外して、DSUスイッチを「ON」側にします。

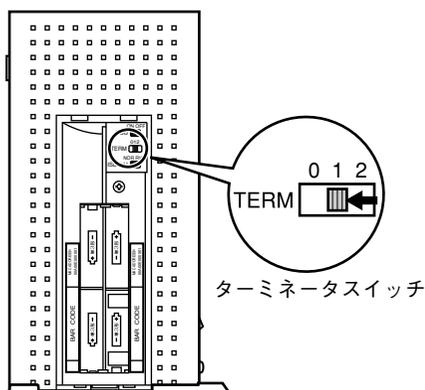


- 2 ターミネータスイッチを以下のように設定します。

本機の ISDN S/T ポートに何も接続しない場合は、ターミネータスイッチを「2」にします。



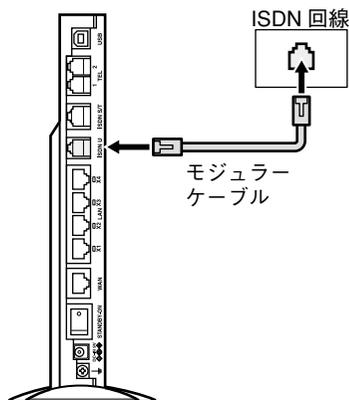
本機のISDN S/Tポートに他のISDN機器を接続する場合は、ターミネータスイッチを「1」にします。



S/Tポートに接続した場合は、一番末端に接続したISDN機器のターミネータをオン（有効）にしてください。

3 電池ボックスカバーを取り付けます。

4 回線のモジュージャックと本機のISDN Uポートをモジュラーケーブル（灰色）で接続します。



MEMO

- ・ ISDN回線の場合は、本機のS/Tポートに他のISDN機器を接続して使うことが可能です。ただし、DSU切り離しのできない他のDSU内蔵機器がある場合は、次ページの手順で、その機器のDSUを使って接続してください。

■ 他の ISDN 機器の DSU を使う場合

複数の ISDN 機器を接続する場合は、本機が一番末端になるように接続します。

●必要なもの

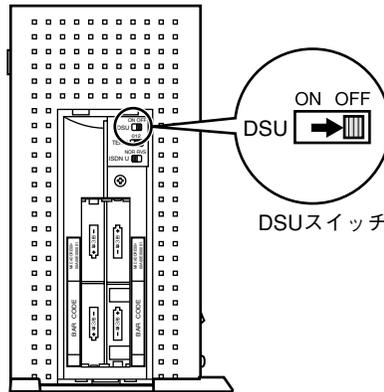
- ISDN ケーブル 市販の ISDN ケーブルをご用意ください。ただし、DSU や各 ISDN 機器間の総延長が 150m 以内になるようにしてください。

MEMO

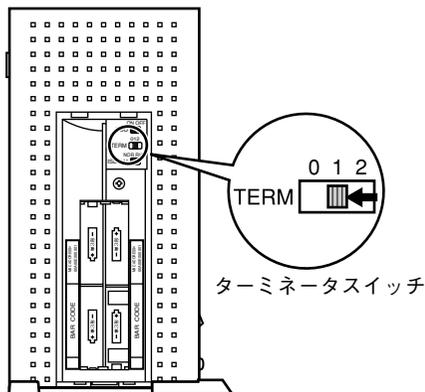
・ ISDN ケーブルは、LAN ケーブルのコネクタ (RJ-45) と同じ形状をしています。間違えないように注意してください。

●接続のしかた

- 1 電池ボックスカバーを取り外して、DSU スイッチを「OFF」側にします。



- 2 ターミネータスイッチを「1」に設定します。

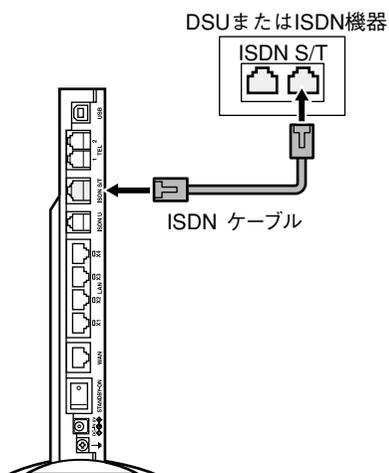


MEMO

・ 他の ISDN 機器のターミネータをオン (有効) にする場合は、本機のターミネータスイッチを「0」にしてください。

3 電池ボックスカバーを取り付けます。

4 DSU（または ISDN 機器の S/T ポート）と本機の ISDN S/T ポートを ISDN ケーブルで接続します。



スイッチ設定一覧

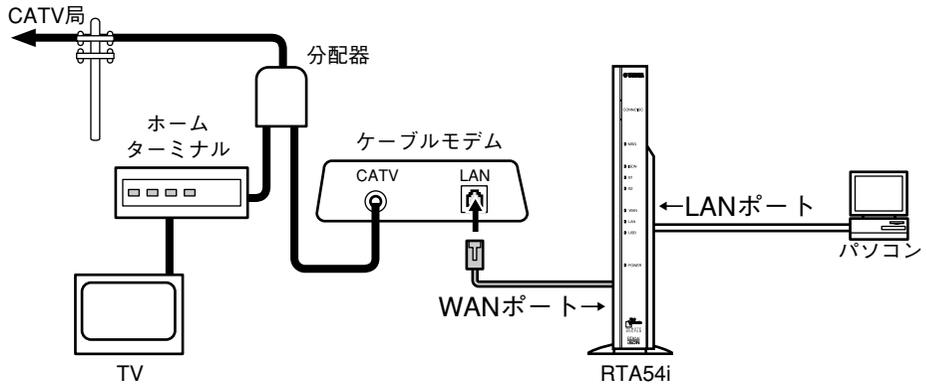
設置条件		スイッチの設定	
本機の DSU	本機のターミネータ	DSU スイッチ	ターミネータスイッチ
使用する	使用する	DSU <input type="checkbox"/> ON <input checked="" type="checkbox"/> OFF	TERM <input checked="" type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2
使用する	使用しない (他の機器でターミネート)	DSU <input type="checkbox"/> ON <input checked="" type="checkbox"/> OFF	TERM <input type="checkbox"/> 0 <input checked="" type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2
使用しない	使用する	DSU <input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	TERM <input type="checkbox"/> 0 <input checked="" type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2
使用しない	使用しない (他の機器でターミネート)	DSU <input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="checkbox"/> OFF	TERM <input type="checkbox"/> 0 <input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2

※これ以外の設定をしないでください。

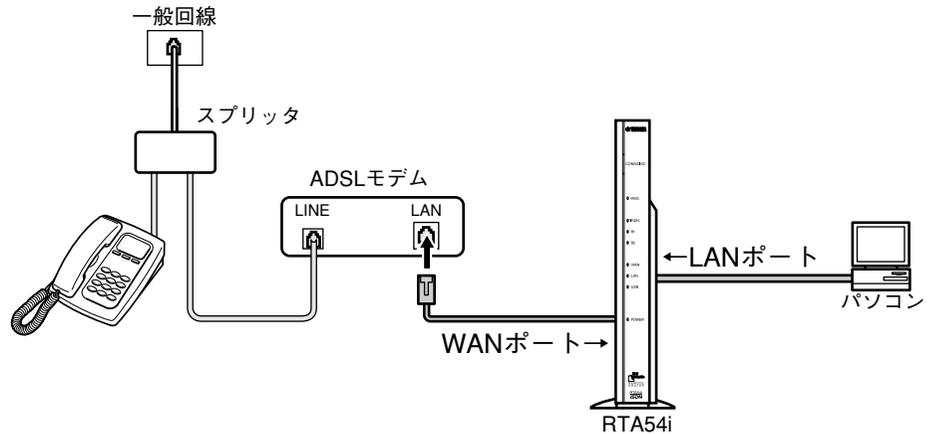
CATV/ADSLの接続

CATV接続やADSL接続、フレッツ・ADSL接続での場合は、以下の方法で本機のWANポートにケーブルモデムまたはADSLモデムを接続します。ケーブルモデムやADSLモデムの設置は、業者が行う場合とユーザーが行う場合があります。各業者の指示に従って設置してください。

●CATV接続の場合



●ADSL接続／フレッツ・ADSL接続の場合



注意

・CATVまたはADSLの場合、本機をCATVアンテナ線やADSL用の一般回線に直接接続することはできません。必ず、ケーブルモデムまたはADSLモデムに接続してください。

■ 必要なもの

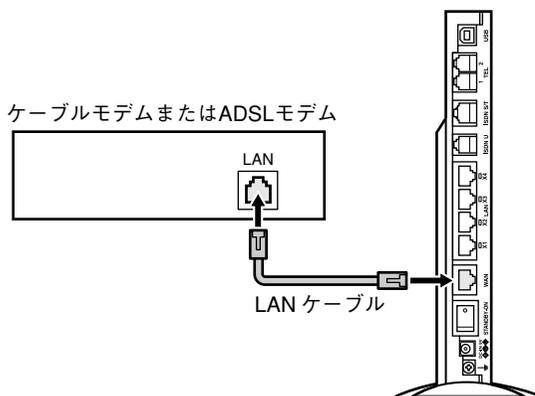
- LAN ケーブル 本機の WAN ポートは、パソコンの LAN ポートと同じ扱いで、ケーブルモデムや ADSL モデムを接続できます。ケーブルモデムや ADSL モデムの種類に合わせてストレートタイプまたはクロスタイプの LAN ケーブルをご用意ください。(ケーブルモデムや ADSL モデムに付属している場合があります。)

MEMO

- ・ ケーブルモデムや ADSL モデムとパソコンをストレートケーブルで接続するように指示されている場合は、本機の WAN ポートへの接続もストレートケーブルを使用します。
- ・ ケーブルモデムや ADSL モデムとパソコンをクロスケーブルで接続するように指示されている場合は、本機の WAN ポートへの接続もクロスケーブルを使用します。

■ 接続のしかた

- 1 ケーブルモデムまたは ADSL モデムの LAN ポートと本機の WAN ポートを LAN ケーブルで接続します。



MEMO

- ・ ISDN 回線を接続しない場合は、TEL ポート間の内線通話以外で TEL ポートにアナログ機器（電話機、FAX、モデムなど）を接続して使うことはできません。

専用線を接続する

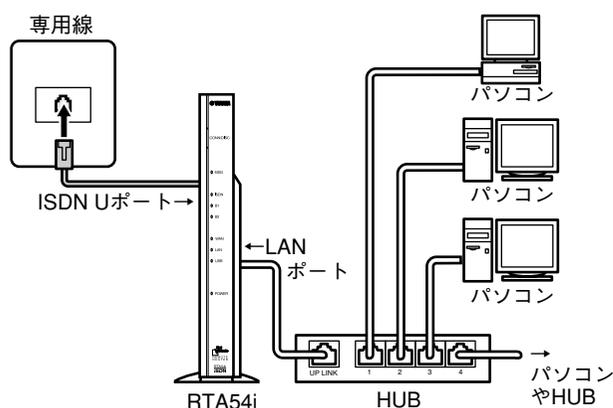
OCNエコノミーやデジタルアクセス64などの専用線を利用する場合は、以下の方法で接続します。本機のDSUを利用するかどうかによって作業が異なりますので、申込票をご確認の上、該当する方法で接続してください。

MEMO

- ・専用線の場合は、TELポート間の内線通話以外でTELポートにアナログ機器（電話機、FAX、モデムなど）を接続して使うことはできません。
- ・専用線の場合は、他のISDN機器をS/Tポートに接続して使うことはできません。

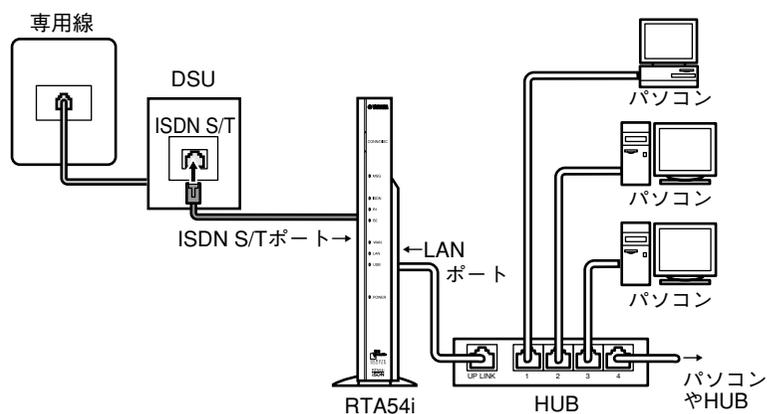
●本機のDSUを使う場合

- ・専用線申込票の「DSU」項目で、本機内蔵のDSU使用で申し込んだとき
- ・工事後の専用線が、通常のもジュラーjackと同じ形（6極端子）をしているとき



●他のDSUを使う場合

- ・専用線申込票の「DSU」項目で、回線業者のDSU使用で申し込んだとき
- ・工事後の専用線が、通常のもジュラーjackより幅の広い形（8極端子）をしているとき



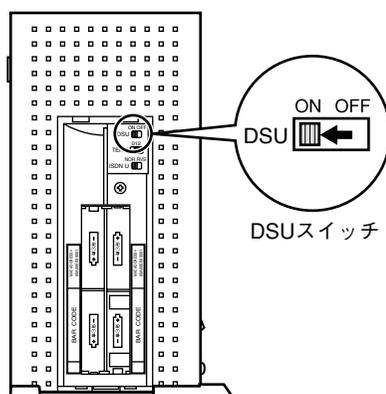
■ 本機の DSU を使う場合

●必要なもの

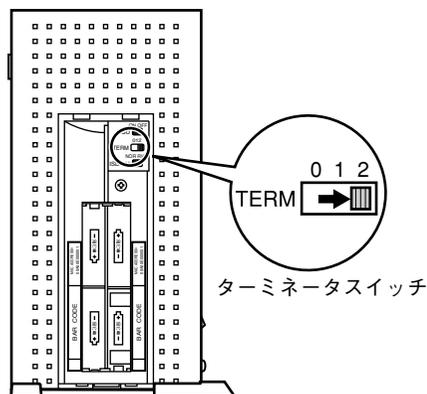
- モジュラーケーブル 一般に市販の電話用ケーブル（2極用、4極用、6極用のいずれでも可、ただしビジネスホン専用の特殊な結線のもの除く）が使用できます。接続に必要な距離に合わせてご用意ください。本機には1本（3 m）付属しています。

●接続のしかた

- 1 電池ボックスカバーを取り外して、DSUスイッチを「ON」側にします。

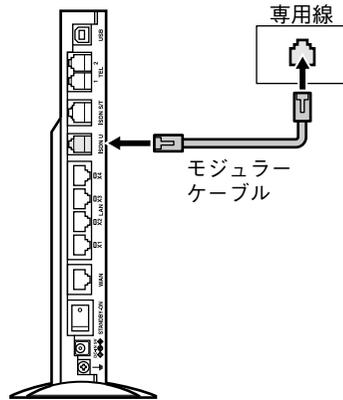


- 2 ターミネータスイッチを「2」に設定します。



- 3 電池ボックスカバーを取り付けます。

- 4 専用線のモジュージャックと本機のISDN Uポートをモジュラーケーブル(灰色)で接続します。



- 注意** ・専用線の場合は、ISDN S/Tポートは使用できませんので、機器を接続しないでください。

■ 他のDSUを使う場合

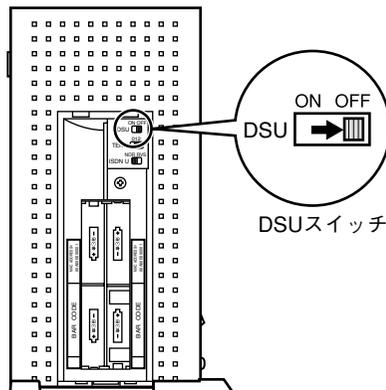
●必要なもの

- ISDN ケーブル 市販のISDNケーブルをご用意ください。ただし、DSUまで総延長が150m以内になるようにしてください。

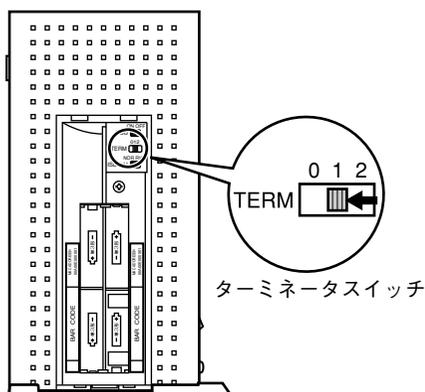
- MEMO** ・ISDNケーブルは、LANケーブルのコネクタ(RJ-45)と同じ形状をしています。間違えないように注意してください。

●接続のしかた

- 1 電池ボックスカバーを取り外して、DSUスイッチを「OFF」側にします。

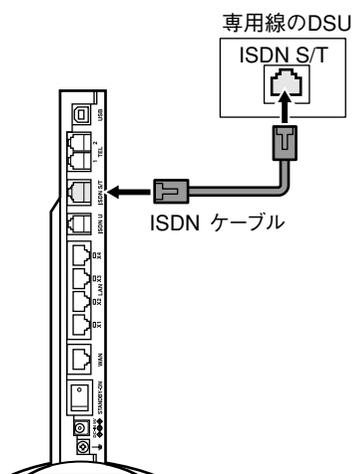


2 ターミネータスイッチを「1」に設定します。



3 電池ボックスカバーを取り付けます。

4 専用線のDSUと本機のISDN S/TポートをISDNケーブルで接続します。



スイッチ設定一覧

設置条件		スイッチの設定	
本機のDSU	本機のターミネータ	DSUスイッチ	ターミネータスイッチ
使用する	使用する	ON OFF DSU	TERM
使用しない	使用する	ON OFF DSU	TERM

※これ以外の設定をしないでください。

2.3 電源を接続する

本機を使用するときは、アースコードと付属のACアダプタをコンセントに接続します。



注意

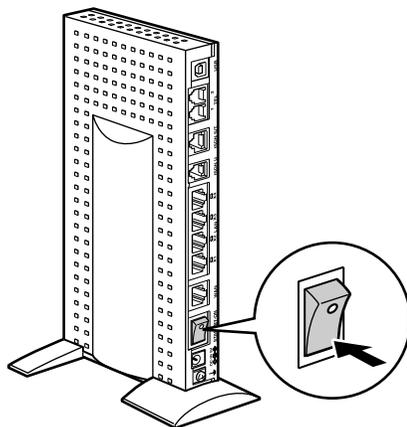
- ・ ACアダプタは、必ず本機に付属のものを使用してください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- ・ 本機のアースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。
- ・ アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

■ 必要なもの

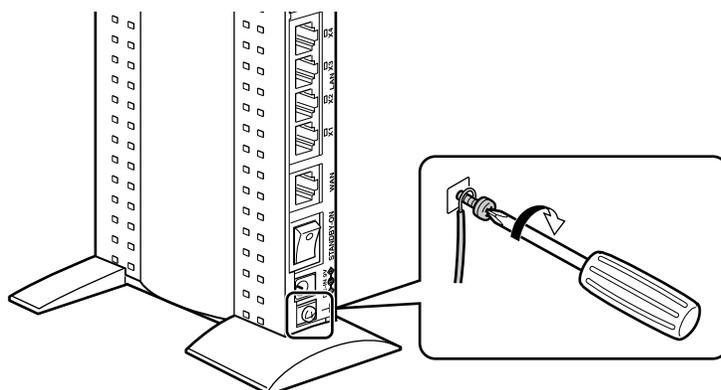
- アースコード 設置場所に合わせて市販のアースコードをご用意ください。
- ACアダプタ 本機に付属のACアダプタをご使用ください。

■ 接続のしかた

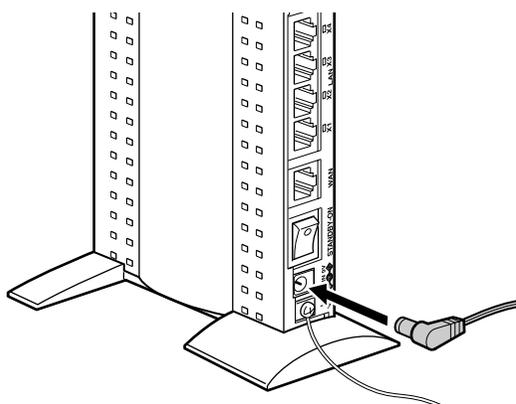
- 1 POWERスイッチをオフにします。



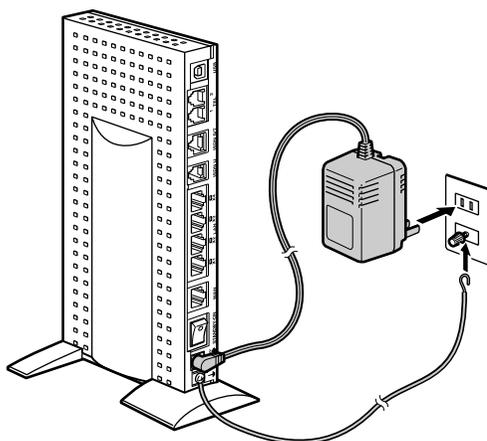
- 2** アース端子のネジを⊕ドライバーで緩め、アースコードをアース端子に接続して固定します。



- 3** 付属の AC アダプタのコネクタを本機の電源コネクタに接続します。



- 4** アースコードと付属の AC アダプタをコンセントに接続します。



2.4 電話機やFAXを接続する

本機にISDN回線を接続している場合は、本機のTELポートに電話機やFAX、モデムなどのアナログ機器を接続して使うことができます。TEL1ポートは、バックアップ電池により停電時も通話が可能です。

バックアップ電池のセット

本機はアルカリ乾電池を入れることにより、停電でも約2時間TEL1ポートに接続したアナログ電話機で通話できるようになります。

注意 ・電池駆動時には、ルータやTA機能、TEL2ポートは使用できません。

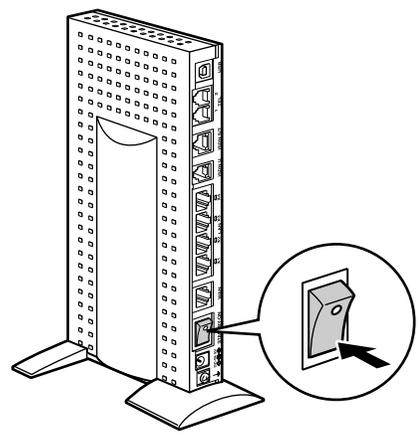
MEMO ・停電以外の時は、乾電池を入れなくても本機を使用できます。
・本機を専用線で使用する場合やISDN回線に接続せずに使用する場合は、乾電池は不要です。

必要なもの

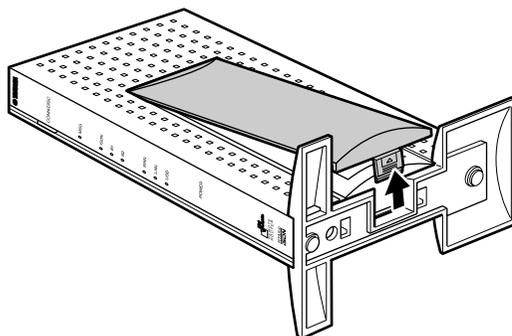
- 乾電池 同一銘柄で 保証期間内の新品単3形アルカリ乾電池を4本ご用意ください。

乾電池の入れかた

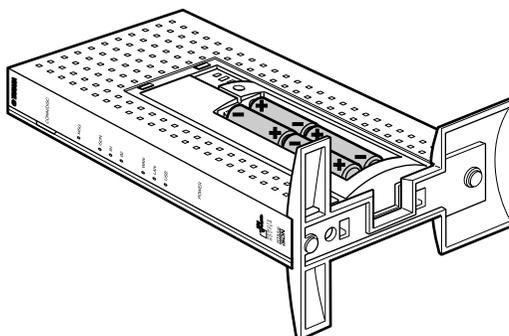
1 POWERスイッチをオフにし、付属のACアダプタをコンセントから取り外します。



2 電池ボックスカバーを図の方向に押し開きます。



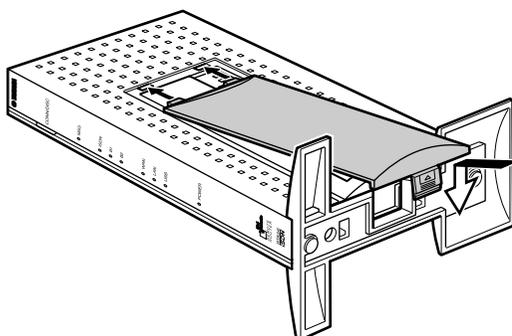
3 乾電池を図の方向にセットします。



警告

・乾電池を入れるときには、電池のプラス (+) マイナス (-) を本体の表示に合わせてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・化学やけどや周囲を汚損する原因となることがあります。

4 電池ボックスカバーを閉じます。



電話機やFAXの接続

ISDN回線の場合は、本機のTELポートに電話機やFAX、モデムなどのアナログ機器を2台まで接続できます。TEL1ポートは、バックアップ電池により停電時にも通話が可能になるので、電話機や受話器付FAXを接続してください。

MEMO

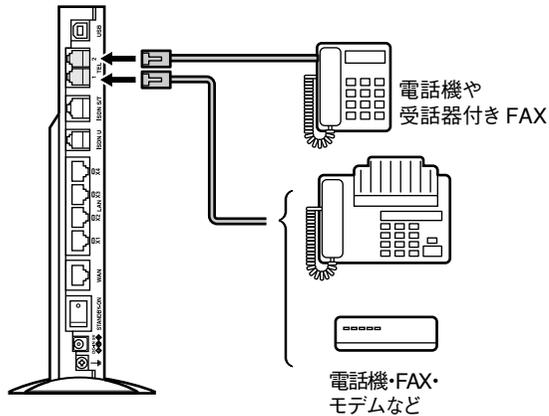
- ・各TELポートにはアナログ機器1台のみ接続可能です。分岐アダプタや切替器などで2台以上接続した場合は正しく動作しません。
- ・アナログ機器は2台まで接続できますが、ISDN回線を同時に使えるのはルータやTAによる通信と合わせて2通話までです。

■ 必要なもの

- モジュラーケーブル 市販の電話用ケーブル（2極用、4極用、6極用のいずれでも可、ただしビジネスホン専用の特殊な結線のものとは除く）が使用できます。アナログ機器の数や距離に合わせてご用意ください。

■ 接続のしかた

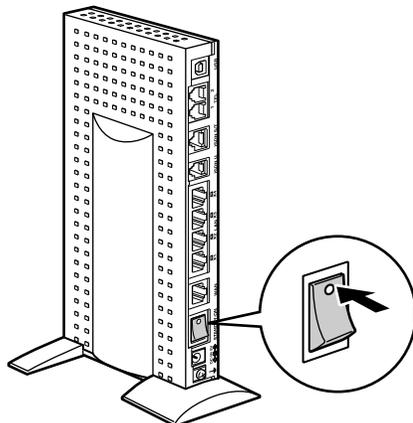
- 1 電話機と本機のTELポートをモジュラーケーブルで接続します。



通話の確認

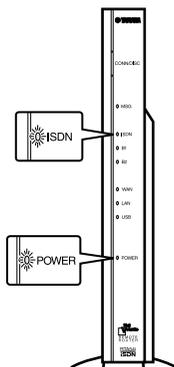
回線や電話機の接続が終わったら、ルータの動作を確認します。

- 1 付属の AC アダプタをコンセントに接続し、POWER スイッチをオンにします。



電源をオンにすると、ランプが何回か点滅します。

- 2 POWER ランプと ISDN ランプが点灯していることを確認します。



両方のランプが点灯していれば正常です。手順 6 へ進んでください。
点灯していないときは次の手順へ進み、順に確認してください。

- 3 POWER ランプが消灯している場合は、一旦 POWER スイッチをオフにし、次のことを確認します。

● AC アダプタの接続状態

コネクタやコンセントにしっかりと接続されていることを確認してください。

● コンセントの通電状態

コンセントに他の電気製品を接続し、電源が入るかを確認してください。入らない場合は、ブレーカ状態や延長コードの接続を確認してください。

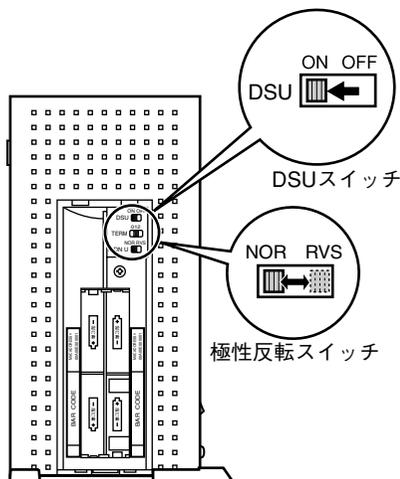
上記に該当しない場合は、ルータ本体または AC アダプタ不良の可能性がありますので、お買い上げの販売店へご相談ください。

4 ISDNランプが消灯している場合は、一旦POWERスイッチをオフにし、各スイッチの設定を確認します。

●本機のDSUを使う場合

電池ボックスカバーを取り外し、DSUスイッチが「ON」側になっていることを確認します。すでに「ON」側になっている場合は、極性反転スイッチを逆側にします。

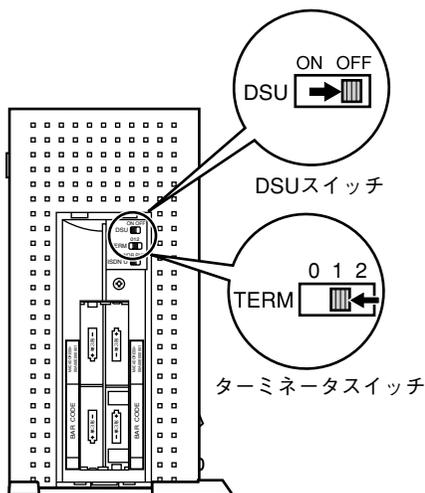
本機のS/Tポートに何も接続していない場合はターミネータスイッチを「2」、他のISDN機器を接続している場合は「1」にします。



●他のISDN機器のDSUを使う場合

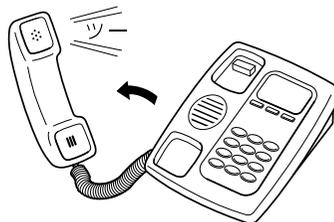
電池ボックスカバーを取り外し、DSUスイッチが「OFF」側になっていることを確認します。

すでに「OFF」側になっている場合は、ターミネータスイッチを「1」にします。ただし、他のISDN機器のターミネータをオン（有効）にしている場合は、「0」にしてください。



5 電池ボックスカバーを取り付け、POWERスイッチをオンにしてランプの表示を確認します。

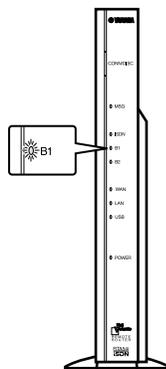
6 電話機の受話器を上げて、ツーという発信音を確認します。



7 試しに 177 などへ電話をかけます。



電話がつながると、B1 または B2 ランプが点灯します。



8 受話器を置いて、電話を切ります。



TEL ポートの設定

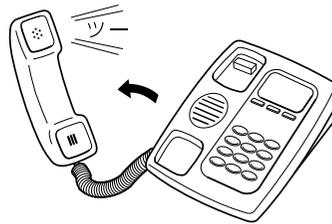
何も接続していないTELポートが[着信可能]に設定されていると、そのTELポートにも着信してしまい、回線が話し中にならない場合があります。何も接続していないTELポートがある場合は、TELポートに接続した電話機を使って、そのTELポートを[使用しない]に設定してください。本機の工場出荷値は、すべてのTELポートが[発信・着信可能]に設定されています。

MEMO ・すべてのTELポートにアナログ機器を接続した場合は、この設定は不要です。

■ 設定のしかた

本機のTELポートに接続した電話機を使って、各TELポートを設定します。

1 受話器を上げます。



発信音が聞こえます。

2 接続していないTELポート毎に設定番号を押します。

● TEL1ポートを使用しない場合

✳️ # 1 4 1 0 #

● TEL2ポートを使用しない場合

✳️ # 1 4 2 0 #

"ピー"という音が聞こえ、設定が変更されます。設定内容が不適切だったり、正常に変更されなかったときは、"ピー、ピー"と聞こえますので、いったん受話器を置いて手順1からやり直してください。

3 受話器を置きます。

MEMO ・その他の電話機能の設定操作については、ユーザーズマニュアル「2.2 電話機で設定する」をご覧ください。

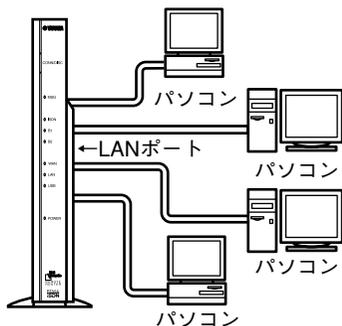
2.5 パソコンを接続する

パソコンのLANポートに接続する場合や既存のLANに接続する場合は、本機のLANポートに接続します。本機のLANポートには、パソコンを4台まで接続できます。またHUBを追加することにより、パソコンを5台以上接続することも可能です。パソコンの台数に合わせてHUBをご用意ください。

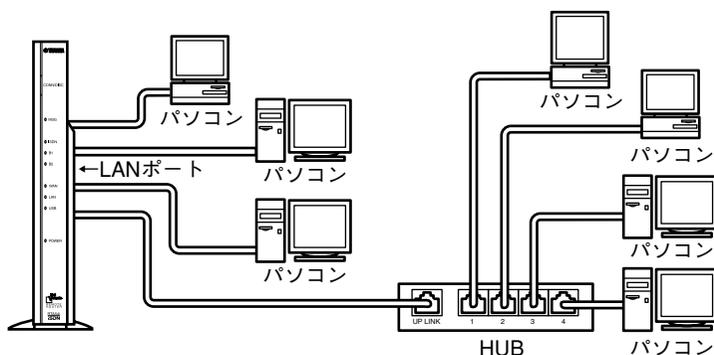
2

ルータを設置しよう

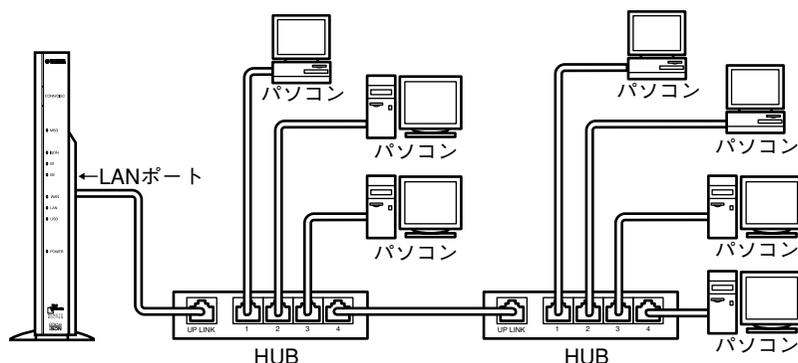
● 4台までのパソコンを接続する場合の例



● 5台以上のパソコンを接続する場合の例



● 既存のLANに接続する場合の例



注意

・ DHCPサーバを使用しているLANに本機を接続する場合は、下記の設定が必要です。設定を行わないとLANの通信ができなくなります。

本機のDHCPサービス：OFF

本機のIPアドレス：DHCPクライアントまたは指定されたIPアドレス

Win

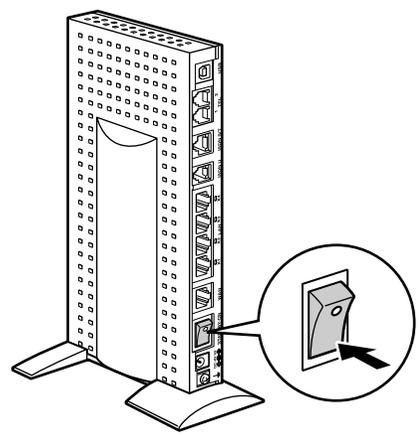
Mac

■ 必要なもの

- LAN ケーブル パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T対応のLAN ケーブル(ストレートタイプまたはクロスタイプ)をご用意ください。(本機にストレートタイプ1本付属)
- HUB 5 台以上のパソコンを接続する場合は、パソコンの台数に合ったポート数を備えた10BASE-T対応のHUB をご用意ください。

■ 接続のしかた

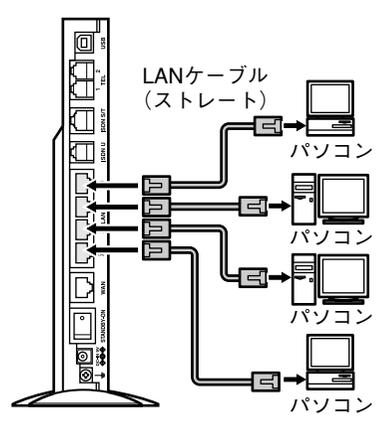
1 POWER スイッチをオフにします。



2 パソコンのLANポートやHUBのポートと本機のLANポートをLANケーブルで接続します。

● 4 台までのパソコンを接続する例

本機のLANポートに接続します。

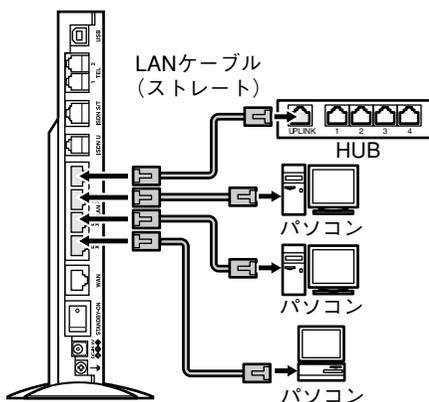


Win

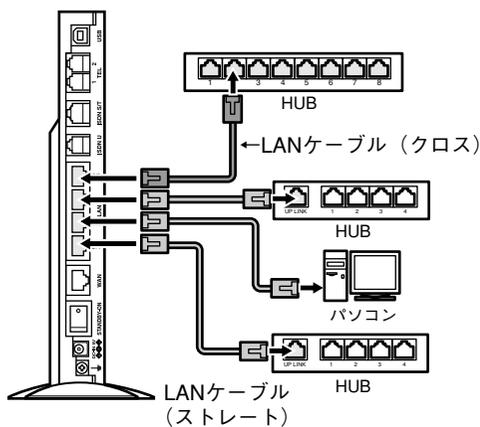
Mac

● 5台以上のパソコンを接続する例

HUB の場合は、UPLINK（カスケード）ポートを接続します。



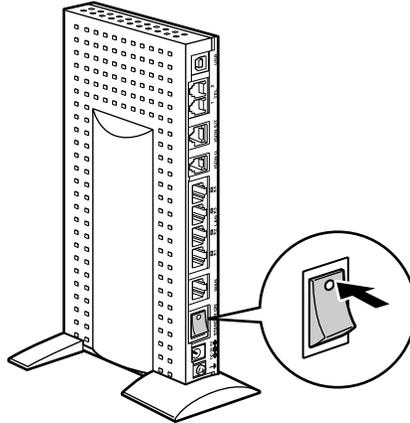
HUB に UPLINK（カスケード）ポートがない場合や空いていない場合は、HUB のポートと本機の LAN ポートをクリックタイプの LAN ケーブルで接続してください。



MEMO

- ・ HUB は、10BASE の場合 4 段（階層）まで、10/100BASE 混在の場合 2 段（階層）までしか UPLINK（カスケード）接続することはできません。ポート数の多い HUB やスイッチング HUB などを使用して、階層数が規定以内になるように設置してください。

3 POWER スイッチをオンにします。



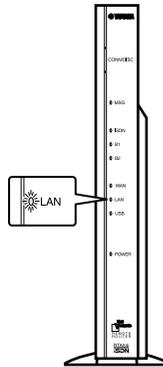
ランプが何回か点滅した後、POWER ランプと ISDN ランプが点灯します。

4 パソコンやHUBの電源をオンにし、LAN ランプが点灯または点滅することを確認します。

本機の LAN ランプが点灯または点滅すれば正常です。

ISDN に接続している場合は、ISDN ランプも点灯します。

ケーブルモデムまたは ADSL モデムを WAN ポートに接続している場合は、WAN ランプも点灯または点滅します。



MEMO

- ・ 本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべてオフの状態では、LAN ランプは点灯または点滅しません。
- ・ Macintosh の場合、現在のパソコンの設定によっては LAN ランプが点灯または点滅しない場合があります。その場合は、パソコンを設定後、再度 LAN ランプを確認してください。(→スタートマニュアル「第 3 章 パソコンを設定しよう」)
- ・ 本機背面の各 LAN ポートのランプ表示は、接続されているポートのみ点灯および点滅します。

5 LAN ランプが点灯または点滅しない場合は、LAN ケーブルの接続状態および、パソコンや HUB の電源を確認します。

第3章

パソコンを設定しよう

インターネットに接続するためには、「パソコンのネットワーク機能設定」と「ルータの接続先設定」が必要です。

この章では、インターネットに接続するためのパソコンの設定方法について説明しています。OSに合わせてソフトウェアのインストールと設定を行ってください。ルータの設定については、第4章「ルータを設定しよう」をご覧ください。

3.1	ソフトウェアをインストールする	3-2
	Windows 95/98/Me/2000の場合	3-2
	MacOSの場合	3-5
3.2	パソコンのネットワーク機能を設定する	3-6
3.3	手動でネットワーク機能を設定する	3-14
	Windows 95/98/Meのネットワーク設定	3-14
	Windows 2000のネットワーク設定	3-16
	MacOSのネットワーク設定	3-19

3.1 ソフトウェアをインストールする

本機には、パソコンのネットワーク機能設定を簡単に行えるユーティリティソフト「RTA54iパソコンセットアップ」と、パソコンから本機のインターネット接続/切断操作が行えるユーティリティソフト「RTAssist」が付属のCD-ROMに収録されています。これらのユーティリティソフトは、簡単に設定や操作を行うためのもので、本機を使用する上で必ず必要なものではありません。ユーティリティソフトを使う場合は、設定作業を始める前にそれぞれインストールしてください。

またルータの接続先設定は、Internet Explorer や Netscape Navigator などのブラウザで行います。ブラウザはOSに標準インストールされているものが使えます。もし、ブラウザがインストールされていない場合は、設定作業を始める前にインストールしてください。



注意

- ・インストールの途中で再起動が必要になる場合がありますので、インストールを始める前に他のアプリケーションソフトをすべて終了してください。
- ・Windows 2000 の場合は、管理者でログインして、インストールを行ってください。

MEMO

- ・ここでは、Windows 95/98/Me/2000およびMacOS8.1以降 (Mac OS Xを除く) を例に説明しています。それ以外のOSの場合は、OSに合ったソフトウェアをインストールし、手動で同等の設定を行ってください。(→P.3-14)

Windows 95/98/Me/2000 の場合

■ ブラウザのインストール

本機の設定を行うには、Internet Explorer 4.0 以降または Netscape Navigator 3.0 以降 (6.0を除く) のブラウザが必要です。Windows95以降には、Internet Explorer が標準でインストールされており、追加インストール作業は不要です。もし、インストールされていない場合は、別途インストールしてください。

■ RTA54i パソコンセットアップのインストール

本機に付属CD-ROM内のユーティリティソフト「RTA54iパソコンセットアップ」は、Windows 95/98/Me/2000用のソフトウェアです。設定の前にインストールしてください。

MEMO ・すでに古いバージョンのユーティリティソフトがインストールされている場合は、先に [コントロールパネル] の [アプリケーションの追加と削除] でアンインストールしてください。

- 1 付属のCD-ROMをパソコンにセットし、[InstPCSU] または [InstPCSU.exe] アイコンを開きます。



- 2 画面に従って操作します。
ソフトウェアのコピーとスタートメニューへの登録が行われます。
- 3 インストールが終わったら、[完了] ボタンを押します。
これで、「RTA54iパソコンセットアップ」のインストールは完了です。

3

パソコンを設定しよう

Win

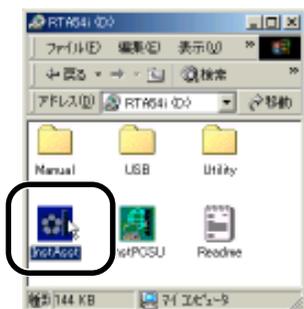
■ RTAssist のインストール

本機に付属 CD-ROM 内のユーティリティソフト「RTAssist」は、Windows 95/98/Me/2000 用のソフトウェアです。設定の前にインストールしてください。

MEMO

- ・すでに古いバージョンのユーティリティソフトがインストールされている場合は、先に [コントロールパネル] の [アプリケーションの追加と削除] でアンインストールしてください。

- 1 付属の CD-ROM をパソコンにセットし、[InstAsst] または [InstAsst.exe] アイコンを開きます。



- 2 画面に従って操作します。
ソフトウェアのコピーとスタートメニューへの登録が行われます。
- 3 インストールが終わったら、[完了] ボタンを押します。
これで、「RTAssist」のインストールは完了です。

MacOS の場合

■ ブラウザのインストール

本機の設定を行うには、Internet Explorer 4.0 以降または Netscape Navigator 3.0 以降（6.0を除く）のブラウザが必要です。MacOS8.1以降には、Internet Explorer が標準でインストールされており、追加インストール作業は不要です。もし、インストールされていない場合は、別途インストールしてください。

■ RTA54i パソコンセットアップについて

PowerMacintosh用のユーティリティソフト「RTA54iパソコンセットアップ」は、MacOS8.1以降、OpenTransport1.2以降に対応したソフトウェアです。「RTA54iパソコンセットアップ」は、付属のCD-ROMから直接開いて使うことができるので、ソフトのインストール作業は不要です。

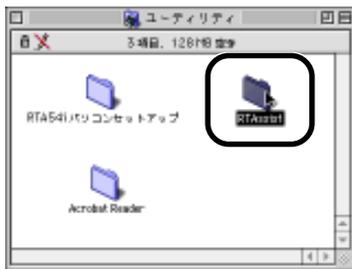
 **注意** ■ ・Mac OS X（Classic 環境を含む）には対応していません。

■ RTAssist のインストール

本機に付属のCD-ROM内のユーティリティソフト「RTAssist」は、MacOS8.1以降、OpenTransport1.2以降に対応したPower Macintosh専用ソフトウェアです。

 **注意** ■ ・Mac OS X（Classic 環境を含む）には対応していません。

- 1 付属のCD-ROMをパソコンにセットし、[ユーティリティ]フォルダ内の[RTAssist]フォルダをハードディスクにコピーします。



これで、「RTAssist」のインストールは完了です。

3.2 パソコンのネットワーク機能を設定する

本機のLANポートに接続したパソコンからインターネットに接続するときは、最初に「パソコンのネットワーク機能設定」を行います。ユーティリティソフト「RTA54i パソコンセットアップ」のメッセージに従って操作してください。また複数のパソコンを接続する場合は、すべてのパソコンで設定を行ってください。

⚠注意

- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定（TA接続利用時）の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・設定を始める前にLANボード/カードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。
- ・設定を始める前に他のアプリケーションソフトをすべて終了してください。設定の途中で再起動が必要になるので、データが消失することがあります。

MEMO

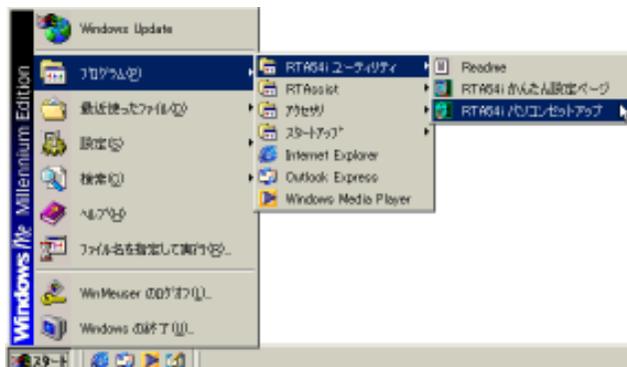
- ・ダイヤルアップ接続の設定を行うと、意図しない発信を防ぐためにいくつかのフィルタが自動的に設定されます。
- ・お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、「RTA54i パソコンセットアップ」が正しく動作しないことがあります。その場合は、手動でネットワークの設定を行ってください。（→P.3-14）

ここでは Windows Me と Internet Explorer 5.5 の画面を例に説明しています。他の OS の場合、画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

1 RTA54i パソコンセットアップ を開きます。

● Windows95/98/Me/2000 の場合

[スタート] ボタンを押し、[プログラム] - [RTA54i ユーティリティ] - [RTA54i パソコンセットアップ] を開きます。



● Macintosh の場合

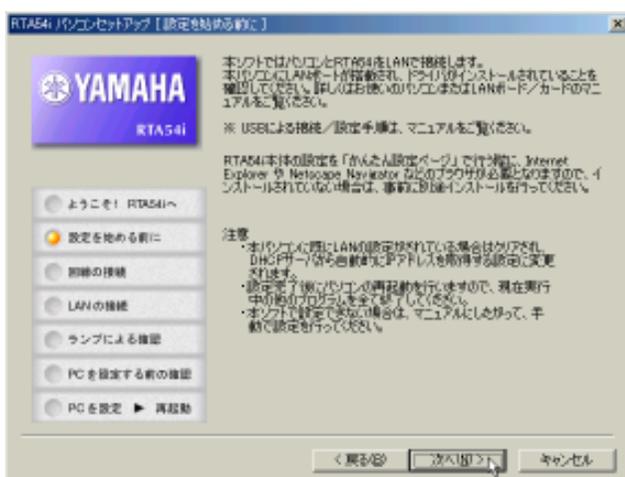
付属の CD-ROM をパソコンにセットし、[ユーティリティ] - [RTA54i パソコンセットアップ] フォルダ内の [パソコンセットアップ] アイコンを開きます。



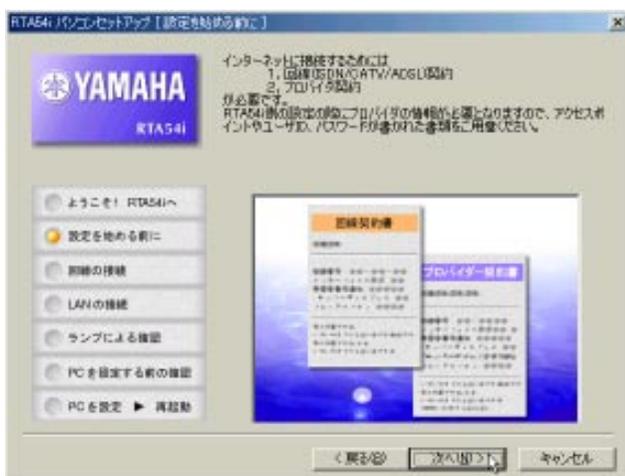
2 [次へ] ボタンを押します。



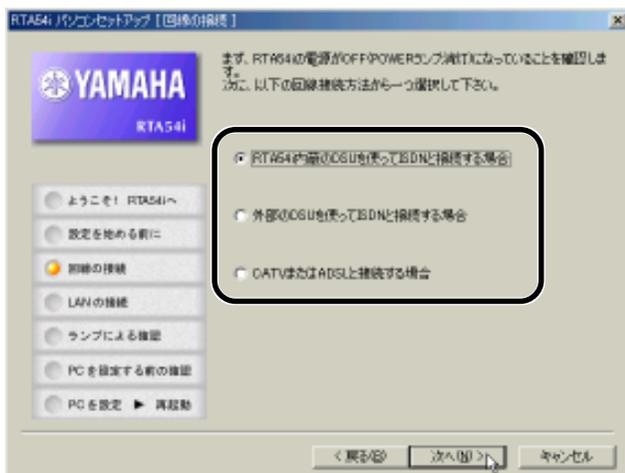
3 メッセージの内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。



4 プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認し、[次へ] ボタンを押します。



5 使用する回線接続形態を選択し、[次へ] ボタンを押します。



6 回線の接続状態と各スイッチの設定を確認し、[次へ] ボタンを押します。
問題がある場合は、[キャンセル] ボタンを押して、問題を解決してからやり直してください。(→「2.2 回線を接続する」)

● RTA54i 内蔵の DSU を使って ISDN と接続する場合



3
パソコンを設定しよう

Win

Mac

●外部のDSUを使ってISDNと接続する場合



●CATVまたはADSLと接続する場合



3
パソコンを設定しよう

Win

Mac

7 LANポートの接続状態を確認し、[次へ] ボタンを押します。

問題がある場合は、[キャンセル] ボタンを押して、問題を解決してからやり直してください。(→「2.5 パソコンを接続する」P.2-24)



8 本機の電源やランプ表示を確認し、[次へ] ボタンを押します。

問題がある場合は、[キャンセル] ボタンを押して、接続を確認してからやり直してください。(→「2.3 電源を接続する」P.2-15)

● ISDN 回線の場合



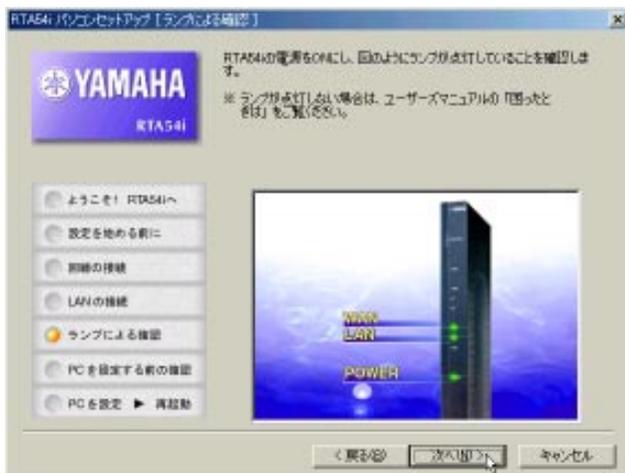
3

パソコンを設定しよう

Win

Mac

● CATV や ADSL の場合



3

パソコンを設定しよう

9 設定内容を確認し、[次へ] ボタンを押します。

パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。お使いのパソコンのOS使用環境によっては、OS（Windows、MacOS）のインストールCD-ROMが必要になる場合があります。

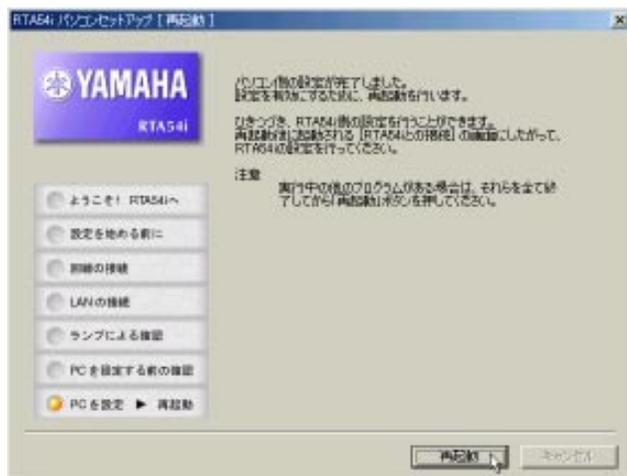


ネットワークの設定が完了すると、OSの種類やパソコンにより再起動のメッセージが表示されます。再起動のメッセージが表示されない場合は、そのまま手順11へ進んでください。

Win

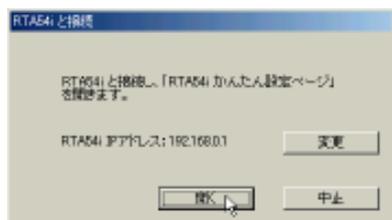
Mac

- 10** パソコンの設定が終わり再起動のメッセージが表示された場合は、[再起動] ボタンを押します。



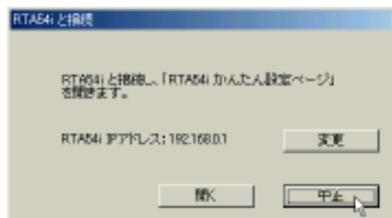
パソコンが再起動されます。

- 11** 1台目のパソコンを設定している場合は、「RTA54iと接続」が表示されたら、[開く] ボタンを押します。



ブラウザが開き、「RTA54iかんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。引き続きルータの設定を行う場合は、接続形態に合わせて第4章の各説明をご覧ください。

- 2台目以降のパソコンを設定している場合は、「RTA54iと接続」が表示されたら、[中止] ボタンを押します。



パソコンの設定はこれで完了です。他のパソコンも同様に設定してください。

3.3 手動でネットワーク機能を設定する

ユーティリティソフトが正しく動作しない場合は、手動でネットワーク機能を設定します。ネットワーク機能の設定は、LANに接続されているすべてのパソコンで行ってください。

Windows 95/98/Me のネットワーク設定

Windows 95/98/Meの場合は、次の手順でネットワーク機能を設定します。LANボードやLANカードが装着されていないときは、先にLANボード/カードのインストールを行い、動作を確認してください。



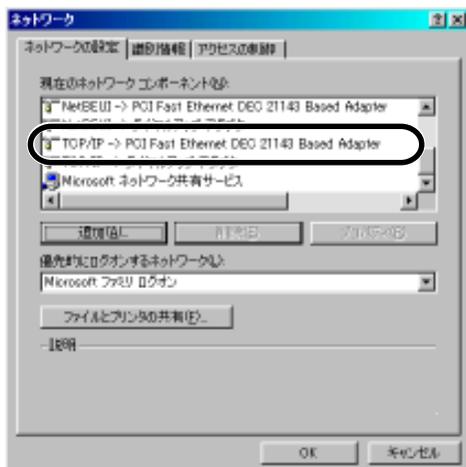
注意

- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定（TA接続利用時）の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・設定を始める前にLANボード/カードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。

3

パソコンを設定しよう

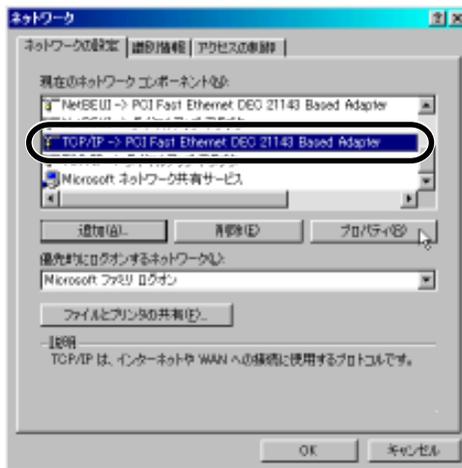
- 1 [コントロール パネル] の [ネットワーク] を開き、リストに "TCP/IP-> (ネットワークボード名) "があるかを確認します。



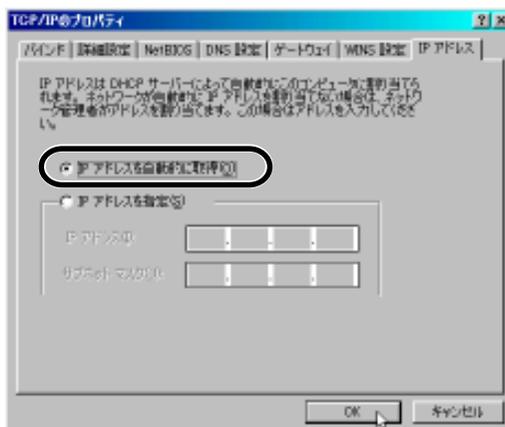
ない場合は [追加] ボタンを押して、[プロトコル] の追加で [Microsoft] の [TCP/IP] を追加します。

Win

- 2 リストの [TCP/IP -> PCI Fast Ethernet DEO 21143 Based Adapter] を選択し、[プロパティ] ボタンを押します。



- 3 [IP アドレス] タブの [IP アドレスを自動的に取得] を選択し、[OK] ボタンを押します。



- 4 [OK] ボタンを押して「ネットワーク」ウィンドウを閉じます。設定を変更した場合は、パソコンを再起動します。

Windows 2000 のネットワーク設定

Windows2000の場合は、次の手順でネットワーク機能を設定します。LANボードやLANカードが装着されていないときは、先にLANボード/カードのインストールを行い、動作を確認してください。

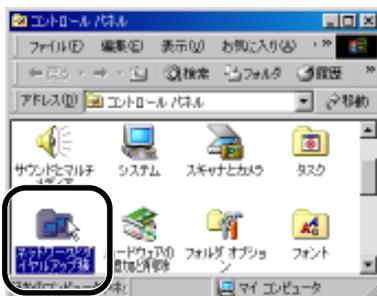
Windows2000のネットワーク設定を行うには、管理者（Administrators）グループの権限を持つユーザとしてログインする必要があります。



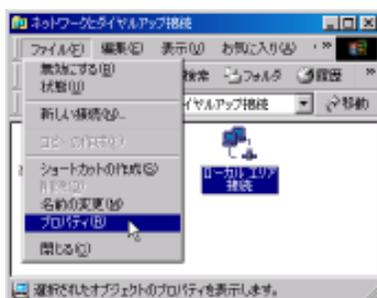
注意

- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定（TA接続利用時）の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・設定を始める前にLANボード/カードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。

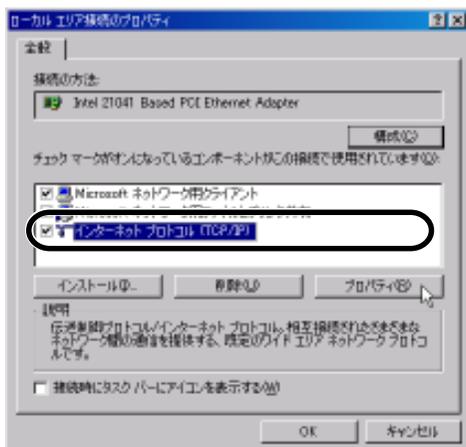
1 [コントロールパネル] の [ネットワークとダイヤルアップ接続] を開きます。



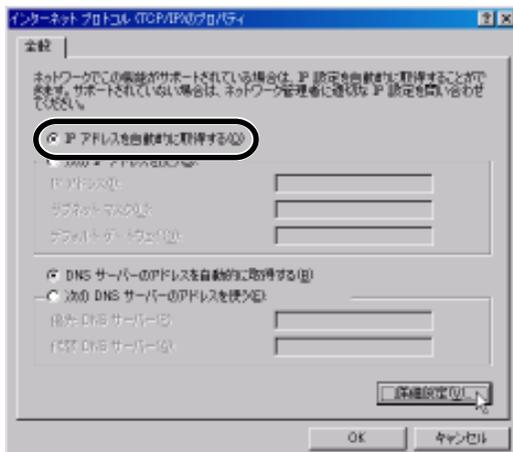
2 本機を接続しているネットワークボード名の [ローカルエリア接続] を選択し、ファイルメニューの [プロパティ] を選択します。



- 3 リストの [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択し、[プロパティ] ボタンを押します。



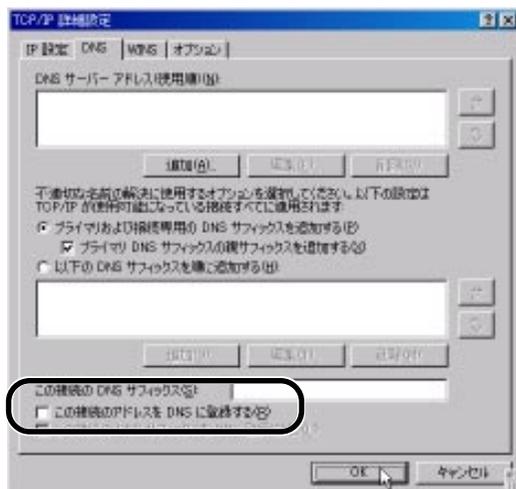
- 4 [全般] タブの [IPアドレスを自動的に取得] を選択し、[詳細設定] ボタンを押します。



3
パソコンを設定しよう

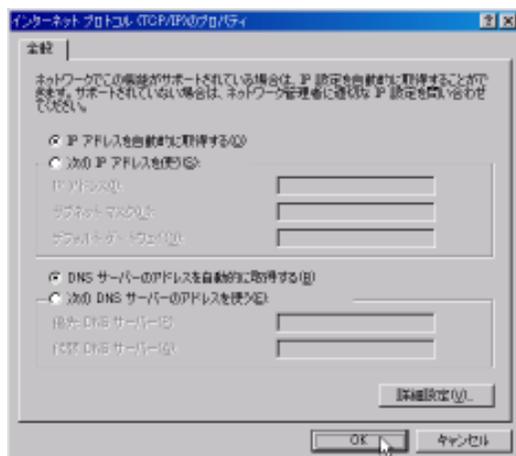
Win

- 5 [DNS] タブの「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外し、[OK] ボタンを押します。



[TCP/IP 詳細設定] ウィンドウが閉じます。

- 6 [OK] ボタンを押して「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」ウィンドウと「ローカル エリア接続のプロパティ」ウィンドウを閉じます。



設定を変更した場合は、パソコンを再起動します。

MacOS のネットワーク設定

MacOSでは、次の手順でTCP/IP機能を設定します。TCP/IP機能の設定は、LANに接続されているすべてのパソコンで行ってください。

ここでは、[TCP/IP] を例に説明しています。

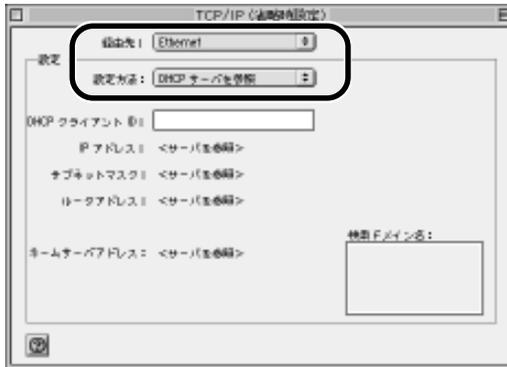


注意

- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使用していると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

Mac OS 8.x、9.xの場合

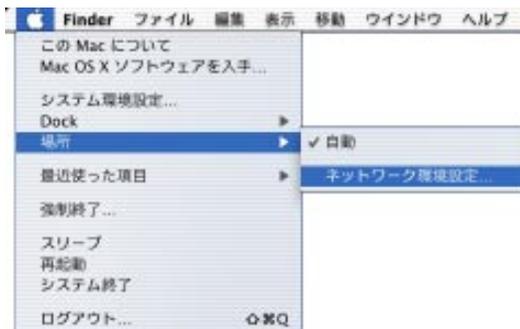
- 1 コントロールパネルの [TCP/IP] を開き、[経由先] を “Ethernet”、[設定方法] を “DHCP サーバを参照” に設定します。



- 2 設定が終わったら、「TCP/IP」ウィンドウを閉じて設定を保存します。

Mac OS X の場合

- 1 アップルメニューの [場所] - [ネットワーク環境設定] を開きます。

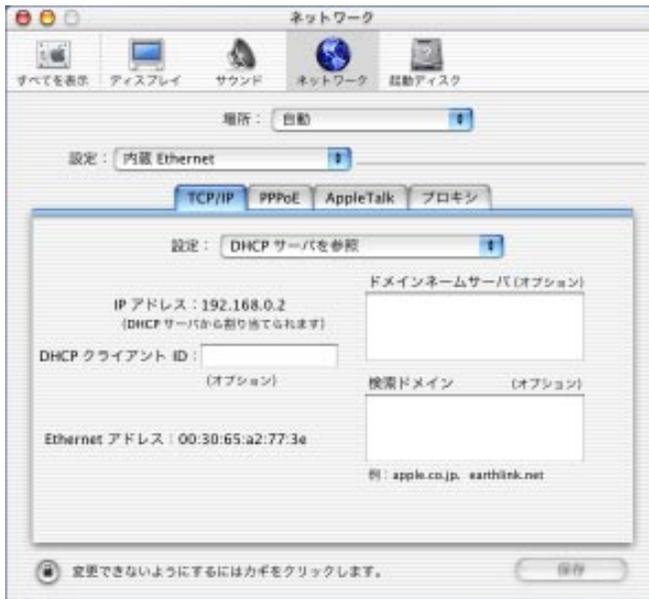


3

パソコンを設定しよう

Mac

- 2 [場所] を“自動”、[設定] を“内蔵Ethernet”、[TCP/IP] タブの [設定] を“DHCPサーバを参照” に設定します。



設定後は、[IPアドレス] がルータに設定したDHCPの割り当て範囲（工場出荷状態では192.168.0.2～192.168.0.191）になっていることを確認してください。

3

パソコンを設定しよう

Mac

第4章

ルータを設定しよう

インターネットに接続するためには、「パソコンのネットワーク機能設定」と「ルータの接続先設定」が必要です。

この章では、インターネットに接続するためのルータの設定方法について説明しています。接続形態に合わせて設定を行ってください。

4.1	端末型ダイヤルアップ接続を設定する	4-2
4.2	フレッツ・ISDN 接続を設定する	4-9
4.3	CATV/ADSL 接続を設定する	4-17
4.4	フレッツ・ADSL 接続を設定する	4-23
4.5	専用線接続を設定する	4-30

4.1 端末型ダイヤルアップ接続を設定する

端末型ダイヤルアップ接続でインターネットに接続する場合は、本機の「かんたん設定ページ」を開いて、端末型ダイヤルアップの接続先を設定します。



注意

・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定 (TA 接続利用時) の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

MEMO

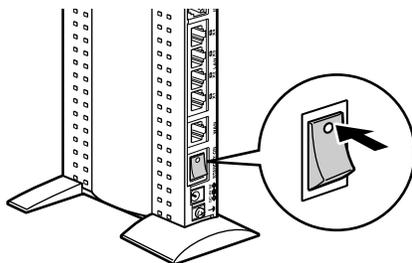
・ダイヤルアップ接続の設定を行うと、意図しない発信を防ぐためにいくつかのフィルタが自動的に設定されます。

ここでは Windows Me と Internet Explorer 5.5 の画面を例に説明しています。他の OS の場合、画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。「RTA54i パソコンセットアップ」で引き続き設定する場合は、手順 **4** から始めてください。

4

ルータを設定しよう

1 POWER スイッチをオンにします。



2 パソコンを起動し、ブラウザを開いて [ファイル] メニューの [開く] を選択します。

3 <http://setup.netvolante.jp/> と入力して [OK] ボタンを押します。

本機の IP アドレス (工場出荷時は 192.168.0.1) を入力して開くこともできます。

(例 <http://192.168.0.1/>)



初めて開いたときは、「RTA54i かんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。2度目以降は、手順 **5** へ進んでください。

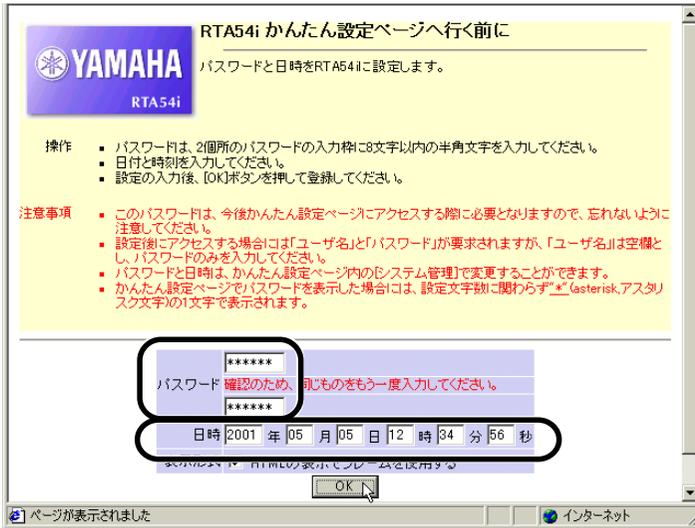
MEMO

・「RTA54i かんたん設定ページへ行く前に」が表示されないときは、ルータやパソコンの接続やパソコンの設定を確認してください。(→「第 2 章 ルータを設置しよう」「第 3 章 パソコンを設定しよう」)

Win

Mac

4 ルータの管理パスワードを2つの入力欄に入力し、日時を設定して [OK] ボタンを押し、確認のメッセージに従って操作します。



MEMO

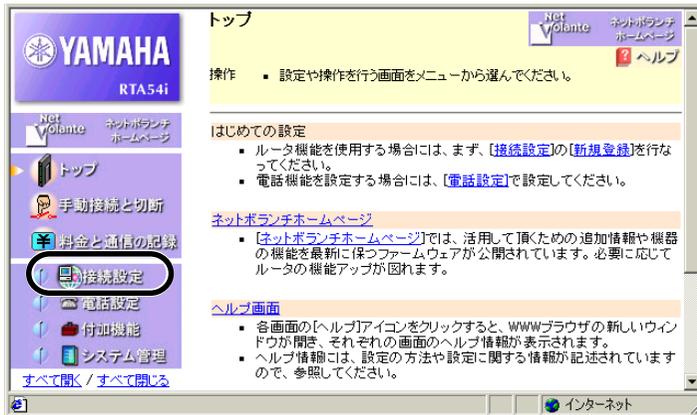
・ルータの管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に大切に管理してください。

5 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。

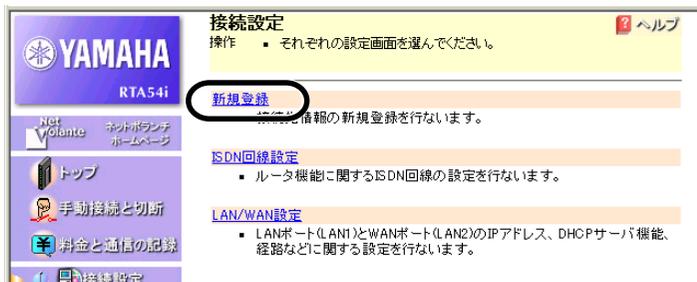


「トップ」ページが表示されます。

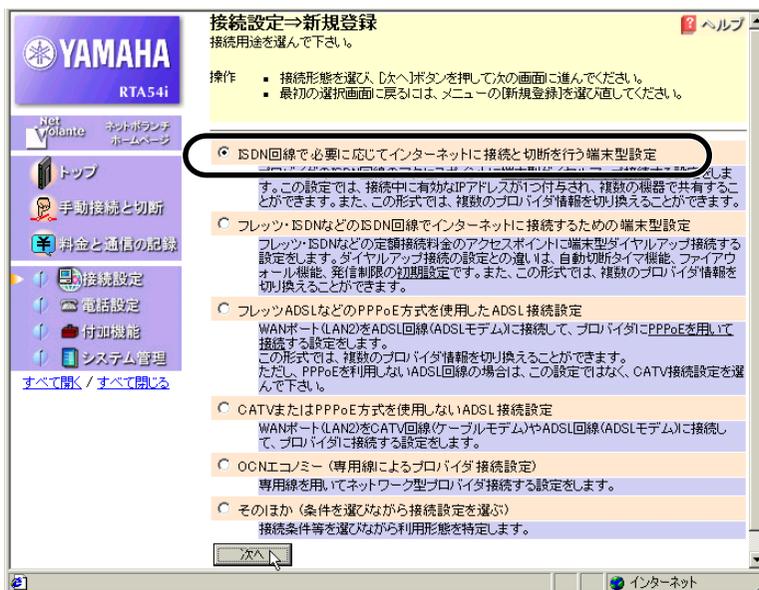
6 [接続設定] を押します。



7 [新規登録] を押します。



8 [ISDN回線で必要に応じてインターネットに接続と切断を行う端末型設定] を選択し、[次へ] ボタンを押します。



設定入力ページが表示されます。

9 プロバイダの設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力します。

接続設定⇒新規登録⇒ISDN回線による端末型プロバイダ ヘルプ

接続
操作 ・ 設定する場合は、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

プロバイダ情報

プロバイダ名(PP01)	Provider	半角32文字以内
プロバイダの電話番号 1	XXXXXXXXXX	半角入力32桁以内
2		〈省略可能〉
3		〈省略可能〉
ユーザID	username	半角入力64文字以内
パスワード	*****	半角入力64文字以内

DNS関連

DNSサーバアドレス	IPアドレスを指定する	
プライマリDNSサーバアドレス	10.40.3.22	指定する場合半角入力
セカンダリDNSサーバアドレス	10.40.3.23	〈省略可能〉

登録 既定値に戻す

プロバイダ名： 接続先がわかるような任意の名称を入力してください。

プロバイダの電話番号： ISDN対応したアクセスポイントの電話番号を入力してください。複数ある場合は、3つまで入力できます。

ユーザID： ダイヤルアップ接続用のユーザIDを入力してください。ユーザIDは、メールアドレスとは異なる場合がありますので、必ず書類を確認してください。

例) username (メールアドレスと同じ場合)
username@aaa (サブドメインが附加される場合)
username#AB123 (識別記号が附加される場合)
ABC012345 (メールアドレスとは全く異なる場合)

パスワード： 指定されたパスワードまたは自分で変更したパスワードを入力してください。半角英数字で大文字小文字も正確に入力してください。

DNSサーバアドレス： DNSサーバアドレスの取得方法を選択します。
[IPアドレスを指定する] プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合に選択してください。

[接続時に自動取得する] プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や自動取得となっている場合に選択してください。

プライマリDNSサーバアドレス: DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力してください。

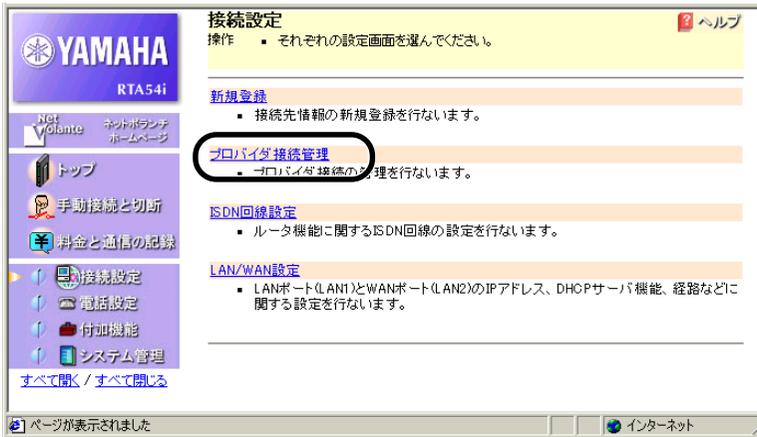
セカンダリDNSサーバアドレス: DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力してください。(省略可)

10 入力し終わったら、[登録] ボタンを押します。

メッセージに従ってボタンを押すと接続先が登録されます。

MEMO ・ 設定したパスワードの文字数を隠すため、ページを再表示したときは、パスワード欄が「*」一つだけの表示となります。

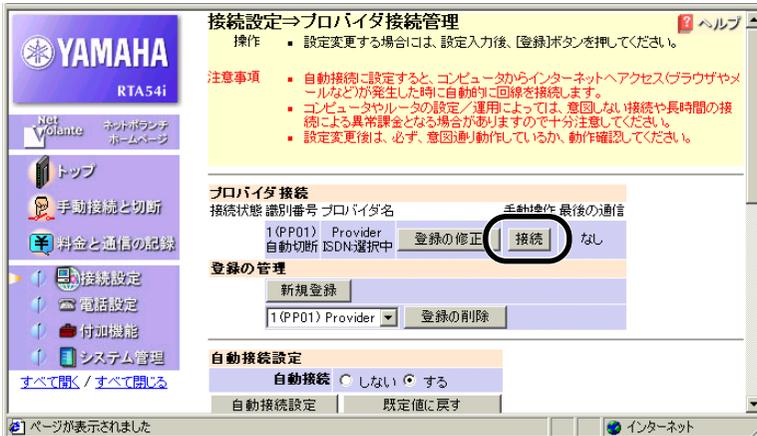
11 [プロバイダ接続管理] を押します。



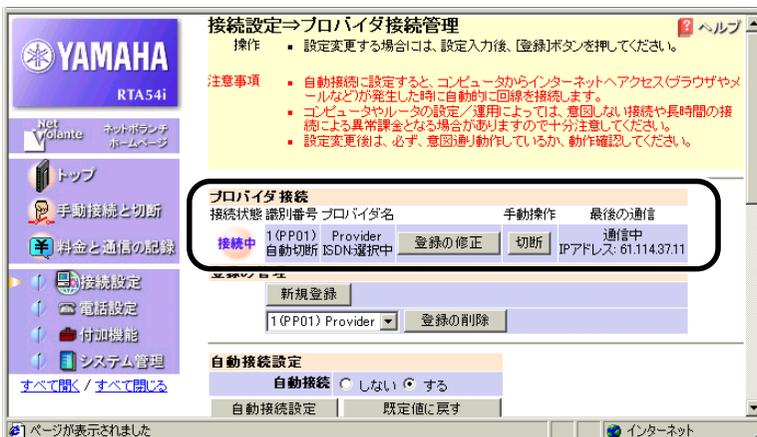
4

ルータを設定しよう

12 登録したプロバイダの [接続] ボタンを押して、手動接続します。



左側に「接続中」が表示されたら、正しく設定されています。インターネットへ接続中は、B1 または B2 ランプが点灯します。



Win

Mac

接続できない場合は、以下のことを確認してください。詳細については、ユーザーズマニュアル「第8章 困ったときは」をご覧ください。

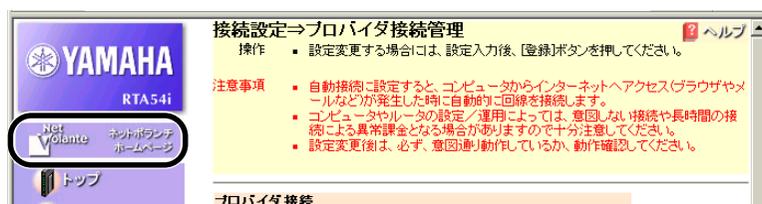
●「相手が話中です（17）」と表示されている場合

アクセスポイントが話し中です。同一市外局内に別のアクセスポイントがある場合は、[登録の修正] ボタンを押して、別の電話番号を設定し直してください。その番号しかない場合は、しばらく待ってから手動接続を行ってください。

●それ以外の失敗した理由が表示された場合

[電話番号] や [ユーザID]、[パスワード] の設定が間違っている可能性があります。[登録の修正] ボタンを押して、プロバイダの設定情報書類を見直しなが設定内容を確認したり、パスワードを大文字/小文字や全角/半角に注意しながら入力し直してから、もう一度手動接続を行ってください。

13 ページ左上の [ネットボランチホームページ] を押します。

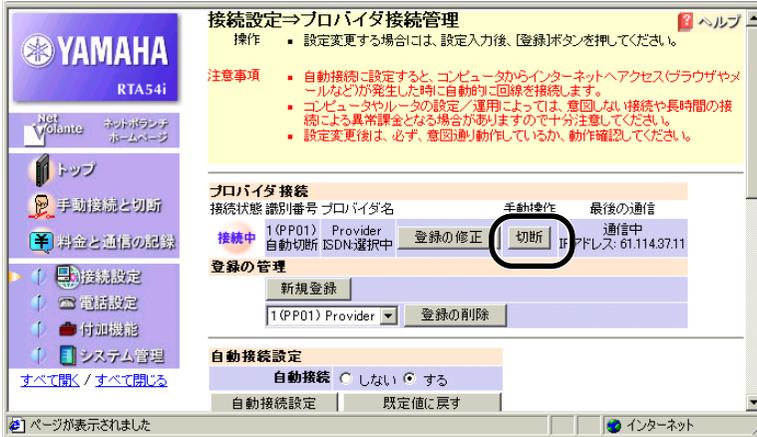


インターネットのNetVolanteのホームページが表示されれば、ルータの設定は成功です。

●表示されない場合

[DNSサーバアドレス] の設定が間違っている可能性があります。[切断] ボタンを押して一旦接続を切断してから、[登録の修正] ボタンを押して、設定内容をもう一度確認してください。

14 接続できることを確認できたら [接続設定] の「プロバイダ接続管理」に戻り、登録したプロバイダの [切断] ボタンを押して、手動切断します。

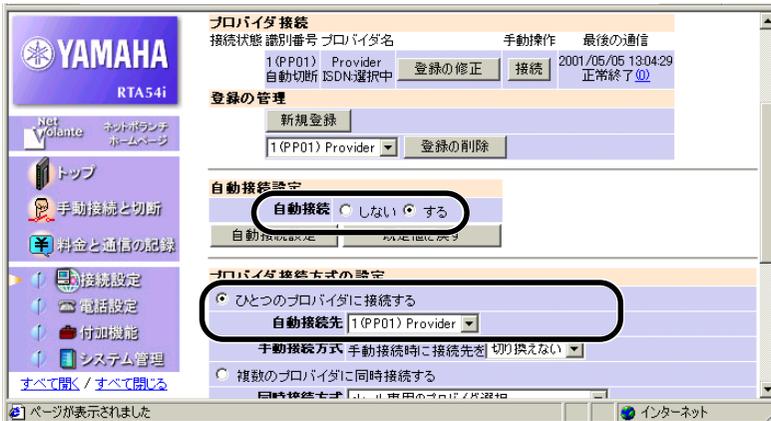


手動切断しなくても、一定時間インターネットへアクセスしないと、自動的にプロバイダとの接続が切れます。

MEMO

- ・プロバイダ登録を新規に行うと、自動的に発信制限が累積料金 1 万円、累積通信時間 50 時間、累積発信回数 1000 回に設定されます。また連続接続時間も 9 時間に制限されるように設定されます。(→P.5-19)

15 [自動接続設定] が [する] になっていて、[自動接続先] に登録したプロバイダが選択されていることを確認します。



これで、ルータの端末型ダイヤルアップ接続設定は完了です。

⚠注意

- ・自動接続を設定すると、パソコンやソフトウェアの設定により、意図しない接続や課金が発生することがあります。自動接続したくないときは、[しない] を選択して [自動接続設定] ボタンを押し、設定を解除してください。

4.2 フレッツ・ISDN接続を設定する

フレッツ・ISDN接続でインターネットに接続する場合は、本機の「かんたん設定ページ」を開いて、フレッツ・ISDNの接続先を設定します。

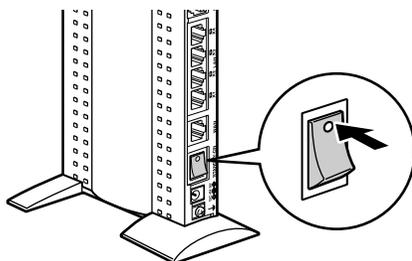


注意

- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定 (TA 接続利用時) の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける可能性が高くなります。十分なセキュリティ設定を行って、ご使用ください。(→ユーザーズマニュアル「第6章 ファイアウォール機能の使いかた」)

ここでは Windows Me と Internet Explorer 5.5 の画面を例に説明しています。他の OS の場合、画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。「RTA54i パソコンセットアップ」で引き続き設定する場合は、手順 4 から始めてください。

1 POWER スイッチをオンにします。



2 パソコンを起動し、ブラウザを開いて [ファイル] メニューの [開く] を選択します。

3 <http://setup.netvolante.jp/> と入力して [OK] ボタンを押します。

本機の IP アドレス (工場出荷時は 192.168.0.1) を入力して開くこともできます。

(例 <http://192.168.0.1/>)

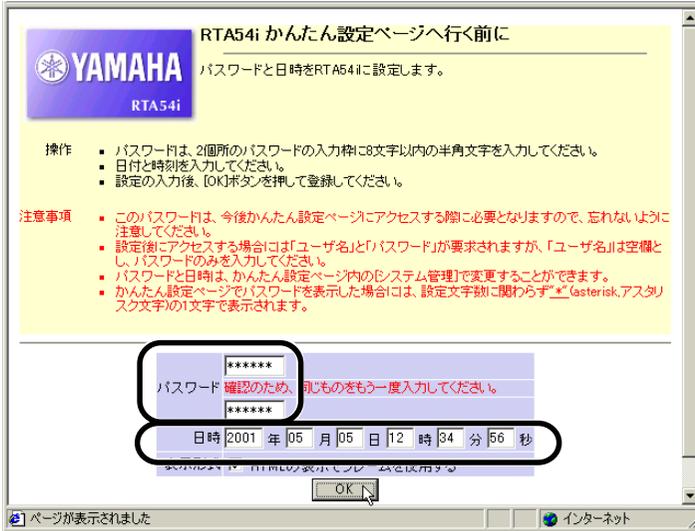


初めて開いたときは、「RTA54i かんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。2度目以降は、手順 5 へ進んでください。

MEMO

- ・「RTA54i かんたん設定ページへ行く前に」が表示されないときは、ルータやパソコンの接続やパソコンの設定を確認してください。(→「第2章 ルータを設置しよう」「第3章 パソコンを設定しよう」)

4 ルータの管理パスワードを2つの入力欄に入力し、日時を設定して [OK] ボタンを押し、確認のメッセージに従って操作します。



4

ルータを設定しよう

MEMO

- ルータの管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に大切に管理してください。

5 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。

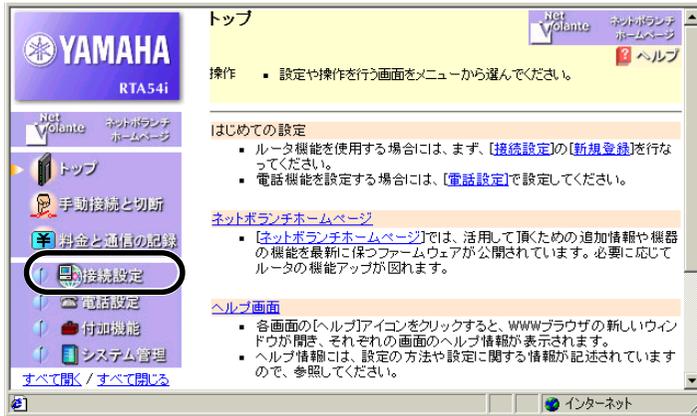


「トップ」ページが表示されます。

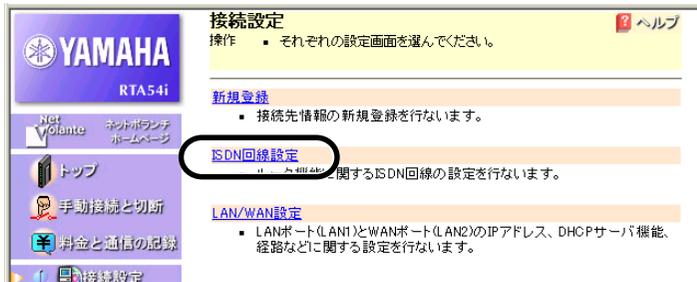
Win

Mac

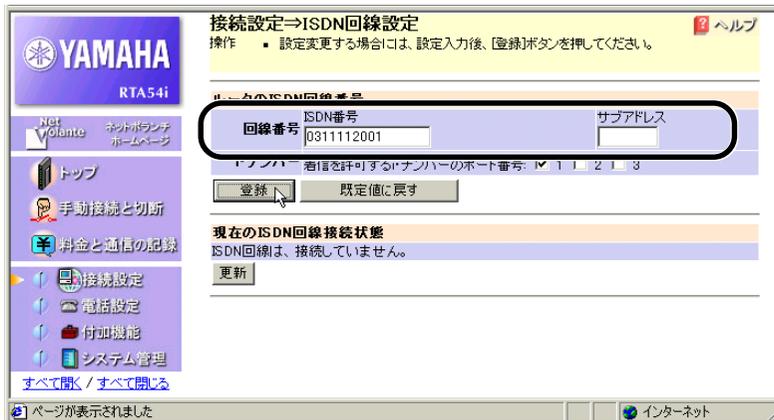
6 [接続設定] を押します。



7 [ISDN回線設定] を押します。



8 本機の ISDN 回線番号およびサブアドレスを入力し、[登録] ボタンを押します。



4

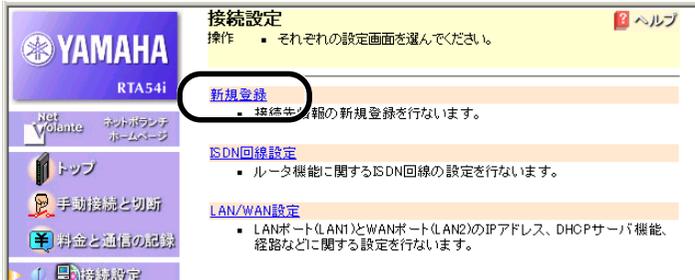
ルータを設定しよう

Win

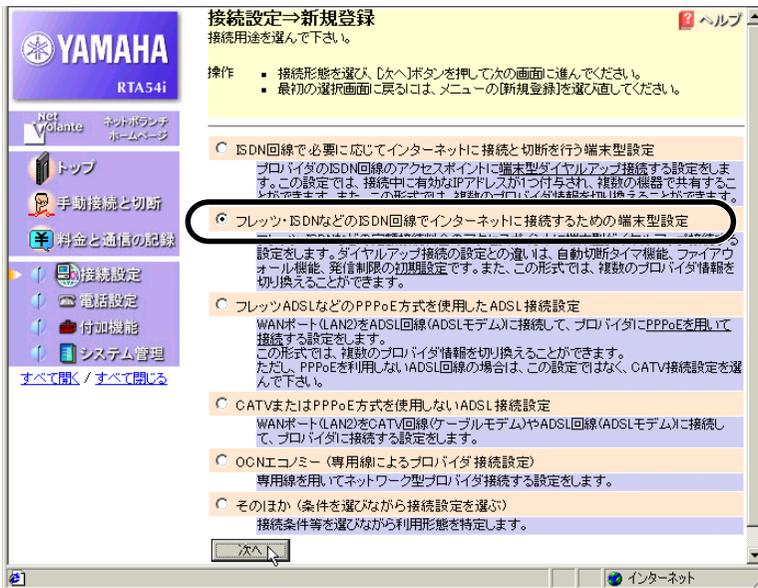
Mac

9 [接続設定] を押します。

10 [新規登録] を押します。



11 [フレッツ・ISDNなどのISDN回線でインターネットに常時接続するための端末型設定] を選択し、[次へ] ボタンを押します。



設定入力ページが表示されます。

12 NTTとプロバイダの設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力します。

The screenshot shows the 'プロバイダ情報' (Provider Information) section of the Yamaha RTA54i Net Wizard. The form includes the following fields and options:

- プロバイダ名 (PP01):** Provider (半角32文字以内)
- プロバイダの電話番号 1:** XXXXXXXXXXX (半角入力32桁以内)
- 2:** (省略可能)
- 3:** (省略可能)
- ユーザID:** username@provider.ne.jp (半角入力64文字以内)
- パスワード:** ***** (半角入力64文字以内)
- 接続方式:**
 - 自動切断タイマとセキュリティ・フィルタの初期設定
 - 接続方式:
 - 自動切断する
 - 常時接続する(自動切断しない, 手動切断のみ)
- DNS関連:**
 - DNSサーバアドレス: IPアドレスを指定する (dropdown menu)
 - プライマリDNSサーバアドレス: 10.47.3.1 (指定する場合半角入)

Buttons at the bottom: 登録 (Register), 既定値に戻す (Reset to Default).

プロバイダ名: 接続先がわかるような任意の名称を入力してください。

プロバイダの電話番号: NTT から指定された電話番号を入力してください。

ユーザ ID: プロバイダから指定されたフレッツ・ISDN接続用のユーザIDを入力してください。ユーザIDは、必ず書類を確認してください。

例) username@provider.ne.jp

username@aaa.provider.ne.jp

(サブドメインが付加される場合)

パスワード: 指定されたパスワードまたは自分で変更したパスワードを入力してください。半角英数字で大文字小文字も正確に入力してください。

接続方式: フレッツ・ISDNの使いかたを選択します。
 [自動切断する] ISDNの2回線分をなるべく電話やFAXなどで使いたい場合に選択してください。

[常時接続する] 1チャンネルを常に接続したままにしたい場合に選択してください。

DNSサーバアドレス: DNSサーバアドレスの取得方法を選択します。
 [IPアドレスを指定する] プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合に選択してください。

[接続時に自動取得する] プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や自動取得となっている場合に選択してください。

プライマリDNSサーバアドレス: DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力してください。

セカンダリDNSサーバアドレス: DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力してください。(省略可)

13 入力し終わったら、【登録】 ボタンを押します。

メッセージに従ってボタンを押すと接続先が登録されます。



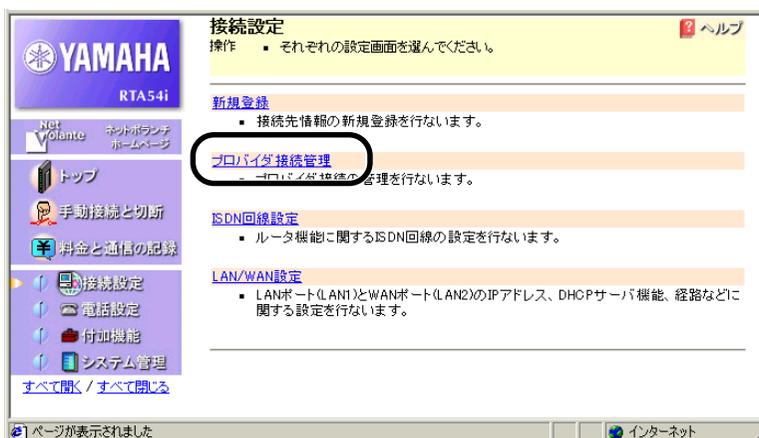
注意

- ・インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける可能性が高くなります。十分なセキュリティ設定を行って、ご使用ください。(→ユーザーズマニュアル「第6章 ファイアウォール機能の使いかた」)

MEMO

- ・設定したパスワードの文字数を隠すため、ページを再表示したときは、パスワード欄が「*」一つだけの表示となります。

14 【プロバイダ接続管理】 を押します。



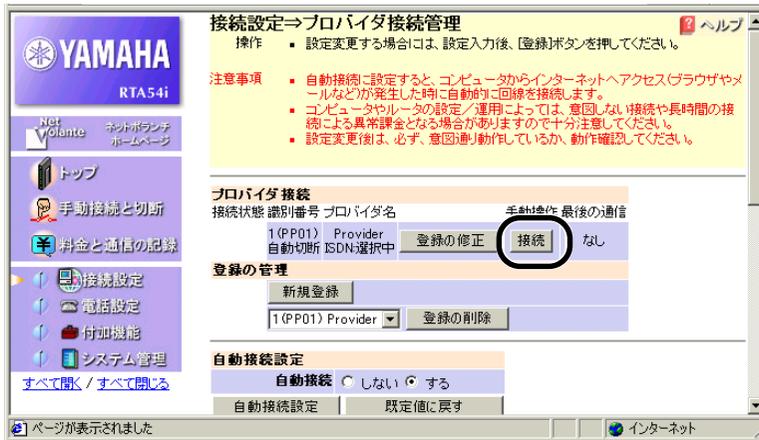
4

ルータを設定しよう

Win

Mac

15 登録したプロバイダの [接続] ボタンを押して、手動接続します。



左側に「接続中」が表示されたら、正しく設定されています。インターネットへ接続中は、B1またはB2ランプが点灯します。接続できない場合は、以下のことを確認してください。詳細については、ユーザーズマニュアル「第8章 困ったときは」をご覧ください。

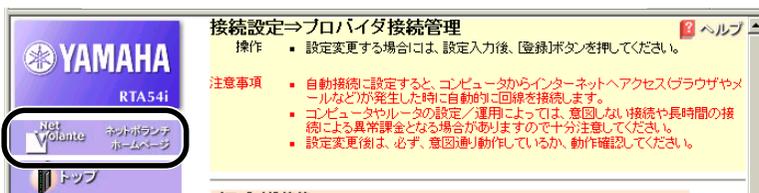
● 「相手が話中です (17)」と表示されている場合

アクセスポイントにつながりません。[登録の修正] ボタンを押して、[電話番号] の設定を確認してください。正しく設定されている場合は、フレッツ・ISDN 回線のトラブルです。NTT へお問い合わせください。

● それ以外の失敗した理由が表示された場合

[ユーザID] や [パスワード] の設定が間違っている可能性があります。[登録の修正] ボタンを押して、プロバイダの設定情報書類を見直しながら設定内容を確認したり、パスワードを大文字/小文字や全角/半角に注意しながら入力し直してから、もう一度手動接続を行ってください。

16 ページ左上の [ネットボランチホームページ] を押します。

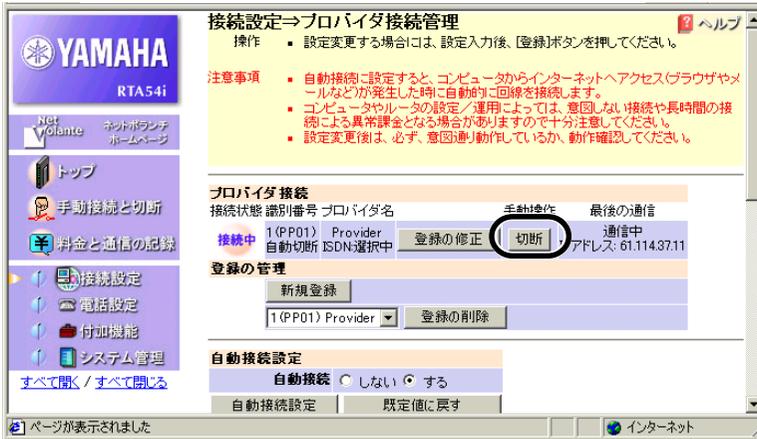


インターネットのNetVolanteのホームページが表示されれば、ルータの設定は成功です。

● 表示されない場合

[DNS サーバアドレス] の設定が間違っている可能性があります。[切断] ボタンを押して一旦接続を切断してから、[登録の修正] ボタンを押して、設定内容をもう一度確認してください。

- 17 接続できることを確認できたらブラウザの [戻る] ボタンを押して接続先一覧に戻り、接続方式で [自動切断] を選択した場合は、登録したプロバイダの [切断] ボタンを押して手動切断します。



接続方法で [自動切断する] を設定した場合は手動切断しなくても、一定時間インターネットへアクセスしないと、自動的にプロバイダとの接続が切れます。

MEMO ・フレッツ・ISDNは定額料金制なので、発信制限は自動設定されません。

- 18 [自動接続設定] が [する] になっていて、[自動接続先] に登録したプロバイダが選択されていることを確認します。



これでルータのフレッツ・ISDN 接続設定は完了です。

4.3 CATV/ADSL 接続を設定する

CATV や、PPPoE 方式以外の ADSL でインターネットに接続する場合は、本機の「かんたん設定ページ」を開いて、CATV/ADSL の接続先を設定します。PPPoE 方式 ADSL 接続の場合は、「4.4 フレッツ・ADSL 接続を設定する」(→ P.4-23) をご覧ください。

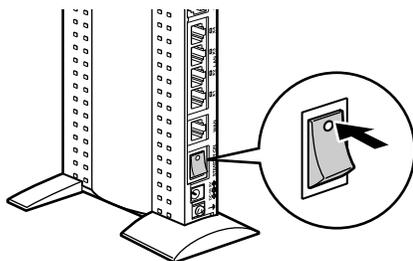


注意

- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定 (TA 接続利用時) の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける可能性が高くなります。十分なセキュリティ設定を行って、ご使用ください。(→ユーザーズマニュアル「第6章 ファイアウォール機能の使いかた」)

ここでは Windows Me と Internet Explorer 5.5 の画面を例に説明しています。他の OS の場合、画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。「RTA54i パソコンセットアップ」で引き続き設定する場合は、手順 **4** から始めてください。

1 POWER スイッチをオンにします。



2 パソコンを起動し、ブラウザを開いて [ファイル] メニューの [開く] を選択します。

3 <http://setup.netvolante.jp/> と入力して [OK] ボタンを押します。

本機の IP アドレス (工場出荷時は 192.168.0.1) を入力して開くこともできます。

(例 <http://192.168.0.1/>)

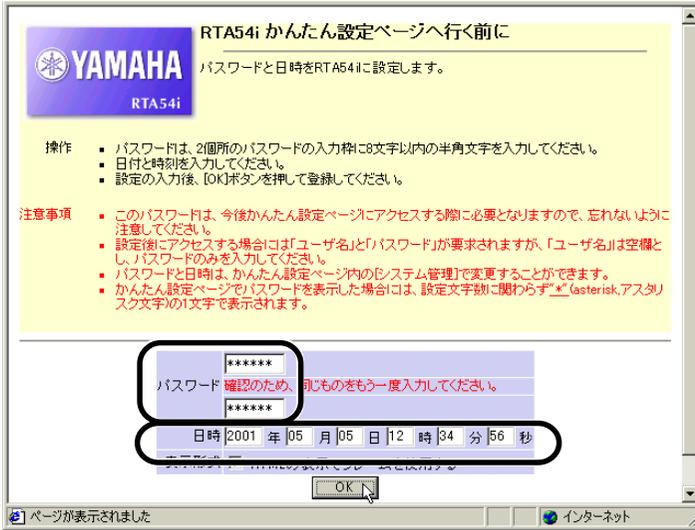


初めて開いたときは、「RTA54i かんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。2度目以降は、手順 **5** へ進んでください。

MEMO

- ・「RTA54i かんたん設定ページへ行く前に」が表示されないときは、ルータやパソコンの接続やパソコンの設定を確認してください。(→「第2章 ルータを設置しよう」「第3章 パソコンを設定しよう」)

4 ルータの管理パスワードを2つの入力欄に入力し、日時を設定して [OK] ボタンを押し、確認のメッセージに従って操作します。



4

ルータを設定しよう

MEMO

- ルータの管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に大切に管理してください。

5 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。

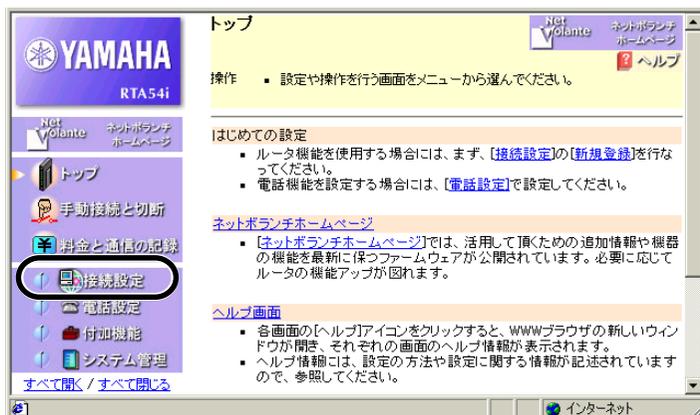


「トップ」ページが表示されます。

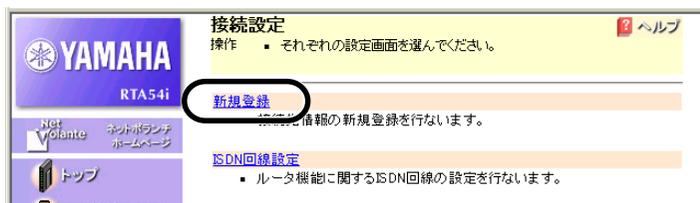
Win

Mac

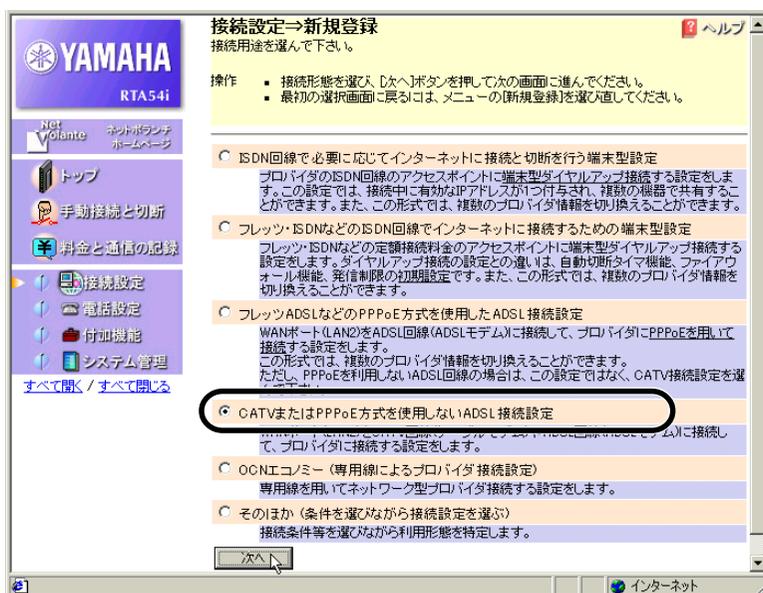
6 [接続設定] を押します。



7 [新規登録] を押します。

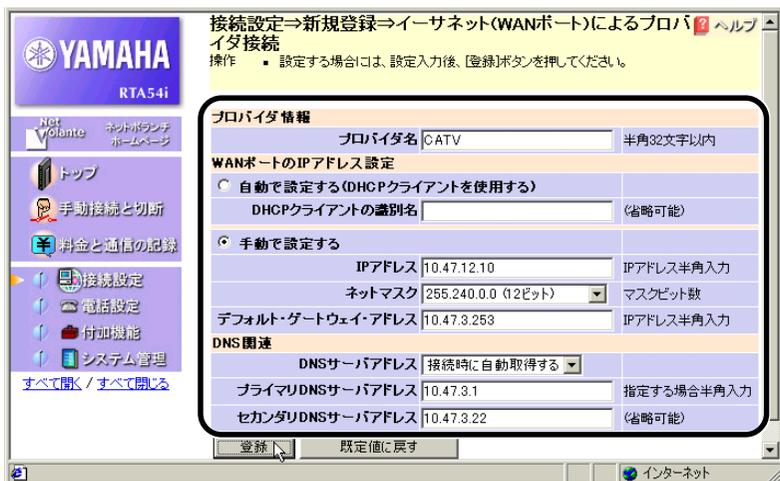


8 [CATVまたはPPPoE方式を使用しないADSL接続設定] を選択し、[次へ] ボタンを押します。



設定入力ページが表示されます。

9 プロバイダまたはCATV業者の設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力します。



4

ルータを設定しよう

プロバイダ名： 接続先がわかるような任意の名称を入力してください。

WANポートのIPアドレス設定： WANポートに割り当てるIPアドレスの取得方法を選択します。

[自動で設定する] 自動取得となっている場合に選択してください。

[手動で設定する] プロバイダまたはCATV業者からIPアドレスが指定されている場合に選択してください。

IPアドレスの指定： IPアドレスをプロバイダまたはCATV業者から指定されている場合に入力してください。

ネットマスク： ネットマスクをプロバイダまたはCATV業者から指定されている場合に入力してください。

デフォルトゲートウェイアドレス：デフォルトゲートウェイをプロバイダまたはCATV業者から指定されている場合に入力してください。

DNSサーバアドレス： DNSサーバアドレスの取得方法を選択します。

[IPアドレスを指定する] プロバイダまたはCATV業者からDNSサーバアドレスが指定されている場合に選択してください。

[接続時に自動取得する] プロバイダまたはCATV業者からDNSサーバアドレスが指定されていない場合や自動取得となっている場合に選択してください。

プライマリDNSサーバアドレス： DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力してください。

セカンダリDNSサーバアドレス： DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力してください。(省略可)



・RTA54iは工場出荷状態でLAN側のネットワークアドレスとして192.168.0.0/24を使用します。WAN側のネットワークアドレスとLAN側のネットワークアドレスが同じ場合は、ルータのIPアドレスを変更することでLAN側のネットワークアドレスを変更します。(→ユーザーズマニュアル「7.6 ルータのIPアドレスを変更する」)

Win

Mac

10 入力し終わったら、[登録] ボタンを押します。

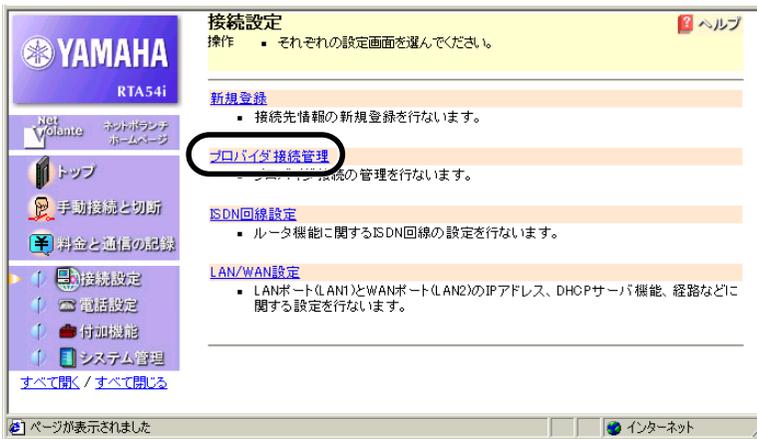
メッセージに従ってボタンを押すと接続先が登録されます。



注意

- ・インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける可能性が高くなります。十分なセキュリティ設定を行って、ご使用ください。(→ユーザーズマニュアル「第6章 ファイアウォール機能の使いかた」)

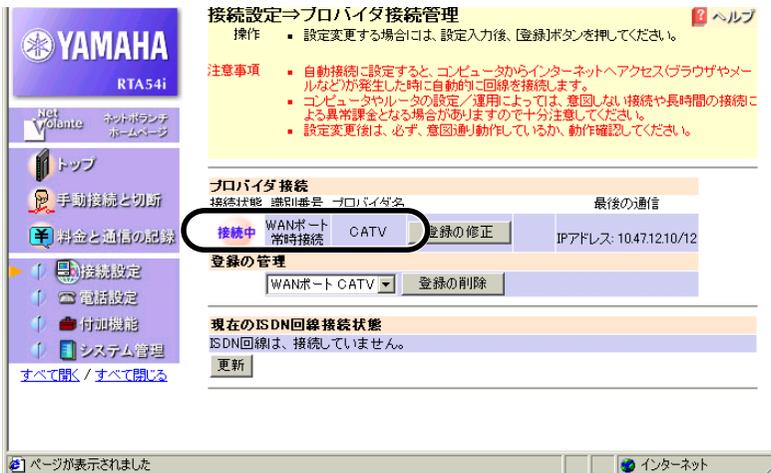
11 [プロバイダ接続管理] を押します。



4

ルータを設定しよう

12 左側に「接続中」が表示されていることを確認します。



接続できない場合は、以下のことを確認してください。詳細については、ユーザーズマニュアル「第8章 困ったときは」をご覧ください。

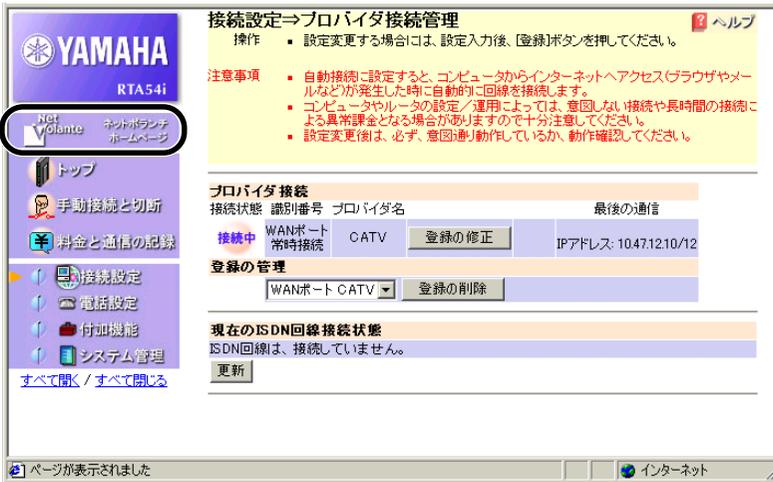
●失敗した理由が表示された場合

[WANポートのIPアドレス設定] の [IPアドレス] や [ネットマスク] の設定が間違っている可能性があります。[登録の修正] ボタンを押して、プロバイダの設定情報書類を見直しなが設定内容を確認してください。

Win

Mac

13 ページ左上の [ネットボランチホームページ] を押します。



インターネットの NetVolante のホームページが表示されれば、ルータの設定は完了です。

●表示されない場合

[DNS サーバアドレス] の設定が間違っている可能性があります。
 [登録の修正] ボタンを押して、設定内容をもう一度確認してください。
 また、ファイアウォール機能により制限されている可能性もありますので、
 [登録の修正] ボタンを押して、「ファイアウォール機能の適用」でセキュリティレベルを変更してください。



4

ルータを設定しよう

Win

Mac

4.4 フレッツ・ADSL 接続を設定する

フレッツ・ADSL など、PPPoE 方式でインターネットに接続する場合は、本機の「かんたん設定ページ」を開いて、フレッツ・ADSL の接続先を設定します。

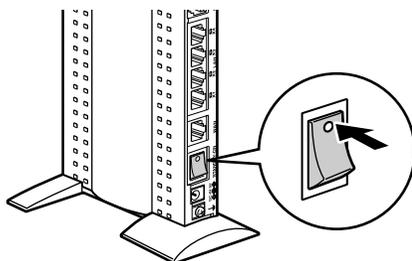


注意

- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定 (TA 接続利用時) の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける可能性が高くなります。十分なセキュリティ設定を行って、ご使用ください。(→ユーザーズマニュアル「第6章 ファイアウォール機能の使いかた」)

ここでは Windows Me と Internet Explorer 5.5 の画面を例に説明しています。他の OS の場合、画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。「RTA54i パソコンセットアップ」で引き続き設定する場合は、手順 **4** から始めてください。

1 POWER スイッチをオンにします。



2 パソコンを起動し、ブラウザを開いて [ファイル] メニューの [開く] を選択します。

3 <http://setup.netvolante.jp/> と入力して [OK] ボタンを押します。

本機の IP アドレス (工場出荷時は 192.168.0.1) を入力して開くこともできます。

(例 <http://192.168.0.1/>)

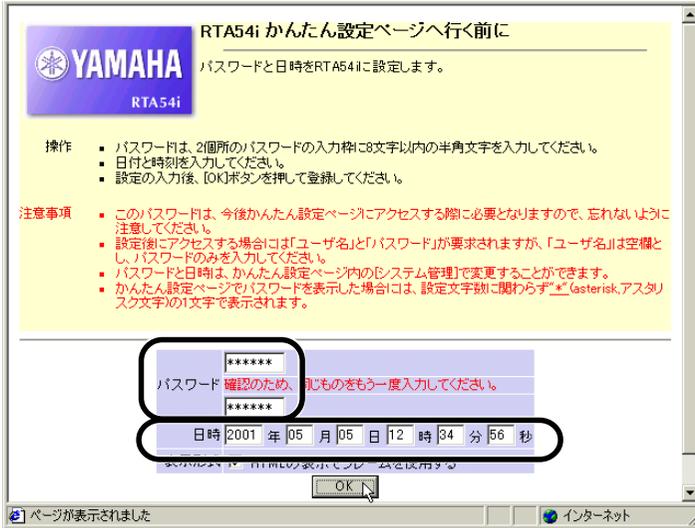


初めて開いたときは、「RTA54i かんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。2度目以降は、手順 **5** へ進んでください。

MEMO

- ・「RTA54i かんたん設定ページへ行く前に」が表示されないときは、ルータやパソコンの接続やパソコンの設定を確認してください。(→「第2章 ルータを設置しよう」「第3章 パソコンを設定しよう」)

4 ルータの管理パスワードを2つの入力欄に入力し、日時を指定して [OK] ボタンを押し、確認のメッセージに従って操作します。



4

ルータを設定しよう

MEMO

- ルータの管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に大切に管理してください。

5 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。

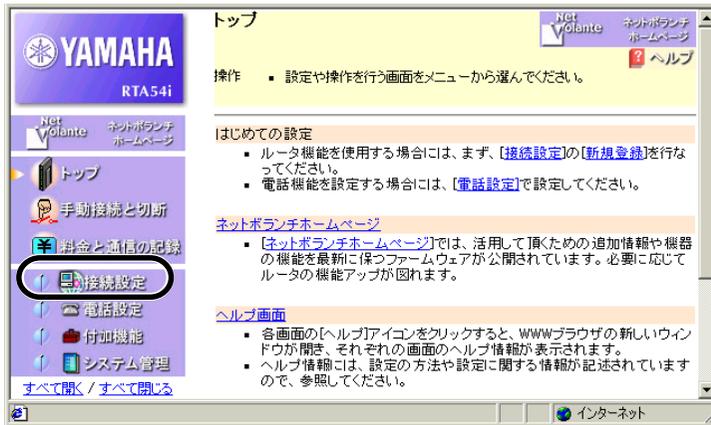


「トップ」ページが表示されます。

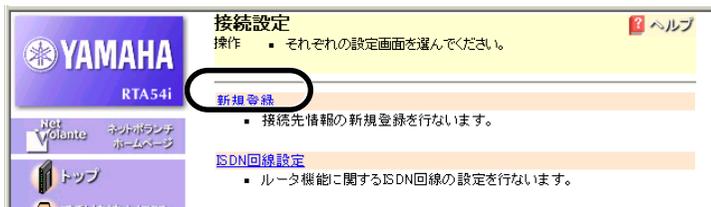
Win

Mac

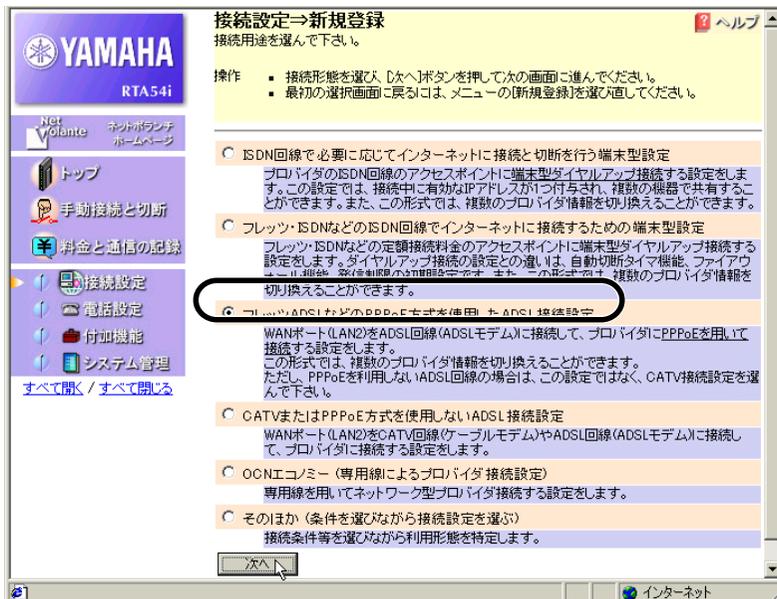
6 [接続設定] を押します。



7 [新規登録] を押します。



8 [フレッツ・ADSLなどのPPPoE方式を使用したADSL接続設定] を選択し、[次へ] ボタンを押します。



設定入力ページが表示されます。

9 プロバイダの設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力します。

プロバイダ名： 接続先がわかるような任意の名称を入力してください。

ユーザ ID： プロバイダから指定されたフレッツ・ADSL接続用のユーザ ID を入力してください。ユーザ ID は、必ず書類を確認してください。

例) username@provider.ne.jp
 username@aaa.provider.ne.jp
 (サブドメインが付加される場合)

パスワード： 指定されたパスワードまたは自分で変更したパスワードを入力してください。半角英数字で大文字小文字も正確に入力してください。

接続方式： フレッツ・ADSL の使いかたを選択します。
 [自動切断する] その都度接続したい場合に選択してください。
 [常時接続する] 常に接続したままにしたい場合に選択してください。

DNS サーバアドレス： DNS サーバアドレスの取得方法を選択します。
 [IP アドレスを指定する] プロバイダから DNS サーバアドレスが指定されている場合に選択してください。
 [接続時に自動取得する] プロバイダから DNS サーバアドレスが指定されていない場合や自動取得となっている場合に選択してください。

プライマリ DNS サーバアドレス: DNS サーバアドレスが指定されている場合に入力してください。

セカンダリ DNS サーバアドレス: DNS サーバアドレスが2つ指定されている場合に入力してください。(省略可)

- 10** 入力し終わったら、**[登録]** ボタンを押します。
メッセージに従ってボタンを押すと接続先が登録されます。



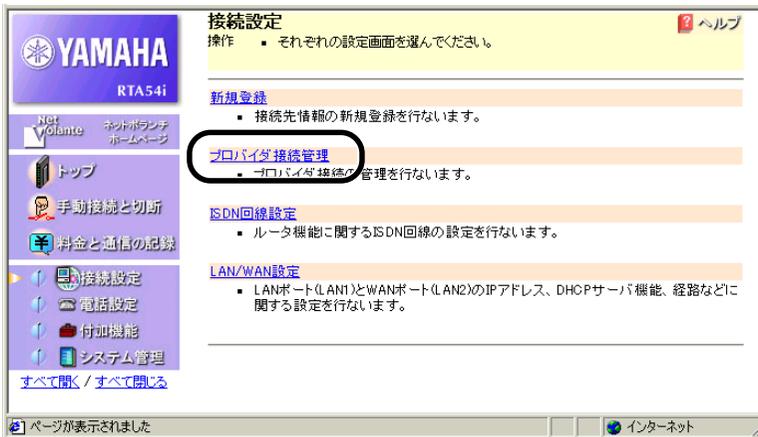
注意

- ・インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける可能性が高くなります。十分なセキュリティ設定を行って、ご使用ください。(→ユーザーズマニュアル「第6章 ファイアウォール機能の使いかた」)

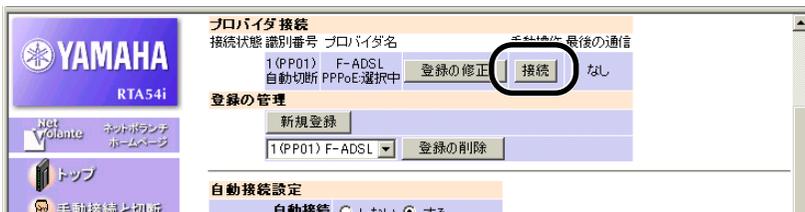
MEMO

- ・設定したパスワードの文字数を隠すため、ページを再表示したときは、パスワード欄が「*」一つだけの表示となります。

- 11** **[プロバイダ接続管理]** を押します。



- 12** 接続方式で **[必要なとき接続する]** を選択した場合は、登録したプロバイダの **[接続]** ボタンを押して、**手動接続** します。



左側に「接続中」が表示されたら、正しく設定されています。接続できない場合は、以下のことを確認してください。詳細については、ユーザーズマニュアル「第8章 困ったときは」をご覧ください。

●失敗した理由が表示された場合

[ユーザID] や [パスワード] の設定が間違っている可能性があります。[登録の修正] ボタンを押して、プロバイダの設定情報書類を見直しながら設定内容を確認したり、パスワードを大文字/小文字や全角/半角に注意しながら入力し直してから、もう一度手動接続を行ってください。

13 ページ左上の【ネットボランチホームページ】を押します。

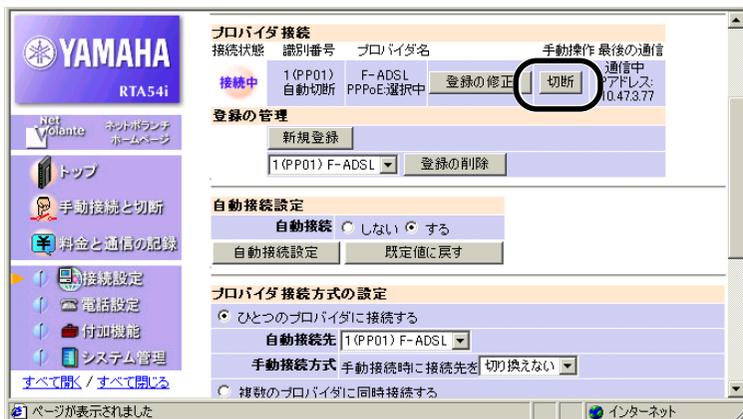


インターネットのNetVolanteのホームページが表示されれば、ルータの設定は成功です。

●表示されない場合

[DNS サーバアドレス] の設定が間違っている可能性があります。[切断] ボタンを押して、一旦接続を切断してから、[登録の修正] ボタンを押して、設定内容をもう一度確認してください。

14 接続できることを確認できたらブラウザの【戻る】ボタンを押して接続先一覧に戻り、接続方式で【必要なとき接続する】を選択した場合は、登録したプロバイダの【切断】ボタンを押して手動切断します。



接続方法で【自動切断する】を設定した場合は手動切断しなくても、一定時間インターネットへアクセスしないと、自動的にプロバイダとの接続が切れます。

MEMO ・フレッツ・ADSLは定額料金制なので、発信制限は自動設定されません。

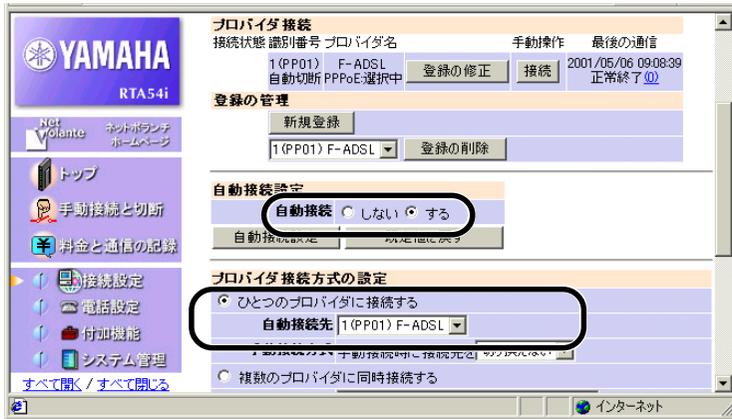
4

ルータを設定しよう

Win

Mac

- 15 [自動接続設定] が [する] になっていて、[自動接続先] に登録したプロバイダが選択されていることを確認します。



これで、ルータのフレッツ・ADSL 接続設定は完了です。

4.5 専用線接続を設定する

OCNエコノミーやデジタルアクセス64/128などでインターネットに接続する場合は、本機の「かんたん設定ページ」を開いて、専用線の接続先を設定します。



注意

- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定（TA接続利用時）の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける可能性が高くなります。十分なセキュリティ設定を行って、ご使用ください。（→ユーザーズマニュアル「第6章 ファイアウォール機能の使いかた」）

ここでは、IP マスカレードを使用した設定を、Windows Me と Internet Explorer 5.5 の画面を例に説明しています。他の OS の場合、画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。「RTA54i パソコンセットアップ」で引き続き設定する場合は、手順 4 から始めてください。

4

ルータを設定しよう

1 本機と設定を行うパソコンだけ電源を入れて、他のパソコンを終了します。

MEMO

- ・他のすべてのパソコンを終了できない場合は、本機に1台のパソコンだけ接続している状態にして、設定を行います。本機に接続されている LAN ケーブルを一旦すべて外し、LAN 1 ポートと設定を行うパソコンの LAN ポートを付属の LAN ケーブルで接続してください。

2 ブラウザを開いて【ファイル】メニューの【開く】を選択します。

3 <http://setup.netvolante.jp/> と入力して【OK】ボタンを押します。

本機の IP アドレス（工場出荷時は 192.168.0.1）を入力して開くこともできます。

（例 <http://192.168.0.1/>）



初めて開いたときは、「RTA54i かんたん設定ページへ行く前に」が表示されます。2度目以降は、手順 5 へ進んでください。

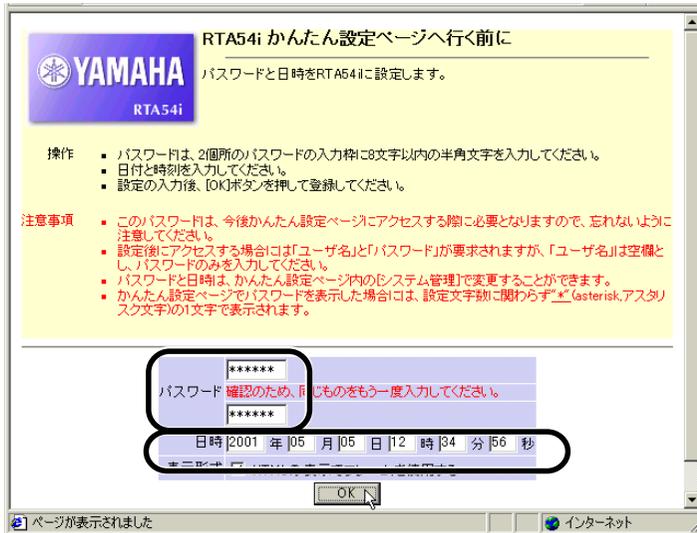
MEMO

- ・「RTA54i かんたん設定ページへ行く前に」が表示されないときは、ルータやパソコンの接続やパソコンの設定を確認してください。（→「第2章 ルータを設置しよう」「第3章 パソコンを設定しよう」）

Win

Mac

4 ルータの管理パスワードを2つの入力欄に入力し、日時を設定して [OK] ボタンを押し、確認のメッセージに従って操作します。



MEMO

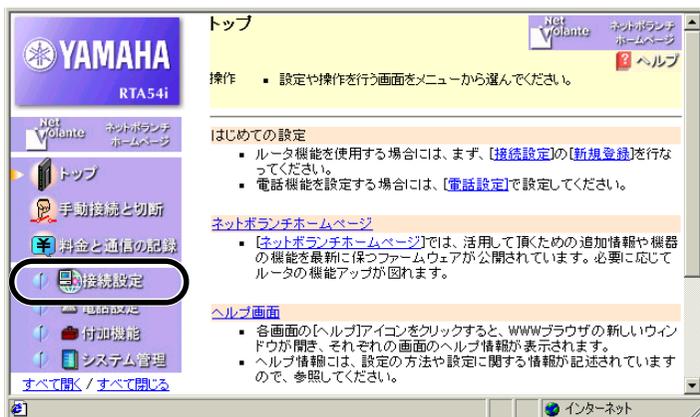
- ルータの管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に大切に管理してください。

5 [パスワード] 入力欄にルータの管理パスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。

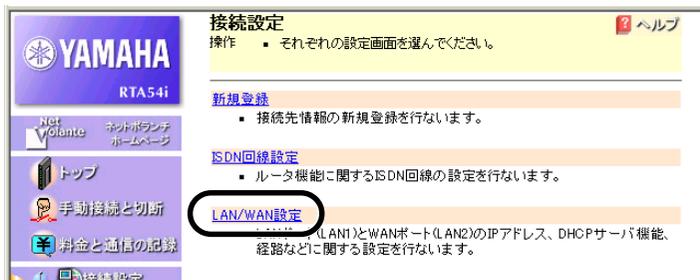


「トップ」ページが表示されます。

6 [接続設定] を押します。



7 [LAN/WAN設定] を押します。



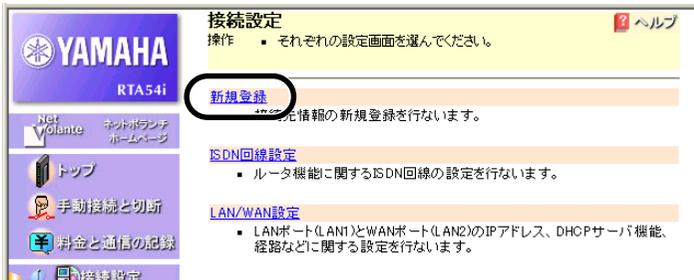
8 [LANポート (LAN1) のIPアドレス設定] の [セカンダリ・IPアドレス] に、現在 [プライマリ・IPアドレス] に設定されているプライベートIPアドレスとネットマスク (工場出荷時は 192.168.0.1/24) を入力し、[プライマリ・IPアドレス] にはプロバイダから割り当てられたIPアドレスの中からルータに設定するIPアドレスとネットマスクを設定して、[登録] ボタンを押します。



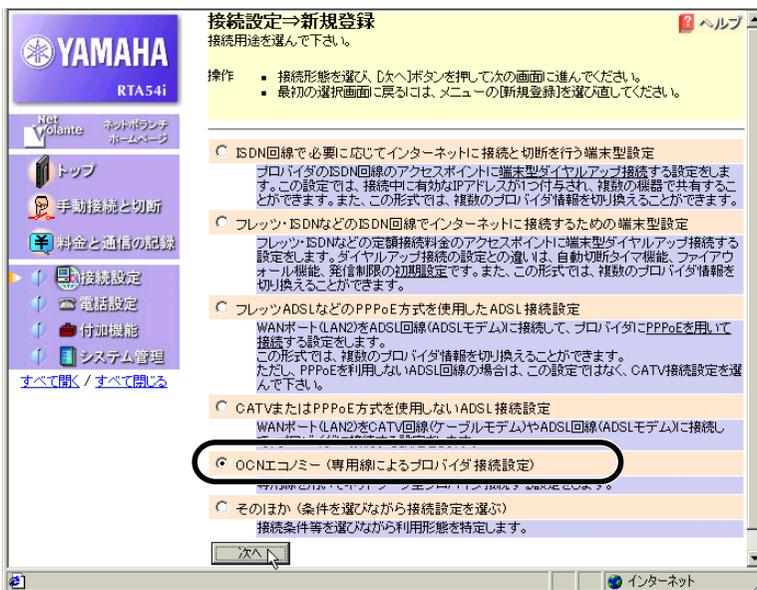
MEMO ・ LAN 側をプライベートアドレスで利用する場合は、LAN ポートの IP アドレスの設定を変更する必要はありません。

9 [接続設定] を押します。

10 [新規登録] を押します。



11 [OCNエコノミー（専用線によるプロバイダ接続設定）] を選択し、[次へ] ボタンを押します。



設定入力ページが表示されます。

12 プロバイダの設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力します。

The screenshot shows the 'プロバイダ情報' (Provider Information) section of the Yamaha RTA54i router's configuration interface. The fields are as follows:

- プロバイダ名 (Provider):** Provider (半角32文字以内)
- 回線の種類 (Line Type):** Radio buttons for 128 [kbit/s] (OCNエコノミー、HSD128、DA128等) and 64 [kbit/s] (HSD64、DA64など)
- NAT機能 (NAT Function):**
 - 動的アドレス変換(NAT):** IPマスカレードを使用する (selected)
 - NAT外側アドレス範囲 (NATグローバルアドレス):** 始点: 10.92.19.126, 終点: (空欄), IPアドレス半角入力
 - NAT内側アドレス範囲 (NATプライベートアドレス):** 指定: (空欄)
 - Radio buttons: 全てのアドレスをNAT変換対象とする (selected), 指定したアドレスをNAT変換対象とする
 - Checkboxes: 以下のルータの設定値よりチェックされた範囲を適用する (checked), LANポートのプライマリ・アドレス範囲(10.92.19.1~10.92.19.255) (unchecked), LANポートのセカンダリ・アドレス範囲(192.168.0.1~192.168.0.255) (checked)
- DNS関連 (DNS Related):**
 - DNSサーバアドレス:** IPアドレスを指定する (selected)
 - プライマリDNSサーバアドレス:** 10.47.3.1 (指定する場合半角)
 - セカンダリDNSサーバアドレス:** 10.47.3.22 (省略可能)
 - DNSドメイン名:** (省略可能)

4

ルータを設定しよう

プロバイダ名: 接続先のわかるような任意の名称を入力してください。

回線の種類: 契約した回線の種類を選択します。
 [64kbit/s] デジタルアクセス64などの場合に選択してください。
 [128kbit/s] OCNエコノミーやデジタルアクセス128などの場合に選択してください。

動的アドレス変換(NAT): WAN側とLAN側のアドレス変換方法を選択します。
 [IPマスカレードを使用する] WAN側とLAN側のアドレスを1対多数で変換する場合に選択してください。
 [NATを使用する] WAN側とLAN側のアドレスを1対1で変換する場合に選択してください。
 [使用しない] アドレス変換機能を使用しない場合に選択してください。

NAT 外側アドレス範囲: WAN側に割り当てる共用グローバルIPアドレスを入力してください。

NAT 内側アドレス範囲: アドレス変換を行うプライベートIPアドレスの範囲を入力してください。

DNS サーバアドレス: DNS サーバアドレスの取得方法を選択します。
 [IPアドレスを指定する] プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合に選択してください。

[接続時に自動取得する] プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や自動取得となっている場合に選択してください。

プライマリDNSサーバアドレス: DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力してください。

セカンダリDNSサーバアドレス: DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力してください。(省略可)

ドメイン名: ドメイン名が指定されている場合に入力してください。(省略可)

Win

Mac

13 入力し終わったら、[登録] ボタンを押します。

メッセージに従ってボタンを押すと、接続先が登録されてルータが再起動します。



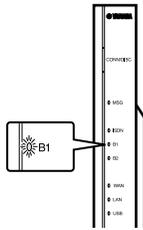
注意

・インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける可能性が高くなります。十分なセキュリティ設定を行って、ご使用ください。(→ユーザーズマニュアル「第6章 ファイアウォール機能の使いかた」)

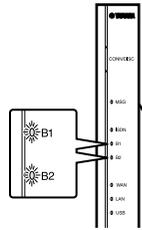
14 本機の再起動が終わったら、ランプの表示を確認します。

64kbit/s 回線の場合は B1 ランプ、128kbit/s 回線の場合は B1 と B2 ランプが点灯します。

●64kbit/s回線の場合



●128kbit/s回線の場合

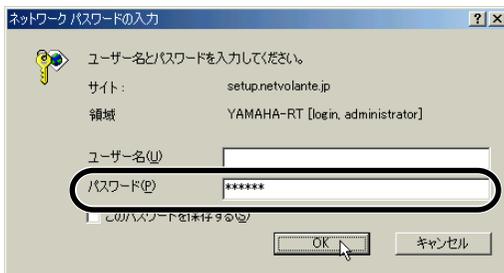


正しく表示点灯しないときは、「かんたん設定ページ」を開いて手順12の登録をやり直してください。

15 パソコンを再起動します。

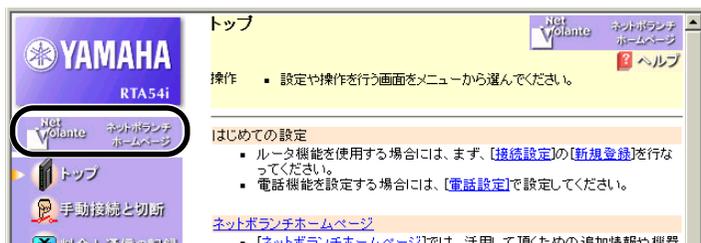
16 ブラウザを開き、アドレス入力欄に <http://setup.netvolante.jp/> または “http:// (ルータの IP アドレス) /” と入力し、[enter] キーを押します。

17 [パスワード] 入力欄に管理ルータのパスワードを入力し、[OK] ボタンを押します。



「トップ」 ページが表示されることを確認してください。

18 ページ左上の [NetVolante ホームページ] を押します。



インターネットの NetVolante のホームページが表示されれば、ルータの設定は成功です。

●表示されない場合

[DNSサーバアドレス] の設定が間違っている可能性があります。[登録の修正] ボタンを押して、設定内容をもう一度確認してください。

4

ルータを設定しよう

19 インターネットへアクセスできることを確認したら、他のパソコンを起動します。

LAN ケーブルを付け替えたときは、元に戻してから他のパソコンを起動してください。これで、専用線接続の設定は完了です。

MEMO

・ルータを正しく認識しないときは、パソコンのIPアドレスをリセットしてください。(→ユーザーズマニュアル「8.7 パソコンのIPアドレスをリセットするには」)

■使用できるIPアドレスについて

プロバイダから割り当てられたIPアドレスのうち、始めの番号はネットワークアドレス、最後の番号はブロードキャストアドレスに割り当てられるきまりになっていて、使うことができません。

例えば、"172.16.128.112/28" のIPアドレスを割り当てられた場合、割り当てられた番号は "172.16.128.112" ～ "172.16.128.127" の 16 個ですが、

172.16.128.112 = ネットワークアドレス
172.16.128.113
:
172.16.128.126
172.16.128.127 = ブロードキャストアドレス

となり、実際にルータやパソコンなどに使える番号は、"172.16.128.113" ～ "172.16.128.126" の 14 個となります。

Win

Mac

第5章

ルータを使ってみよう

この章では、ダイヤルアップルータでインターネットに接続する時の基本的な操作や知っておいてほしい知識について説明しています。使い始める前に、ご一読ください。

5.1	RTAssistで操作する	5-2
	RTAssistを開く	5-2
	RTAssistを閉じる	5-3
	手動で接続する	5-4
	手動で切断する	5-4
	接続状態を確認する	5-5
	料金情報を確認する	5-5
	ルータ設定や通信記録を保存する	5-6
5.2	インターネット接続を開始する	5-7
	自動で接続する	5-7
	ボタンで接続する	5-8
5.3	インターネット接続を終了する	5-9
	自動で切断する	5-9
	ボタンで切断する	5-10
5.4	ルータの動作状態を確認する	5-11
	ランプで確認する	5-11
	かんたん設定ページで確認する	5-12
5.5	プロバイダ接続を制限する	5-15
5.6	接続制限をリセットする	5-19
5.7	ブザーを止める	5-22
5.8	不審な自動接続が見つかったときは	5-25
	通信記録の見かた	5-26
	原因になりやすい設定項目	5-28

5.1 RTAssist で操作する

付属のユーティリティソフト「RTAssist」を使うと、LAN上のパソコンから手で接続や切断、および接続状態の確認や通信記録、料金情報の表示などを行うことができます。この機能を使うときは、先に「RTAssist」をインストールしてください。(→ P.3-4)

機能の詳細については、ソフトに添付の「Readme」や「お読みください」をご覧ください。



注意

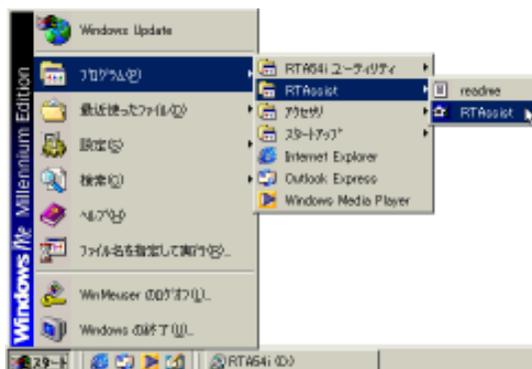
- ・ RTAssistはtelnetにより制御を行っています。RTAssist起動中は他のtelnetによるRTA54iへのアクセスはできません。同様に、他のtelnetによりRTA54iにアクセスしている場合は、RTAssistは使用できません。
- ・ RTAssist起動中は、「かんたん設定ページ」やコマンド、その他の方法による本機の設定変更は行わないでください。
- ・ 本機の設定を「かんたん設定ページ」(コマンド入力を除く)で行った場合のみ、RTAssistでの制御が可能です。
- ・ USB接続でRTAssistを使用する場合は、事前に擬似LAN接続で本機に接続しておく必要があります。(→ P.6-31)

RTAssistを開く

1 [RTAssist] を開きます。

● Windows の場合

[スタート] - [プログラム] - [RTAssist] - [RTAssist] から開きます。



● Mac OS の場合

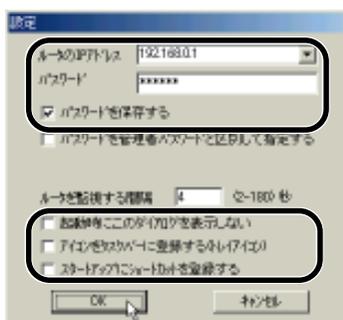
ハードディスクにコピーした [RTAssist] アイコンを開きます。



MEMO

- ・ Windowsの場合、すでにRTAssistが起動されているときは、タスクバーのアイコンから左ボタンのダブルクリック、または右ボタンのメニューで開くことができます。

2 [ルータのIPアドレス] と [パスワード] を入力し、[OK] ボタンを押します。



「RTAssist」のウィンドウが開きます。



MEMO

- ・ Windows の場合、[起動時にこのダイアログを表示しない]、[アイコンをタスクバーに登録する]、[スタートアップにショートカットを登録する]の3項目をすべてチェックすると、パソコン起動時に自動起動してタスクバーのアイコンから開くことができます。
- ・ Windowsの場合、タスクバーから削除するには右ボタンのメニューで終了を選択してください。

RTAssist を閉じる

1 [終了] または [閉じる] ボタンを押します。



MEMO

- ・ [閉じる] ボタンの場合、RTAssist は常駐したままでタスクバーに残ります。完全に終了するためには、タスクバーのアイコン上でマウスの右ボタンを押してメニューを開き、[終了] を選択してください。



手動で接続する

登録したプロバイダに手動で接続するときは、次の手順で行います。

- 1 [RTAssist] を開きます。
- 2 接続したいプロバイダを選択し、[接続] ボタンを押します。



プロバイダに接続すると、プロバイダ名やアクセスポイントの番号、接続時間が表示されます。



MEMO

- ・プロバイダに接続していない状態で [ルータ情報] ダイアログの [自動接続する] のチェックをはずすことで、ルータの自動接続動作を禁止することができます。

手動で切断する

接続中のプロバイダを切断したいときは、次の手順で行います。

- 1 [RTAssist] を開きます。
- 2 接続中のプロバイダの [切断] ボタンを押します。



切断すると、プロバイダの表示が消えます。

接続状態を確認する

「RTAssist」を開くとインターネット接続状態が表示されます。

1 [RTAssist] を開きます。

インターネット接続状態が表示されます。



料金情報を確認する

接続先ごとや各ポートごとの累積料金を確認できます。

1 [RTAssist] を開きます。

2 [料金情報] ボタンを押します。



各接続先ごとや各ポートごとの累積料金が表示されます。



MEMO

- ・通信料金はNTTから通知される料金を累積して表示しています。NTTから通知される料金は少数点以下が切り上げられたり、各種割引サービスやNTT以外の回線業者の料金が反映されないことなどにより、実際に請求される料金と異なる場合があります。あくまで目安と考えてください。

ルータ設定や通信記録を保存する

ルータ設定や通信記録をパソコンのファイルに保存することができます。

注意 ・保存したファイルには、ユーザIDやパスワードなどの重要な情報が含まれていますので、扱いには十分注意して下さい。

MEMO ・トラブル発生時には、原因調査のためにこれらのルータ情報を保存しておくことをお勧めします。

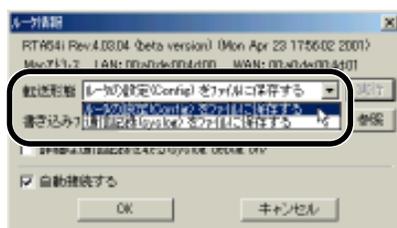
1 [RTAssist] を開きます。

2 [ルータ情報] ボタンを押します。

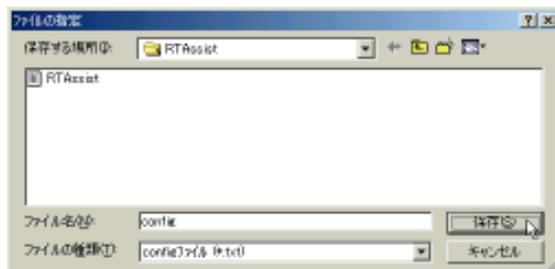


ルータのリビジョン番号や MAC アドレスが表示されます。

3 [転送形態] で [ルータの設定 (Config) をファイルに保存する] または [通信記録 (syslog) をファイルに保存する] を選択します。



4 [参照] ボタンを押して保存先とファイル名を入力します。



5 [実行] ボタンを押します。

ルータ設定または通信記録が、パソコンにファイルとして保存されます。

5.2 インターネット接続を開始する

ISDN 回線でのダイヤルアップ接続の場合、ルータは LAN 内の情報を監視し、インターネットへのアクセスが必要になると自動的に接続します。通常は、パソコンでホームページやメールを見る操作をするだけで、インターネットの接続・切断が自動的に行われます。また、本機のボタンやユーティリティソフトで、手動接続を行うこともできます。

自動接続をするかしないかは、「かんたん設定ページ」の「プロバイダ接続管理」ページで変更することができます。手動接続をする場合は、あらかじめ「CONN/DISC ボタンによる接続/切断設定」で変更する必要があります。初期設定では、ボタンによる接続は [しない]、ボタンによる切断は [する] に設定されています。



注意

- ・お使いのソフトウェアの設定によっては定期的にインターネットに接続されて、電話料金が異常に多くなることがあります。ときどき接続ログを見て、意図しない接続がないか、確認してください。(→ P.5-25)
- ・ソフトウェアによっては、意識的に起動しなくてもパソコンを起動しているだけで自動的に動作しているものがあり、知らないうちに自動発信を繰り返している場合があるので、十分注意してください。(→ P.5-25)

MEMO

- ・ CONN/DISC ボタンでは、CATV や ADSL、TA、アナログポートの接続/切断はできません。

自動で接続する

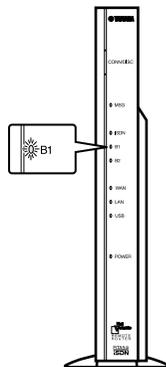
自動接続の場合は、接続のための操作はありません。ブラウザで URL を入力したり、メールソフトで送信や受信の操作を行うだけで、自動的に接続されます。

1 ブラウザのアドレス入力欄に URL を入力し、[enter] キーを押します。

自動的にインターネットへ接続され、ホームページが表示されます。

インターネットへ接続されているときは、B1 または B2 ランプが点灯します。

一定時間アクセスがないと、自動的に切断されます。



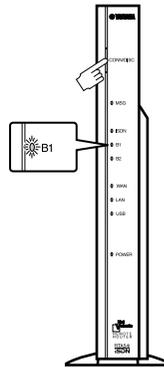
ボタンで接続する

「かんたん設定ページ」の「接続設定」ページで [CONN/DISC ボタンによる手動接続] の設定を [する] にしてある場合は、本機のボタンを押して手動で接続を行うことができます。この機能を使うときは、先に「かんたん設定ページ」で設定を行ってください。

MEMO ・本機の初期設定は、[CONN/DISC ボタンによる手動接続] が [しない] になっています。また、接続先は「かんたん設定ページ」で指定したプロバイダになります。

1 [CONN/DISC] ボタンを2秒以上押し続けます。

B1 または B2 ランプが点灯して、インターネットへ接続されます。



5

ルータを使ってみよう

Win

Mac

5.3 インターネット接続を終了する

ISDN回線でのダイヤルアップ接続の場合、ルータはLAN内から一定時間インターネットへのアクセスがないと、次の通話課金単位時間（初期設定では3分毎）で自動切断します。切断条件の設定は、「かんたん設定ページ」で変更することができます。また、本機のボタンやユーティリティソフトで、手動切断を行うこともできます。



注意

- ・お使いのソフトウェアの設定によっては定期的にインターネットに接続されて、電話料金が異常に多くなることがあります。ときどき接続ログを見て、意図しない接続がないか、確認してください。（→P.5-25）
- ・ソフトウェアによっては、意識的に起動しなくてもパソコンを起動しているだけで自動的に動作しているものがあり、知らないうちに自動発信を繰り返している場合があるので、十分注意してください。（→P.5-25）

MEMO

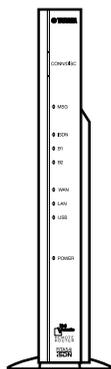
- ・CONN/DISC ボタンでは、CATV や ADSL、TA、アナログポートの接続を切断することはできません。

自動で切断する

自動接続の場合は、切断のための操作はありません。ブラウザによるアクセスや、メールソフトでの送受信操作を行わなくなると、自動的に切断されます。

1 インターネットへのアクセスをやめます。

次の通話課金単位時間（初期設定では3分毎）で自動切断されます。切断されると、B1 または B2 ランプが消灯します。



5

ルータを使ってみよう

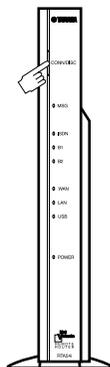
Win

Mac

ボタンで切断する

1 [CONN/DISC] ボタンを1秒以上押し続けます。

インターネット接続が切断され、点灯していたB1またはB2ランプが消灯します。



MEMO

- ・本機の初期設定は、[CONN/DISCボタンによる切断] が [する] になっています。ボタン切断の設定は「かんたん設定ページ」の「プロバイダ接続管理」ページで変更できます。

5

ルータを使ってみよう

Win

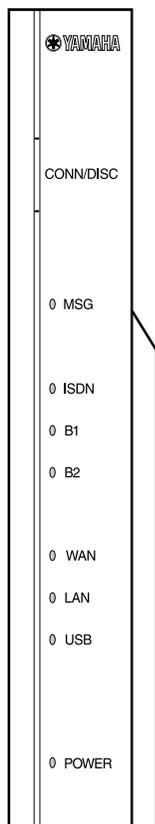
Mac

5.4 ルータの動作状態を確認する

ルータの動作状態は、ランプやユーティリティソフト、かんたん設定ページで確認することができます。

ランプで確認する

前面のランプは、次の状態を示します。



MSG :		プロバイダのメールサーバにメールが到着していることを示します。使用するには、かんたん設定ページでメールサーバの登録が必要です。
ISDN :		ISDN回線または専用線が正常な状態を示します。
		ISDN回線または専用線が使用できない状態を示します。
B1 :		B1チャンネルを使用している状態を示します。
		B1チャンネルにデータが流れていることを示します。
		B1チャンネルが空いている状態を示します。
B2 :		B2チャンネルを使用している状態を示します。
		B2チャンネルにデータが流れていることを示します。
		B2チャンネルが空いている状態を示します。
WAN :		WANが使用可能な状態を示します。
		WANにデータが流れていることを示します。
		WANが使用不可能な状態を示します。
LAN :		LANが使用可能な状態を示します。
		LANにデータが流れていることを示します。
		LANが使用不可能な状態を示します。
USB :		USBが使用可能な状態を示します。
		USBにデータが流れていることを示します。
		USBデバイスとして正しく認識されていない、またはサスペンド状態であることを示します。
		パソコンやUSBハブの電源が切れているか、USBケーブルが抜けている状態を示します。
POWER :		電源が入っていることを示します。
		停電状態でバックアップ電池による動作中を示します。
		停電状態でバックアップ電池による動作中であり、電池残量が少ないことを示します。新しい電池に交換してください。
		電源が切れているまたは停電していることを示します。

: 点灯 : 点滅 : ゆっくり点滅
 : 消灯

MEMO

・前面のLANランプは4つのLANポートをまとめた状態を示します。各LANポートの状態は背面のポート毎のランプで示されます。

かんたん設定ページで確認する

「かんたん設定ページ」では、より詳しい状態や通信記録を見ることができます。ここでは、Windows Me で Internet Explorer 5.5 を使った例に説明します。

■ かんたん設定ページを開く

MEMO ・ Windows 95/98/Me/2000 の場合は、[スタート] ボタン - [プログラム] - [RTA54i ユーティリティ] - [RTA54i かんたん設定ページ] でも開くことができます。

1 パソコンを起動し、ブラウザを開いて [ファイル] メニューの [開く] を選択します。

2 `http://setup.netvolante.jp/` と入力して [OK] ボタンを押します。

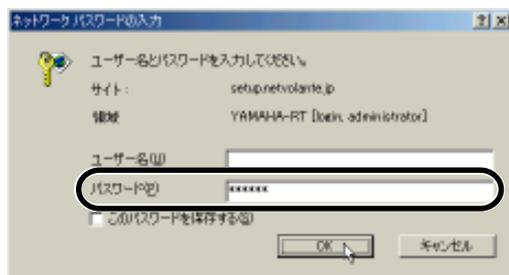
本機の IP アドレス（工場出荷時は 192.168.0.1）を入力して開くこともできます。

（例 `http://192.168.0.1/`）



「ネットワーク パスワードの入力」ウィンドウが表示されます。

3 ルータの管理パスワードまたはログインパスワードを入力して [OK] ボタンを押します。

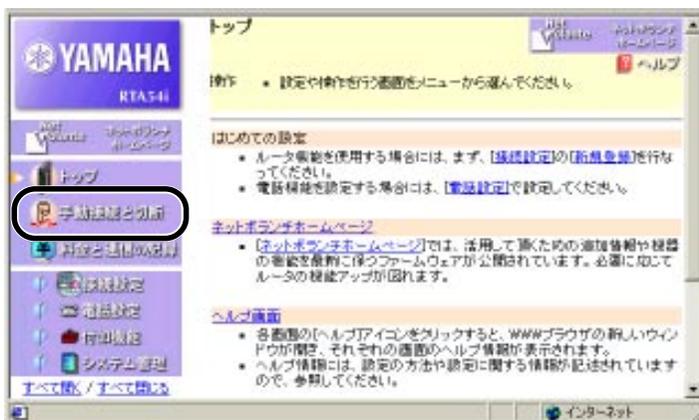


本機に内蔵の「トップ」ページが表示されます。

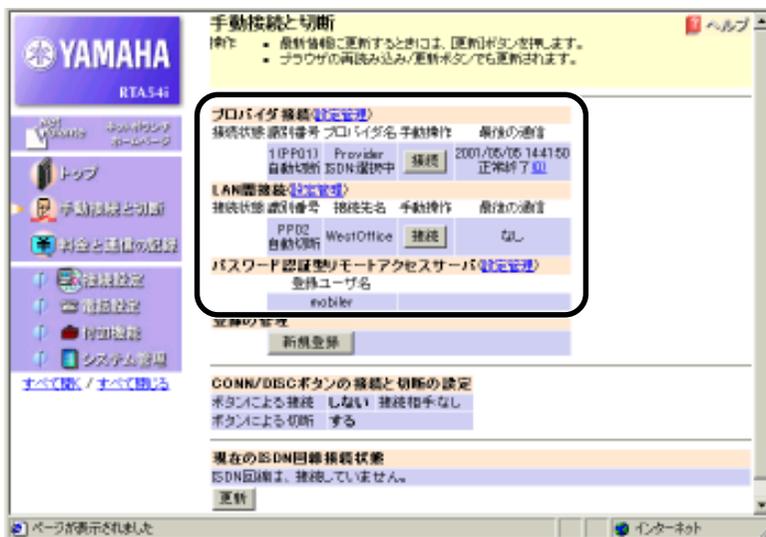
MEMO ・ 接続時のエラーメッセージや発信制限の警告メッセージがある場合は、「トップ」ページに表示されます。

■ インターネット接続状態を見る

1 「**手動接続と切断**」を押します。



「手動接続と切断」ページには、現在の接続状態が表示されています。登録済みの接続先毎に手動接続または切断が行えます。



5

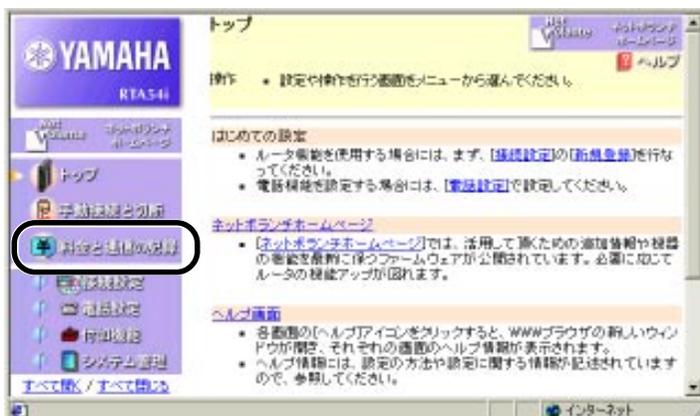
ルータを使ってみよう

Win

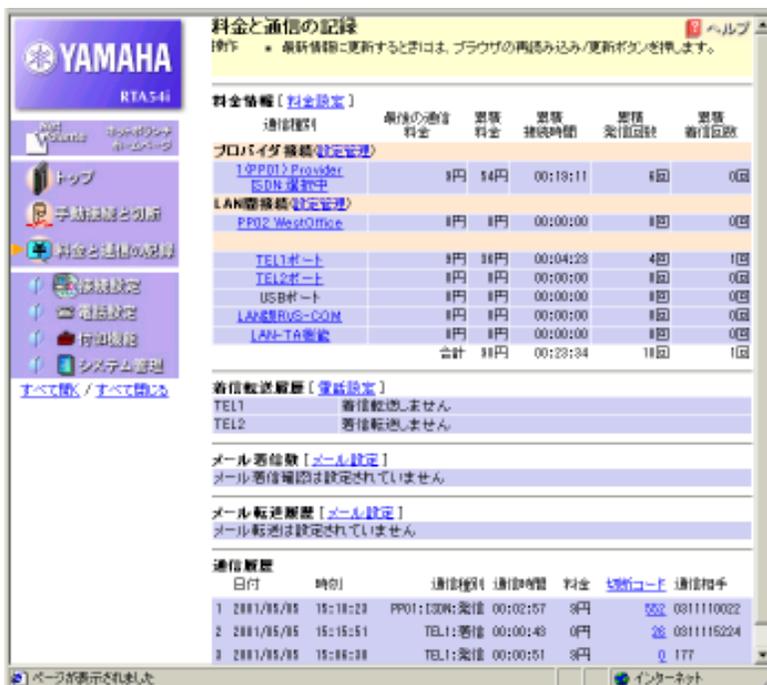
Mac

■ 通信記録を見る

1 [料金と通信の記録] を押します。



「料金と通信の記録」ページには、各ポート毎の料金や通話時間、通話毎の記録、着信転送件数、メールの着信件数、転送件数が表示されます。



MEMO

- ・通信料金はNTTから通知される料金を累積して表示しています。NTTから通知される料金は少数点以下が切り上げられたり、各種割引サービスやNTT以外の回線業者の料金が反映されないことなどにより、実際に請求される料金と異なる場合があります。あくまで目安とと考えてください。
- ・プロバイダ接続やLAN間接続の累積情報が発信制限に達している場合は、赤字で表示されます。その場合は、発信制限の値の見直しや料金のクリアにより発信できるようになります。

5.5 プロバイダ接続を制限する

ISDN 回線でのダイヤルアップ接続の場合、本機の自動接続機能を使うと、ダイヤルアップ操作なしで快適にインターネットへ接続できますが、意図しない接続や使い過ぎで、従量制の契約では通話料金やプロバイダの接続料金が思わぬ高額になることがあります。このようなトラブルを未然に防止する機能として、プロバイダ接続の累積料金や時間、回数に上限を設けたり、連続通信時間に制限を設けることができます。この制限は手動でプロバイダに接続した場合も適用されます。



注意

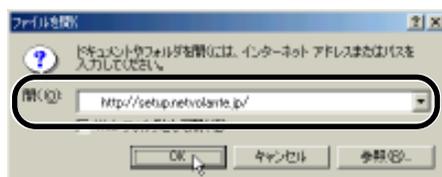
- ・課金額は通信の切断時にNTTからISDNで通知される料金情報に基づくため、割引サービスなどを利用している場合には、最終的にNTTから請求される料金とは異なる場合があります。また、NTT以外の通信事業者を利用して通信した場合には料金情報は通知されません。
- ・端末型ダイヤルアップ接続の設定では、「かんたん設定ページ」からプロバイダ登録を新規に行うと、自動的に発信制限が累積料金 1 万円、累積通信時間 50 時間、累積発信回数 1000 回に設定されます。また連続接続時間も 9 時間に制限されるように設定されます。
- ・コンソールコマンドを使用して接続設定を行っても、これらの制限は自動的に設定されないことにご注意ください。

MEMO

- ・プロバイダ接続の制限設定は、手動でプロバイダ接続したときにも適用されます。

1 ブラウザを開き、本機の「かんたん設定ページ」(例-> <http://setup.netvolante.jp/>)を開きます。

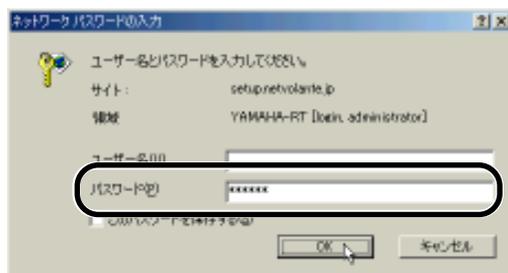
本機の IP アドレス (工場出荷時は 192.168.0.1) を入力して開くこともできます。
(例 <http://192.168.0.1/>)



MEMO

- ・Windows でユーティリティソフトをインストール済みの場合は、[スタート] ボタン- [プログラム]- [RTA54i ユーティリティ]- [RTA54i かんたん設定ページ] でも開くことができます。

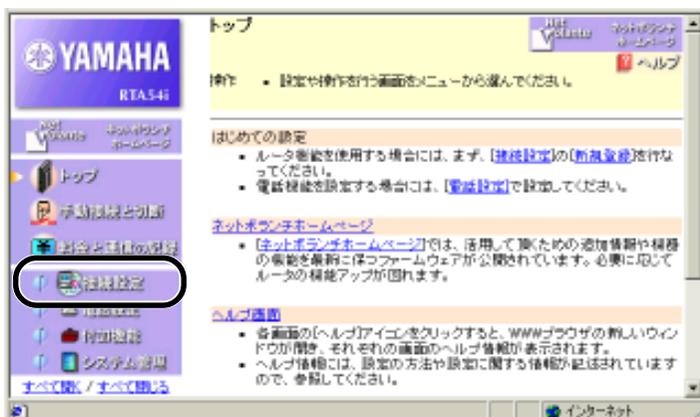
2 「ネットワーク パスワードの入力」ウィンドウが表示されたら、ルータの管理パスワードまたはログインパスワードを入力して [OK] ボタンを押します。



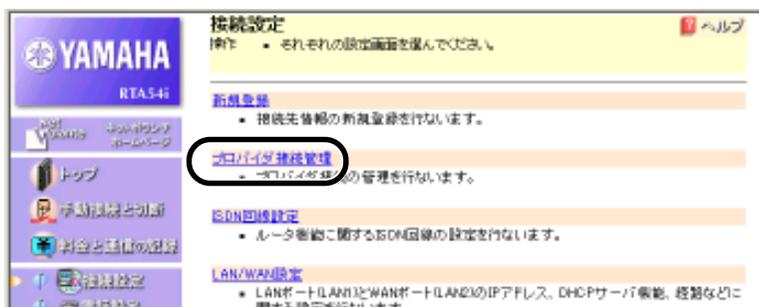
本機に内蔵の「トップ」ページが表示されます。

3 [接続設定]を押します。

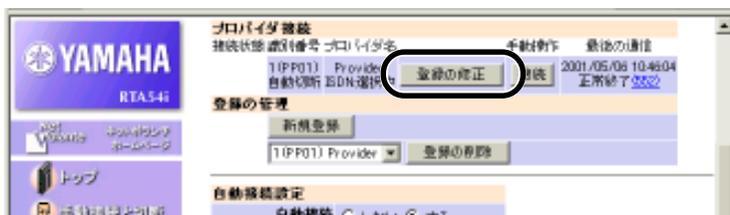
すでに基本的な設定が行われていると仮定しています。設定が済んでいない場合にはスタートマニュアル第4章を参照して設定してください。



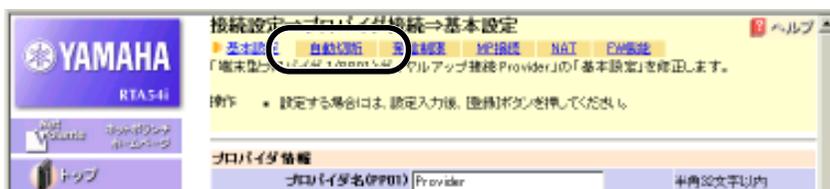
4 [プロバイダ接続管理]を押します。



5 プロバイダ名の右の[登録の修正]ボタンを押します。



6 自動切断の条件を変更するときは、[自動切断]を押します。



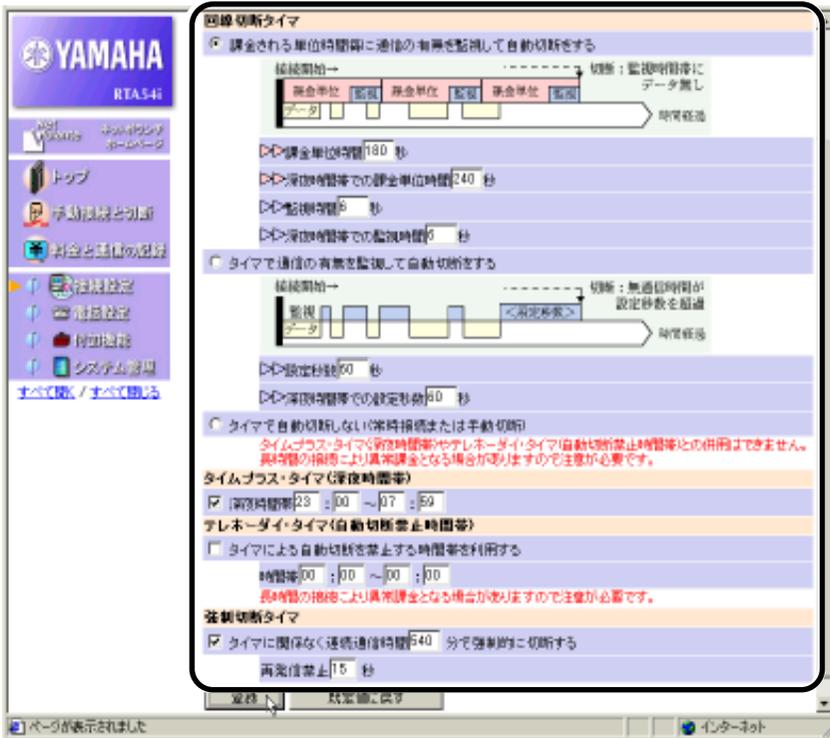
5

ルータを使ってみよう

Win

Mac

- 7 切断タイマの制限条件を設定する場合は、項目をチェックして条件値を入力し、[登録]ボタンを押します。



課金される単位時間毎に通信の有無を監視して自動切断する：

3分10円などの課金単位で自動切断したいときは、この項目をチェックします。タイムプラスなど、契約内容に合わせて昼間や深夜の単位時間を変えることができます。

タイマで通信の有無を監視して自動切断する：

アクセスしない時間によって自動切断したいときは、この項目をチェックします。

タイマで自動切断しない（常時接続または手動切断）：

自動切断したくないときは、この項目をチェックします。

タイムプラス・タイム（深夜時間帯）：

深夜時間の設定を指定するときは、この項目をチェックし、深夜の時間帯を入力します。通常のNTT通話料金では、23：00～8：00が深夜料金扱いになります。

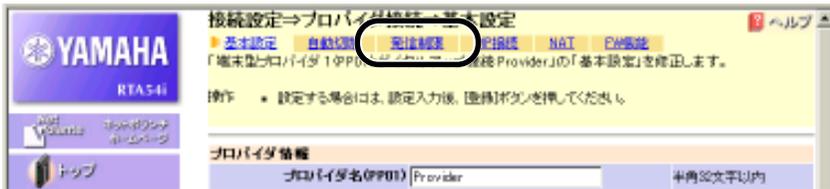
テレホーダイ・タイム（自動切断禁止時間帯）：

テレホーダイを利用している場合、利用時間帯に自動切断しないよう設定したいときは、この項目をチェックし、時間帯を入力します。

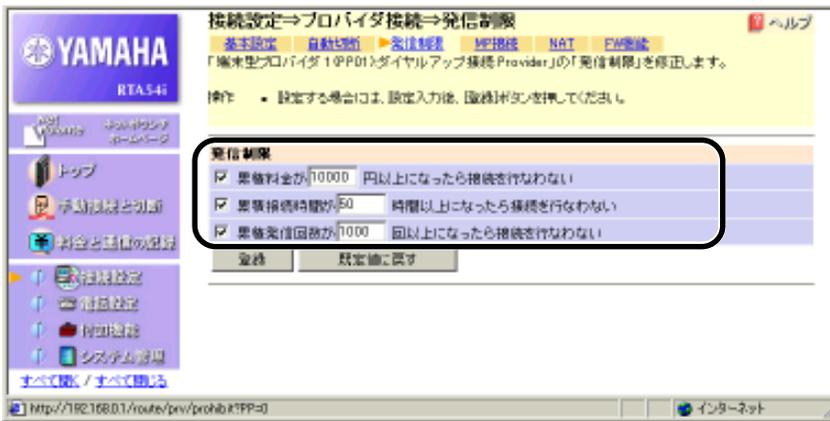
タイマに関係なく連続通信時間XXX分で強制的に切断する：

連続通信時間を監視して切断したいときは、この項目をチェックします。初期値は、540分（9時間）に設定されています。

8 発信制限の条件を変更するときは、[発信制限]を押します。



9 発信制限の条件を設定する場合は、項目をチェックして条件値を入力し、[登録] ボタンを押します。



累積料金が XXXXX 円以上になったら接続を行わない：

プロバイダ接続の累積料金で制限したいときは、この項目をチェックし、金額を設定します。初期値は1万円に設定されています。

累積接続時間が XXXXX 時間以上になったら接続を行わない：

プロバイダ接続の累積接続時間で制限したいときは、この項目をチェックし、時間を設定します。初期値は50時間に設定されています。

累積発信回数が XXXXX 回以上になったら接続を行わない：

プロバイダ接続の累積発信回数で制限したいときは、この項目をチェックし、回数を設定します。初期値は1000回に設定されています。

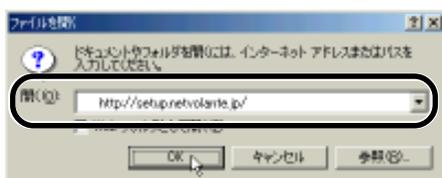
5.6 接続制限をリセットする

課金／時間／回数制限に達してプロバイダ接続できなくなった場合は、累積情報をクリアすることで発信制限をリセットすることができます。

- MEMO**
- ・ 通常の使用で頻繁に制限が働いてしまうときは、設定値を見直してください。
 - ・ 異常に早く制限機能が働いたときは、意図しない接続がある可能性があります。通信記録を確認して、問題がないか確認してください。(→P.5-26)

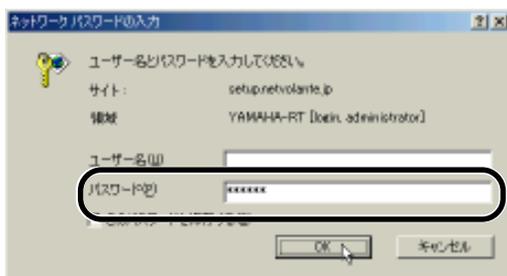
1 ブラウザを開き、本機の「かんたん設定ページ」(例-> <http://setup.netvolante.jp/>)を開きます。

本機の IP アドレス (工場出荷時は 192.168.0.1) を入力して開くこともできます。
(例 <http://192.168.0.1/>)



- MEMO**
- ・ Windows でユーティリティソフトをインストール済みの場合は、[スタート] ボタン-[プログラム]-[RTA54i ユーティリティ]-[RTA54i かんたん設定ページ] でも開くことができます。

2 「ネットワーク パスワードの入力」ウィンドウが表示されたら、ルータの管理パスワードまたはログインパスワードを入力して [OK] ボタンを押します。



本機に内蔵の「トップ」ページが表示されます。

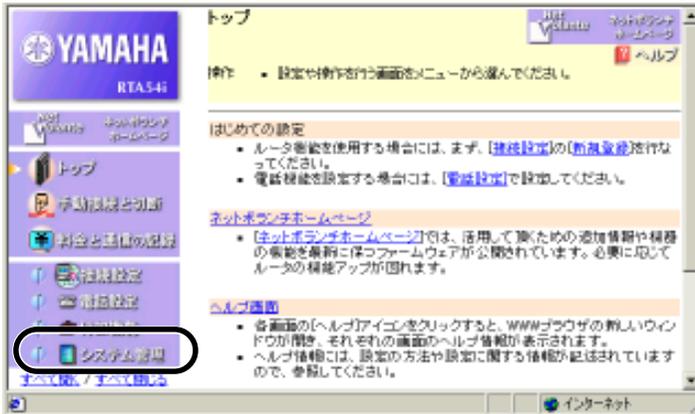
5

ルータを使ってみよう

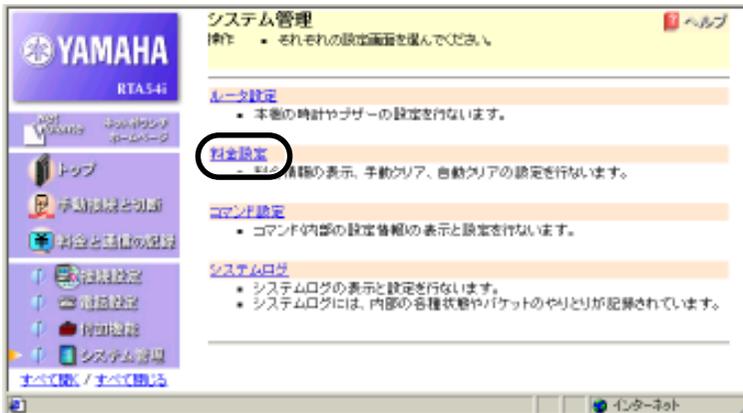
Win

Mac

3 [システム管理] を押します。



4 [料金設定] を押します。



「料金情報」ページには、各プロバイダ毎や各ポート毎の通話料金合計が表示されます。また、料金合計をリセットすることもできます。

5

ルータを使ってみよう

Win

Mac

5.7 ブザーを止める

本機にはブザーが内蔵されており、工場出荷状態ではインターネットへ接続するときと切断するときにブザーが鳴るように設定されています。ブザー音は、「かんたん設定ページ」の「システム管理」ページで止めたり、鳴らしたりすることができます。

MEMO

- ・ Windows 95/98/Me/2000 の場合は、[スタート] ボタン - [プログラム] - [RTA54i ユーティリティ] - [RTA54i かんたん設定ページ] でも開くことができます。
- ・ 電池駆動時はブザーは鳴りません。

1 パソコンを起動し、ブラウザを開いて [ファイル] メニューの [開く] を選択します。

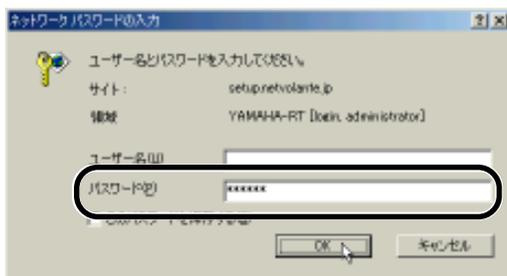
2 <http://setup.netvolante.jp/> と入力して [OK] ボタンを押します。

本機の IP アドレス（工場出荷時は 192.168.0.1）を入力して開くこともできます。
（例 <http://192.168.0.1/>）



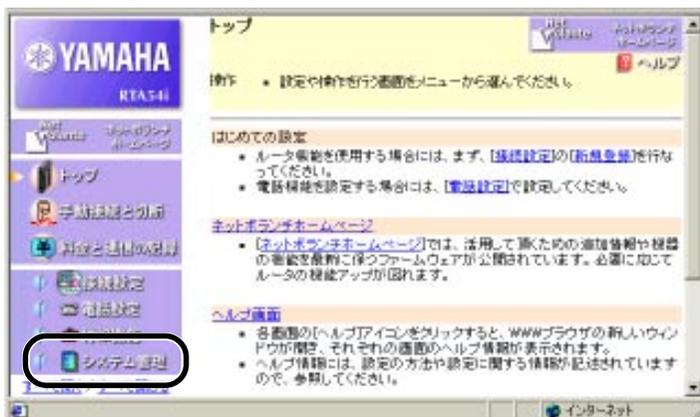
「ネットワーク パスワードの入力」ウィンドウが表示されます。

3 ルータの管理パスワードまたはログインパスワードを入力して [OK] ボタンを押します。

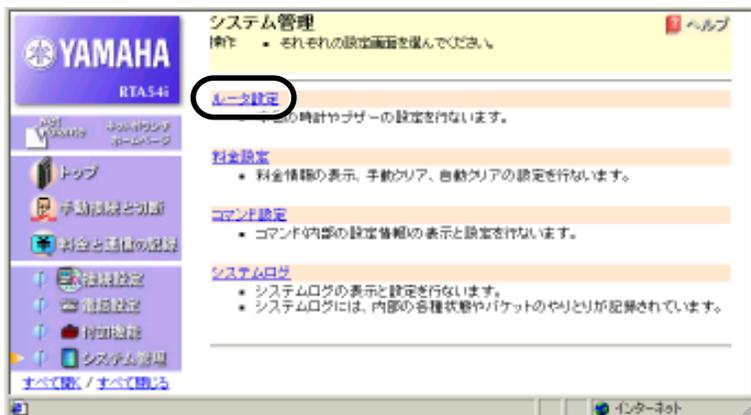


本機に内蔵の「トップ」ページが表示されます。

4 [システム管理] を押します。



5 [ルータ設定] を押します。



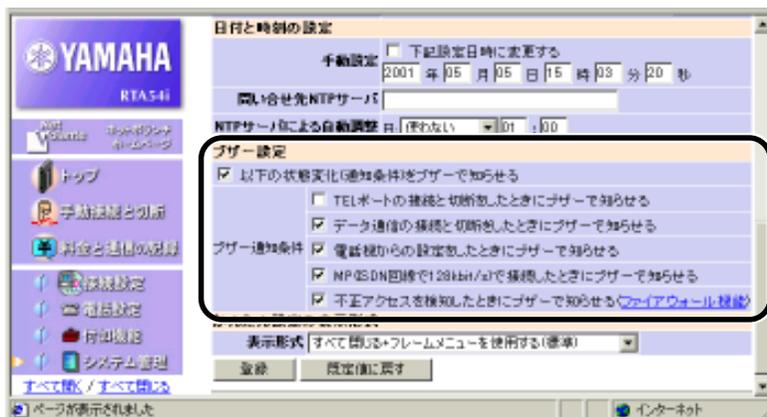
5

ルータを使ってみよう

Win

Mac

6 ブザー設定でブザー音の動作を設定し、[登録] ボタンを押します。



以下の状態変化（通知条件）をブザーで知らせる：

止めたいときはチェックを外してください。

ブザーを鳴らしたいときはチェックを入れて、鳴らす条件を選択してください。

TEL ポートの接続と切断をしたときにブザーで知らせる：

TEL ポートに接続した電話機や FAX で発信や着信、切断するたびにブザーが鳴ります。

データ通信の接続と切断をしたときにブザーで知らせる：

ルータ機能やTA機能で発信や切断するたびにブザーが鳴ります。

電話からの設定時にブザーで知らせる：

TEL ポートに接続した電話機で設定操作を行った時にブザーが鳴ります。

MP（ISDN 回線で 128kbit/s）で接続したときにブザーで知らせる：

128Kbit/sMP接続で設定したプロバイダに発信するたびにブザーが鳴ります。

不正アクセスを検知したときにブザーで知らせる（ファイアウォール機能）：

本機のファイアウォール機能を設定してある場合、不正アクセスを検知した時にブザーが鳴ります。

5.8 不審な自動接続が見つかったときは

自動接続機能でインターネットへ接続している場合で、料金情報や通信記録を見て使った覚えのない通話料金があった場合は、パソコンのソフトウェアや機器が自動的にインターネットへアクセスしている疑いがあります。ソフトウェアによっては、意識的に起動しなくてもパソコンを起動しているだけで自動的に動作しているものがあり、知らないうちに自動発信を繰り返している場合があります。

放置すると、多額の通話料金になる場合がありますので、こまめに料金や通話記録を確認してください。

次のような場合は、特にご注意ください。

- 本機を使い始めた時
- 本機のプロバイダ接続設定を変更した時
- パソコンのダイヤルアップネットワーク設定を変更した時
- MP 接続を設定した時
- TA 接続を併用または切り替えた時
- Real Player をインストールした時
- パソコンに新しいソフトウェアをインストールした時
- ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続した時
- 本機のファームウェアをリビジョンアップした時
- その他、いつもと違う操作を行ったり、通信の反応に違いを感じた時など

⚠ 注意

- ・ プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定 (TA 接続利用時) の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・ MP 接続に対応していないプロバイダに対して、MP 接続の設定や発信は絶対に行わないでください。2チャンネル目が発信とエラーを繰り返して多額の料金を請求される場合があります。
- ・ プロバイダ側の状態 (アクセスポイントの変更、メンテナンス、障害など) によって予想外の通信料金がかかる場合がありますので、プロバイダからの告知情報には常に注意してください。

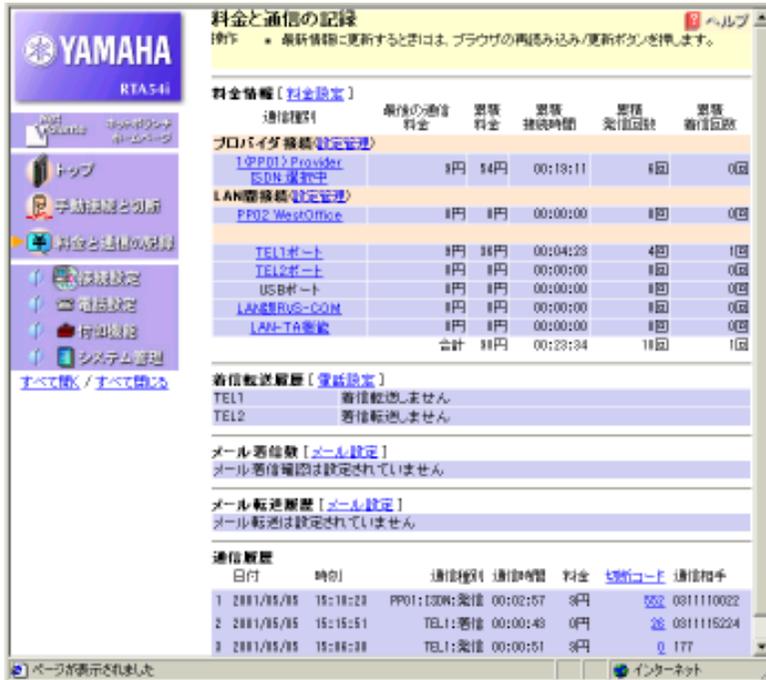
MEMO

- ・ ここで使用している画面や設定項目は、各ソフトウェアのバージョンにより内容が異なります。

通信記録の見かた

■ 料金と通信記録ページ

「料金と通信記録」ページでは、各ポート毎の累積料金や累積接続時間、累積発信回数、累積着信回数、通信毎の履歴を調べることができます。



●料金情報

プロバイダごとの累積料金や累積接続時間、累積発信回数、累積着信回数が表示されています。

●通信履歴

発着信日付、発着信時刻、通信種別、通信時間、通話料金、切断コード、相手先の番号が新しい順に100件まで記録されています。通信種別がPPxxとなっている通信が、プロバイダ（またはLAN間接続相手）へ接続した通信です。

MEMO

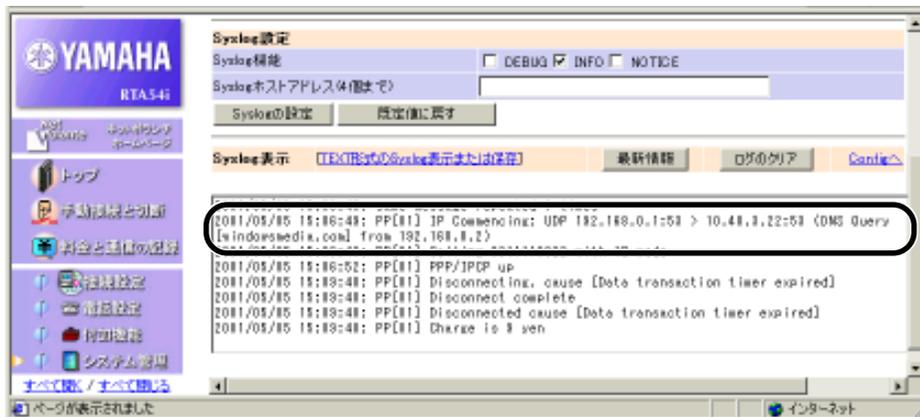
・通信料金はNTTから通知される料金を累積して表示しています。NTTから通知される料金は少数点以下が切り上げられたり、各種割引サービスやNTT以外の回線業者の料金が反映されないことなどにより、実際に請求される料金と異なる場合があります。あくまで目安と考えてください。

■ ログ情報の見かた

「システム管理」の「システムログ」ページでは、自動接続のきっかけになったアクセスの情報を Syslog 表示で調べることができます。

意図しないアクセスが多いときは、Syslog 表示の中で一番下から順に "IP Commencing" の行を探していきます。IP Commencing 行のパソコン IP アドレス、アクセス先ホストの IP アドレスやアクセス時間 (もしくは間隔) などを手がかりに、どのアプリケーションソフトもしくは機器がアクセス要求を出しているかを調べて原因を探してください。

● アクセス例 1



PP[01] IP Commencing: UDP 192.168.0.1:53 > 10.40.3.22:53
(DNS Query [windowsmedia.com] from 192.168.0.2)

上記のアクセス例では、LAN内のパソコン (192.168.0.2) から DNS サーバへインターネットのホスト (windowsmedia.com) の IP アドレスを調べる問い合わせ要求をきっかけに、プロバイダへの自動接続を開始しています。

● アクセス例 2

PP [01] IP Commencing : TCP 192.168.0.2 : 1311 > 207.188.7.85 : 80
プロバイダ番号 パソコンの IP アドレス アクセス先の IP アドレス

上記のアクセス例では、LAN内のパソコン (192.168.0.2) からインターネットのホスト (207.188.7.85) へのアクセス要求をきっかけに、プロバイダへの自動接続を開始しています。

原因になりやすい設定項目

不審なインターネットアクセスの原因になる設定項目には、次のようなものがあります。OSを使い始めるときや、新しいソフトウェアをインストールしたときは、例を参考に設定を見直してください。

■ 頻繁に発信している場合

パソコンのネットワーク設定のDNS設定値を確認してください。インターネット上のDNSサーバのIPアドレスが指定されていると、頻繁にアクセスする場合があります。

■ パソコンを起動するたびに発信している場合

アクティブデスクトップを表示している場合、表示の設定内容により、起動するたびにインターネットへアクセスしている場合があります。また、パソコン起動時に自動的に開くソフトウェアが有る場合は、[スタート] ボタンの [スタートアップ] 項目を確認してください。スタートアップに登録されているソフトウェアの設定を確認し、自動アップデートなどの機能が有る場合は、設定を変更してください。

●コントロールパネルの [画面] 設定

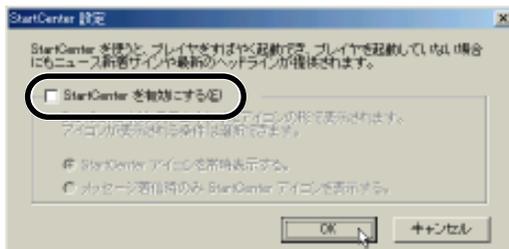
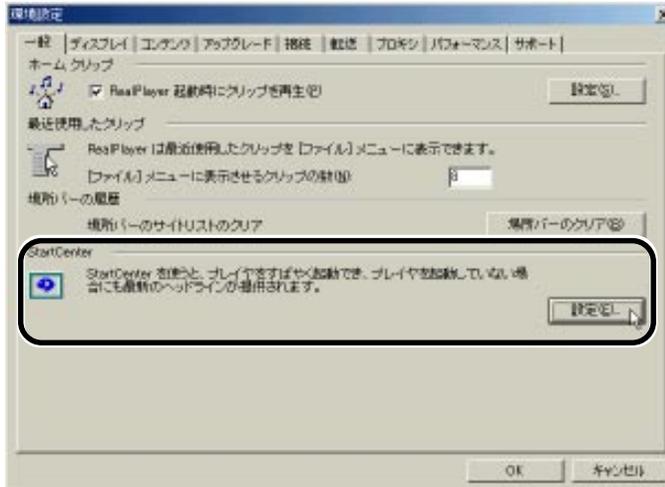
WindowsのデスクトップにWebページを設定していると、パソコンを起動するたびにインターネットへアクセスし、Webページ内容が更新されます。そのたびに料金がかかります。必要なければ、設定を解除してください。



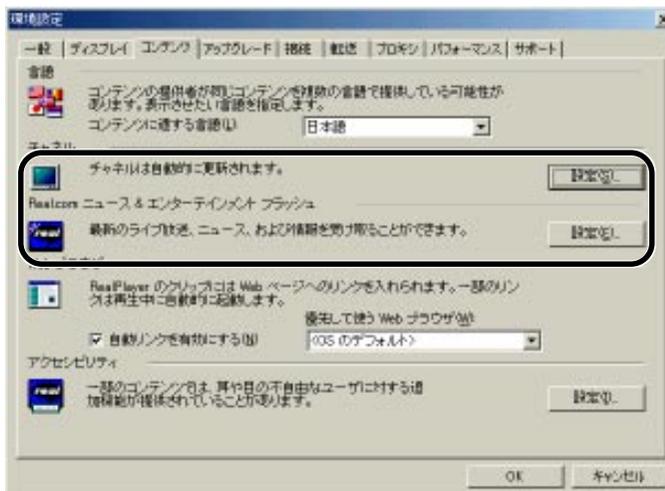
● RealPlayer の環境設定

[一般] シートの StartCenter を有効にしていると、パソコンを起動するたびにインターネットへアクセスし、[コンテンツ] シートで指定したチャンネルなどの最新情報が更新されます。このアクセスは、RealPlayer を使わなくても行われ、そのたびに料金がかかります。必要な場合は設定を解除してください。

[一般] シート



[コンテンツ] シート



■ 定期的に発信している場合

1日に何回も発信している場合は、Internet Explorerのチャンネルを購読している場合やWindows Updateを利用している場合、メールの自動送受信が設定されている場合などが考えられます。各パソコンの該当するソフトウェア設定を確認してください。

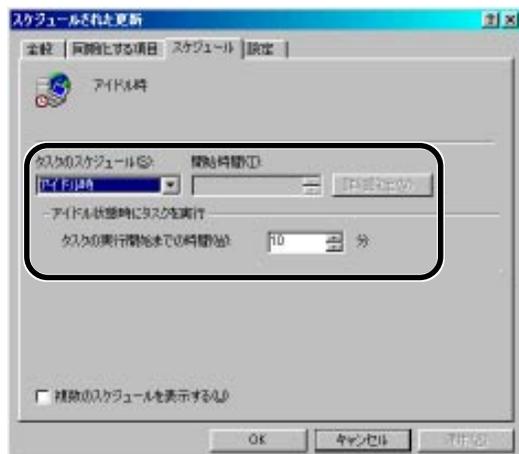
1日に数回以内の場合は、ハードウェアのメンテナンスプログラムやNTPサーバ（インターネット自動時刻サーバ）の設定を確認してください。

● ホームページのバナー広告

バナー広告が掲載されているホームページでは、何も操作しなくても定期的に自動更新する場合があります。そのページを開いたままブラウザを放置すると、定期的にインターネットへアクセスし続け、そのたびに料金がかかります。見終わったらブラウザを閉じることで、不要なアクセスを防ぐことができます。

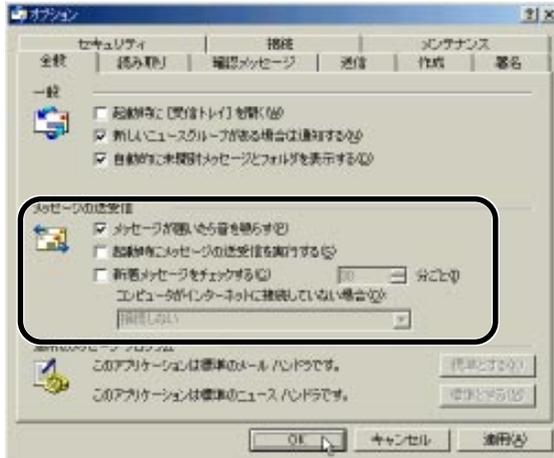
● 購読チャンネルのプロパティ

Internet Explorerのチャンネルを購読している場合は、プロパティで指定した間隔で、チャンネル内容の更新のためインターネットへアクセスします。そのたびに料金がかかります。購読する場合は更新間隔をよく確認してお使いください。不要な場合は、設定を解除してください。



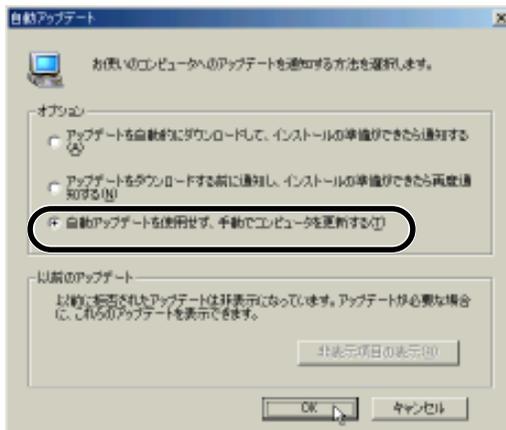
● Outlook Express の [オプション] 設定

Outlook Expressなどのメールソフトには、新着メールを定期的にチェックする機能があります。設定していると、定期的にインターネットのメールサーバにアクセスし、そのたびに料金がかかります。この機能を利用する場合は、チェック間隔を十分考慮して設定してください。必要な場合は設定を解除して、手動チェック（手動送受信）でお使いください。



● OS の自動アップデート機能

Windows MeやMacOS 9の場合は、OSの自動アップデート機能があります。設定していると、定期的にインターネットのサーバにアクセスし、そのたびに料金がかかります。不要であれば、[コントロールパネル]の[自動アップデート]（MacOS 9は[ソフトウェア・アップデート]）を開き、設定を手動更新に変更してください。

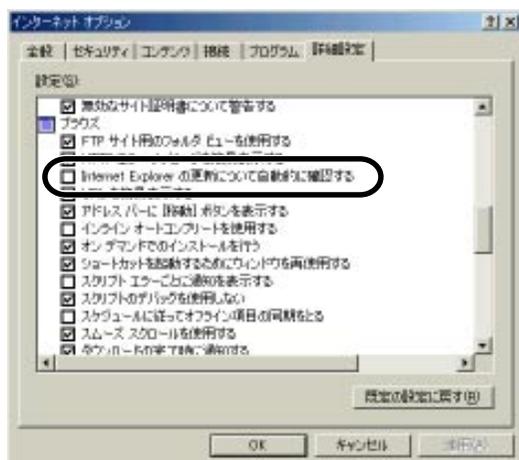


■ ソフトウェアを開くたびに発信している場合

インストールしたソフトウェアの環境設定（初期設定）を確認し、自動アップデートなどの機能が有る場合は、設定を変更してください。

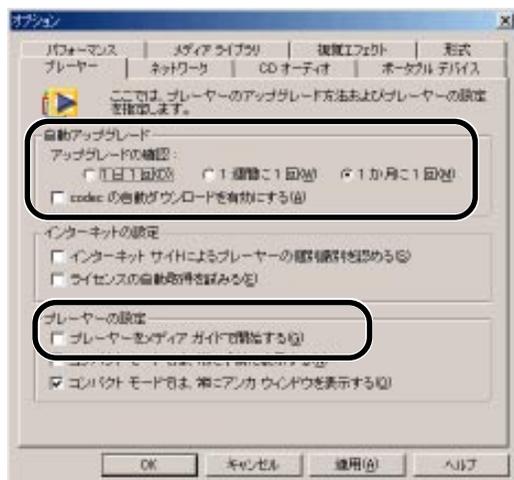
● Internet Explorer の [インターネットオプション] 設定

Internet Explorerの自動アップデート機能が設定されていると、ソフトウェアを開くたびにインターネットへアクセスし、そのたびに料金がかかります。不要であれば設定を解除してください。



● Windows MediaPlayer の環境設定

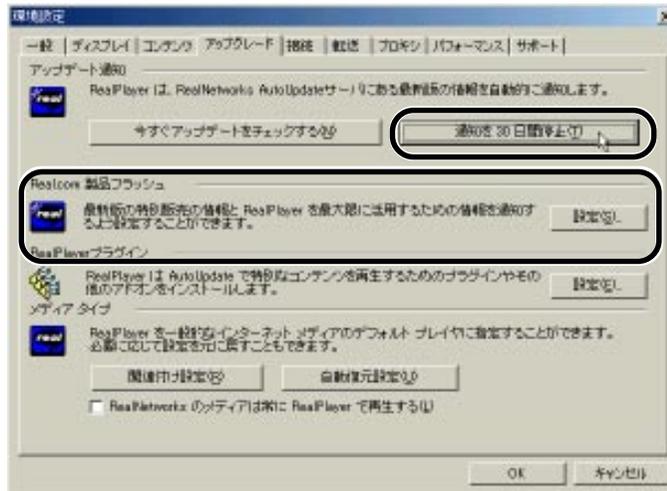
Windows MediaPlayerをインストールすると、ガイドページの情報を得るためにMediaPlayerを開くたびにインターネットへアクセスします。そのたびに料金がかかります。必要なければ、[プレーヤー] シートの [プレーヤーをメディアガイドで開始する] のチェックを外すと、アクセスを防げます。



また、[プレーヤー] シートの [自動アップグレード] で [1か月に1回] を選択すると、アクセス回数を減らすことができます。(完全に解除することはできません。)

● RealPlayer の環境設定

RealPlayer をインストールすると、アップグレード情報を得るために RealPlayer を開くたびにインターネットにアクセスします。そのたびに料金がかかります。必要な場合は、[アップグレード] シートの [通知を 30 日間停止] ボタンを押すと、30 日間はアクセスしなくなります。アクセスしない日数がカウントダウンされますので、ときどきチェックして [通知を 30 日間停止] ボタンを押し直してください。(完全に解除することはできません。)

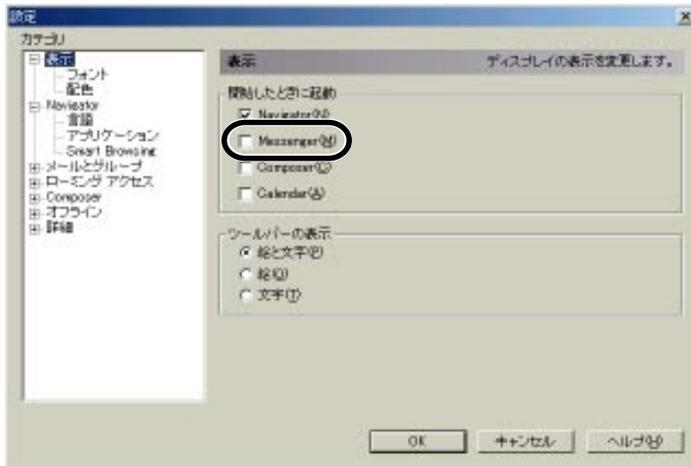


また、Real.com 製品情報がチェックされていると、製品情報を得るために RealPlayer を開くたびにインターネットにアクセスします。そのたびに料金がかかります。必要な場合は設定を解除してください。

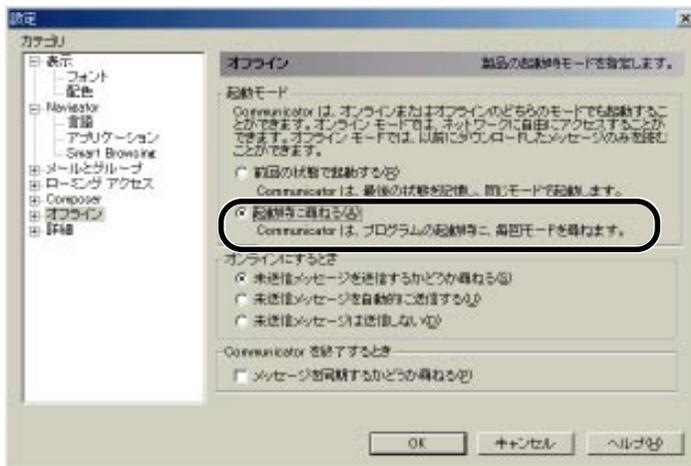
● Netscape Communicator の設定

Netscape Communicator をインストールすると、Messenger のウィンドウを開くときに必ず Netscape の広告ページを読み込むため、インターネットにアクセスします。そのたびに料金がかかります。

Netscape Messenger を使っていない場合は、最初に開くウィンドウの設定で Messenger のチェックを外します。



Netscape Messenger を使っている場合や意図しない接続を止めたい場合は、[オフライン] の [起動モード] を [起動時に尋ねる] に設定し、オフラインで起動してください。(自動的にオフラインで起動する設定はありません。)



5

ルータを使ってみよう

Win

Mac

第6章

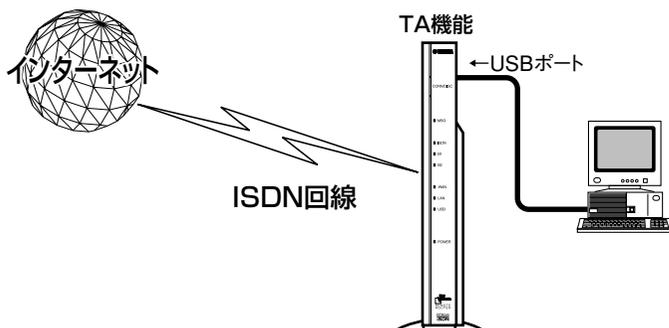
USB 接続で使うときは

この章では、USB 接続で本機の TA 機能や擬似 LAN 機能を使う場合の接続／設定方法について説明しています。利用する機能や OS に合わせて、接続およびパソコンの設定を行ってください。

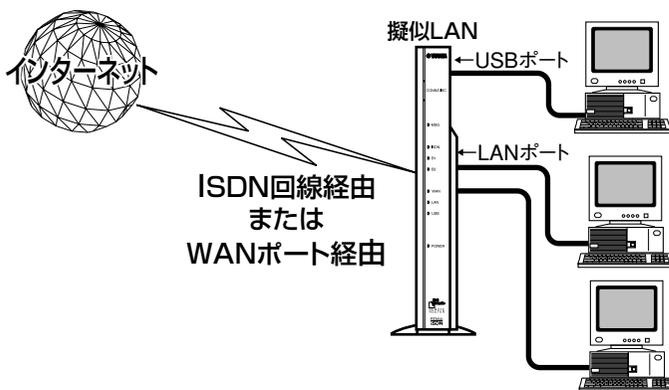
6.1	USB ポートについて	6-2
6.2	USB ドライバをインストールする	6-3
	Windows 98SE の場合	6-3
	Windows Me の場合	6-8
	Windows 2000 の場合	6-11
	MacOS 9 の場合	6-14
6.3	TA 接続を設定する	6-15
	Windows 98SE/Me の場合	6-15
	Windows 2000 の場合	6-20
	MacOS 9 の場合	6-27
6.4	擬似 LAN 接続を設定する	6-31
	Windows 98SE/Me の場合	6-31
	Windows 2000 の場合	6-36
	MacOS 9 の場合	6-41

6.1 USBポートについて

Windows 98SE (Second Edition) /Me/2000、MacOS9以降のパソコンの場合、本機のUSBポートに接続して本機をISDN回線用TAとして使うことができます。ネットワークゲームがうまくつながらないときや、ARAリモートアクセスサーバとして使いたい場合などは、TAとしてお使いください。パソコンにLANポートもあれば、同時に接続して、目的別を使い分けることもできます。



また、本機のUSBポートには擬似LAN機能があり、LANポートのないパソコンでもTCP/IPプロトコルでLANに接続することができます。ただし、アクセスできるのはTCP/IPプロトコルに対応したファイルサーバやWebサーバです。AppleShareなどのファイル共有は行えません。



⚠ 注意

- ・ TA 接続は ISDN 回線でのみ使用可能です。
- ・ USB ケーブルを抜く場合は、必ずパソコンの電源をオフにしてください。電源をオンにしたまま USB ケーブルの抜き差しを行うと、パソコンの動作が不安定になる場合があります。
- ・ USB による通信を行った後に Windows を終了 (シャットダウン) する場合、終了するまでに5分以上かかることがあります。これを回避するためには、一度再起動を行ってから、再度終了してください。

MEMO

- ・ USB ポートは Windows 95/98/NT や MacOS8.6 以前のパソコンで使用することはできません。
- ・ TA 接続の場合は、本機の「かんたん設定ページ」を開くことはできません。「かんたん設定ページ」を使いたい場合は、擬似LAN接続でLANに接続してください。(→P.6-31)

6.2 USB ドライバをインストールする

USBポートを使用するときは、先に「2.1 ルータを設置する」「2.2 回線を接続する」「2.3 電源を接続する」「2.4 電話機を接続する」を行ってください。ルータや回線の準備が終わり、電話機が正常に使えることが確認できたら、以下の手順でパソコンにUSBドライバやモデムをインストールします。インストール方法は、お使いのOSによって異なります。

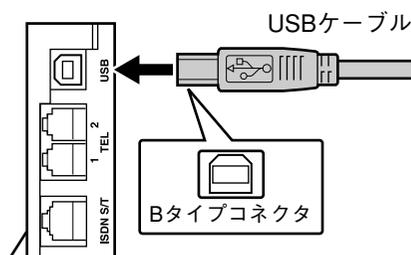
インストールには、OSのインストールCD-ROMが必要になる場合があります。あらかじめご注意ください。

MEMO ・Windowsの場合、ドライバのインストールが正常に行えなかった時は、付属のCD-ROMの[USB]フォルダ-[UnUSB]フォルダ-[UnUSB54i.exe]を使用して、一旦アンインストールしてから、再度ドライバのインストールを行ってください。

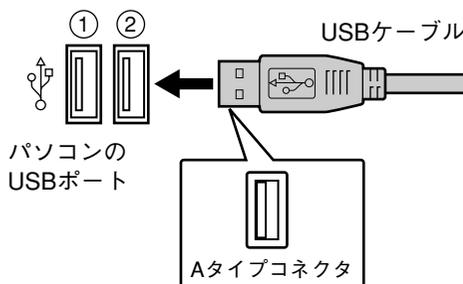
Windows 98SEの場合

Windows 98SEの場合は、USBドライバとモデムのインストールを行います。

- 1 本機とパソコンの電源をオンにします。
- 2 パソコンが起動したら、本機に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。
- 3 本機のUSBポートにUSBケーブルのBタイプ側（四角いコネクタ）を接続します。



- 4 パソコンのUSBポートにUSBケーブルのAタイプ側（平たいコネクタ）を接続します。



パソコンの画面に、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。

5 [次へ] ボタンを押します。



6 [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する] を選択し、[次へ] ボタンを押します。



7 [検索場所の指定] を選択して [参照] ボタンを押し、CD-ROM ドライブの [USB] の [WIN9X] フォルダを指定して [OK] ボタンを押します。



[検索場所の指定] 欄に「D:\USB\WIN9X」と表示されます。CD-ROM ドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。

8 ドライバの名称を確認し、[次へ] ボタンを押します。



9 表示されたドライバのある場所を確認し、[次へ] ボタンを押します。

「D:\¥USB¥WIN9X¥YMHUSBTA.INF」になっていない場合は [戻る] ボタンを押して、選択し直してください。



USB ドライバのインストールが始まります。

コピーの途中で「Windows98 Second Edition CD-ROM ラベルの付いたディスクを挿入してください」のメッセージが表示された場合は、Windows98 Second Edition CD-ROM をドライブにセットし、[OK] ボタンを押してください。

10 USB ドライバのコピーが終了したら、[完了] ボタンを押します。



これで、USB ドライバのインストールが完了しました。

続いて新しいハードウェアが検知されて、モデムのインストールが始まります。

手順 9 で Windows98 Second Edition CD-ROM を入れた場合は、本機に付属の CD-ROM をドライブにセットしてください。

11 [次へ] ボタンを押します。



12 [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する] を選択し、[次へ] ボタンを押します。



13 [検索場所の指定] を選択して [参照] ボタンを押し、CD-ROM ドライブの [USB] の [WIN9X] フォルダを指定して [OK] ボタンを押します。



[検索場所の指定] に「D:\USB\FIN9X」と表示されます。CD-ROM ドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。

- 14** [RTA54i USB (Sync)] と表示されていることを確認し、[次へ] ボタンを押します。
128kbit/s (MP) 接続で使用する場合は、[ほかのドライバ] を選択して [一覧の表示] ボタンを押し、[RTA54i USB (MP)] を選択して [OK] ボタンを押します。



- 15** 表示されたドライバのある場所を確認し、[次へ] ボタンを押します。
「D:\¥USB¥WIN9X¥RTA54I.INF」になっていない場合は [戻る] ボタンを押して、選択し直してください。



モデムのインストールが始まります。

- 16** インストールが終了したら、[完了] ボタンを押します。

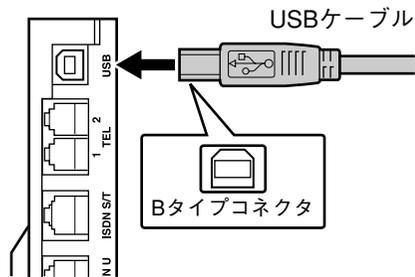


これで、モデムのセットアップが完了しました。

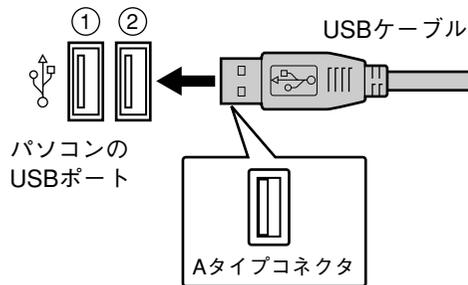
Windows Me の場合

Windows Me の場合は、USB ドライバとモデムのインストールを行います。付属のCD-ROMをセットすると、本機用のドライバが自動検索されてインストールされます。

- 1 本機とパソコンの電源をオンにします。
- 2 パソコンが起動したら、本機に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。
- 3 本機のUSBポートにUSBケーブルのBタイプ側（四角いコネクタ）を接続します。



- 4 パソコンのUSBポートにUSBケーブルのAタイプ側（平たいコネクタ）を接続します。

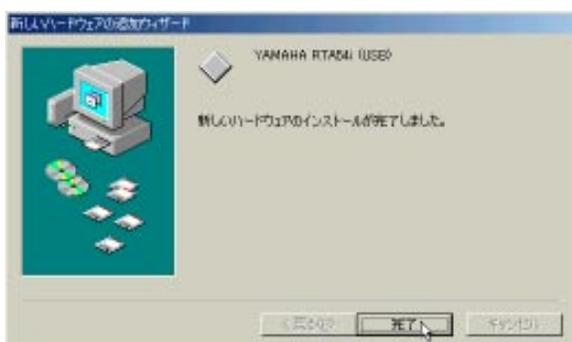


パソコンの画面に、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。

5 [適切なドライバを自動的に検索する] を選択し、[次へ] ボタンを押します。



6 USB ドライバのコピーが終了したら、[完了] ボタンを押します。

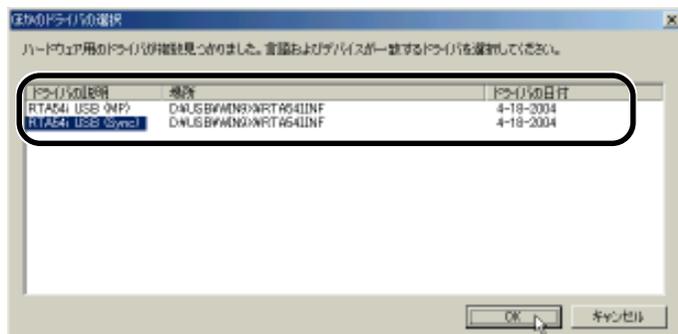


これで、USB ドライバのインストールが完了しました。
続いて新しいハードウェアが検知されて、モデムのインストールが始まります。

7 [適切なドライバを自動的に検索する] を選択し、[次へ] ボタンを押します。



- 8** 使用するモデムの種類を選択し、[OK] ボタンを押します。
通常の 64kbit/s で接続する場合や擬似 LAN で接続する場合は、[RTA54i USB (Sync)] を選択してください。
128kbit/s (MP) 接続で使用する場合は、[RTA54i USB (MP)] を選択してください。



モデムのインストールが始まります。

- 9** インストールが終了したら、[完了] ボタンを押します。

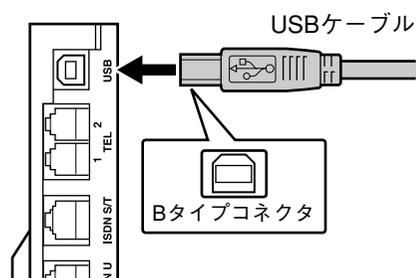


これで、モデムのセットアップが完了しました。

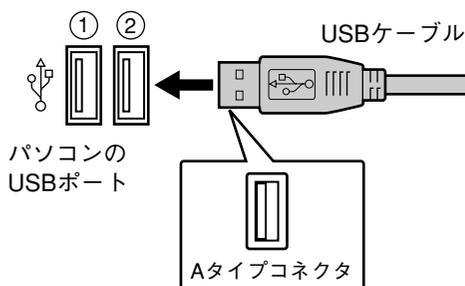
Windows 2000 の場合

Windows 2000 の場合は、ウィザードに従って USB モデムのインストールを行います。

- 1 本機とパソコンの電源をオンにします。
- 2 パソコンが起動したら、本機に付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。
- 3 本機の USB ポートに USB ケーブルの B タイプ側（四角いコネクタ）を接続します。

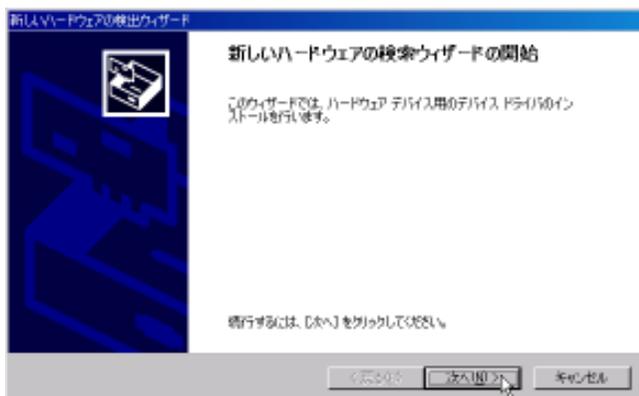


- 4 パソコンの USB ポートに USB ケーブルの A タイプ側（平たいコネクタ）を接続します。

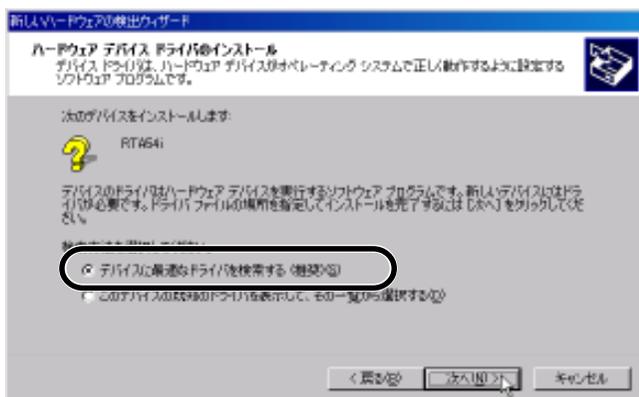


パソコンの画面に、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。

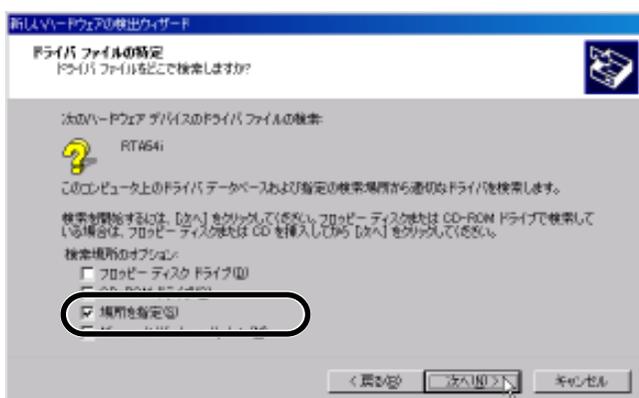
5 [次へ] ボタンを押します。



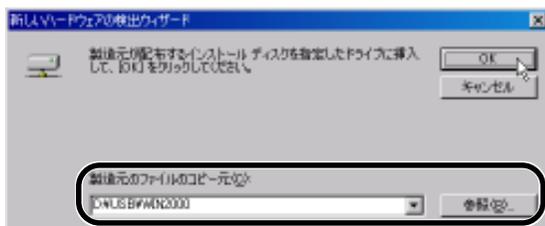
6 [デバイスに最適なドライバを検索する] を選択し、[次へ] ボタンを押します。



7 [場所を指定] を選択し、[次へ] ボタンを押します。

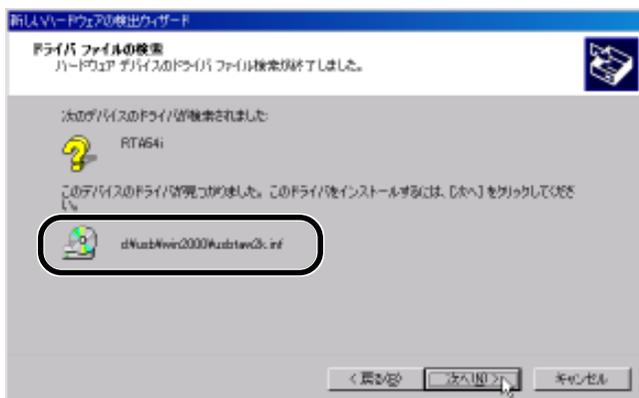


- 8 [参照] ボタンを押してCD-ROMドライブの [USB] の [WIN2000] フォルダを選択し、[OK] ボタンを押します。



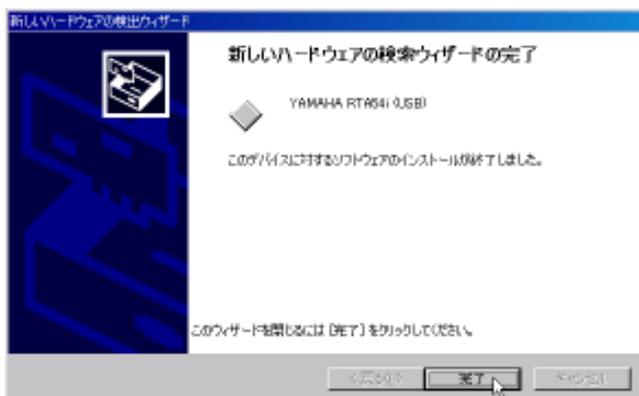
[製造元のファイルのコピー元] 欄に「D:¥USB¥WIN2000」と表示されます。CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。「デジタル署名が見つかりませんでした」というメッセージが表示される場合がありますが、[はい] ボタンを押してインストールを続行してください。

- 9 表示されたドライブのある場所を確認し、[次へ] ボタンを押します。「D:¥USB¥WIN2000¥USBTAW2K.INF」になっていない場合は [戻る] ボタンを押して、選択し直してください。



USB ドライバのインストールが始まります。

- 10 USB ドライバのコピーが終了したら、[完了] ボタンを押します。



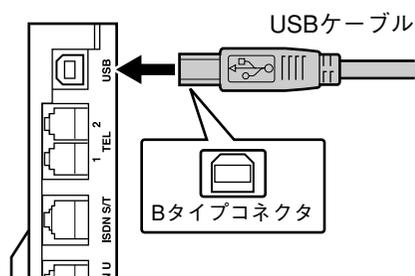
これで、USB モデムのセットアップが完了しました。

MacOS 9 の場合

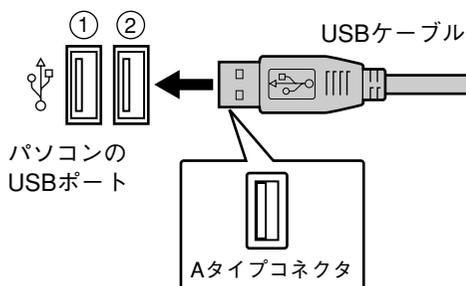
MacOS 9 の場合は、USB ケーブルの接続と CCL ファイルのインストールを行います。

■ USB ケーブルの接続

- 1 本機とパソコンの電源をオンにします。
- 2 本機の USB ポートに USB ケーブルの B タイプ側（四角いコネクタ）を接続します。



- 3 パソコンの USB ポートに USB ケーブルの A タイプ側（平たいコネクタ）を接続します。



これで、USB のセットアップが完了しました。

■ CCL ファイルのインストール

- 1 付属の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。
- 2 CD-ROM の [CCL ファイル] フォルダ内の CCL ファイルを、起動ハードディスクの [システムフォルダ] - [機能拡張] - [Modem Scripts] フォルダにコピーします。
これで、CCL ファイルのインストールが完了しました。

6.3 TA 接続を設定する

本機をTAとして使う場合は、パソコンにネットワークとダイヤルアップを設定します。TA接続はISDN回線でのみ使用可能です。

Windows 98SE/Me の場合

Windows 98SE/Me の場合は、ダイヤルアップネットワークの設定を行います。



注意

- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定 (TA接続利用時) の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・本機をTA接続で使用する場合は、「かんたん設定ページ」を開くことはできません。「かんたん設定ページ」を使いたい場合は、擬似LAN接続でLANに接続してください。(→P.6-31)

■ ダイヤルアップネットワークを設定する

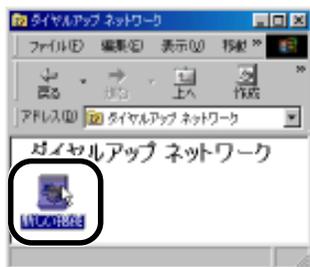
1 [マイコンピュータ] の [ダイヤルアップ ネットワーク] を開きます。

Windows Me の場合は [コントロールパネル] の [ダイヤルアップ ネットワーク] を開きます。

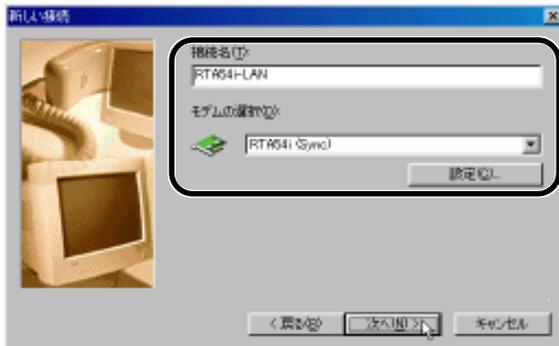
2 [新しい接続] アイコンを開きます。

「ダイヤルアップネットワークへようこそ」ウィンドウが表示された場合は、[次へ] ボタンを押します。

「所在地情報」ウィンドウが表示された場合は、市外局番を入力してください。



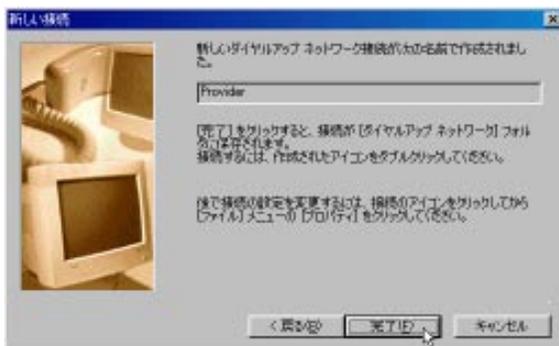
- 3 プロバイダ名を入力し、[モデムの選択] に“RTA54i USB (Sync)” を選択して、[次へ] ボタンを押します。



- 4 ISDN 対応アクセスポイントの電話番号を入力して [次へ] ボタンを押します。

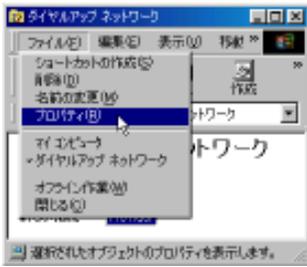


- 5 [完了] ボタンを押します。



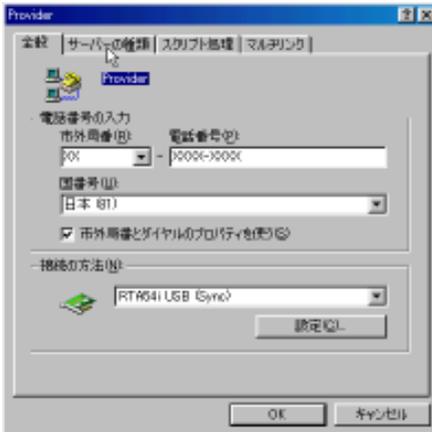
「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダ内に登録したプロバイダ名のアイコンが表示されます。

- 6 プロバイダのアイコンを選択し、ファイルメニューの【プロパティ】を選択します。

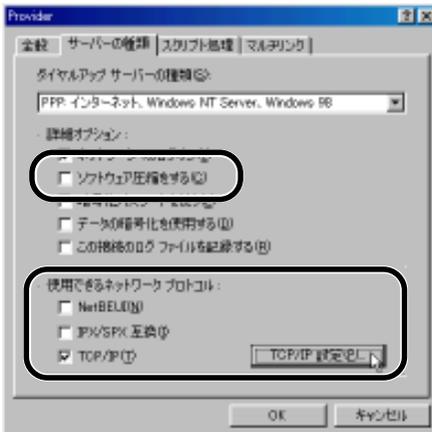


- 7 【サーバーの種類】 タブを押します。

Windows Me の場合は、【ネットワーク】 タブを押します。

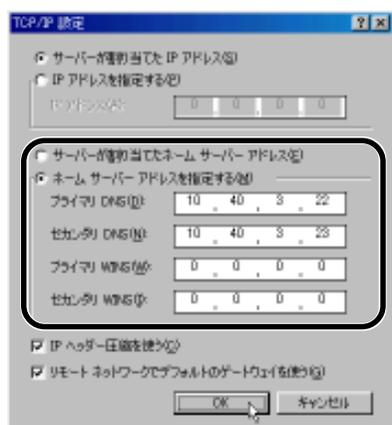


- 8 【詳細オプション】 の【ソフトウェア圧縮する】と【使用できるネットワーク プロトコル】の【NetBEUI】と【IPX/SPX 互換】のチェックを外し、【TCP/IP】にチェックを付けて【TCP/IP 設定】 ボタンを押します。



6
USB接続で使うときは
Win

- 9 「名前サーバーアドレスを指定する」を選択してプロバイダから指定された名前サーバーのIPアドレスを入力し、各ウィンドウの [OK] ボタンを押してウィンドウを閉じます。



これで、インターネット接続の設定が完了しました。

- MEMO** ・プロバイダから DNS サーバのアドレスが通知されない場合は、[サーバーが割り当てた名前サーバーアドレス] を選択します。

■ インターネットへ接続する

- 1 [ダイヤルアップネットワーク] フォルダのプロバイダ名アイコンを開きます。



- 2 [ユーザー名] と [パスワード] を入力し、[接続] ボタンを押します。



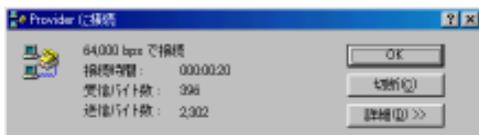
インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。インターネットへ接続中は、B1 ランプまたは B2 ランプが点灯します。

MEMO ・ [パスワードの保存] をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

- 3 ブラウザを開き、“<http://NetVolante.rthro.yamaha.co.jp/>” と入力して [enter] キーを押します。

NetVolante のホームページが表示されることを確認してください。

- 4 接続を解除するときは、[切断] ボタンを押します。



プロバイダとの接続が切れます。

Windows 2000 の場合

Windows 2000 の場合は、ダイヤルアップの設定を行います。



注意

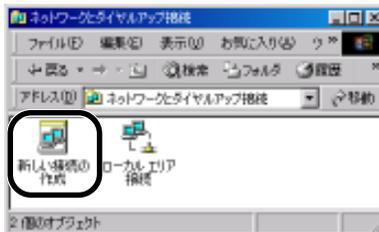
- ・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定 (TA接続利用時) の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ・本機をTA接続で使用する場合は、「かんたん設定ページ」を開くことはできません。「かんたん設定ページ」を使いたい場合は、擬似LAN接続でLANに接続してください。(→ P.6-36)

■ ダイヤルアップネットワークを設定する

1 [コントロールパネル] の [ネットワークとダイヤルアップ接続] を開きます。



2 [新しい接続の作成] アイコンを開きます。

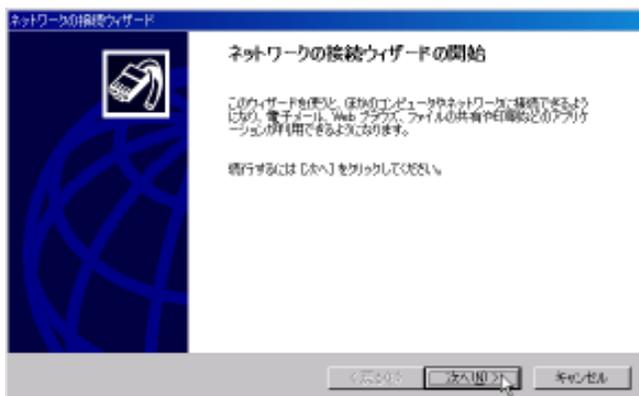


6

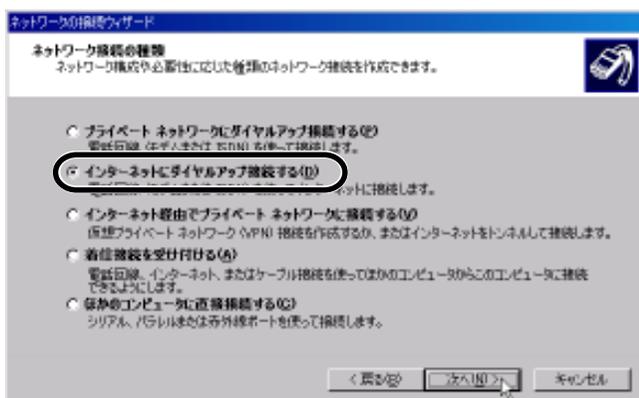
USB接続で使うときは

Win

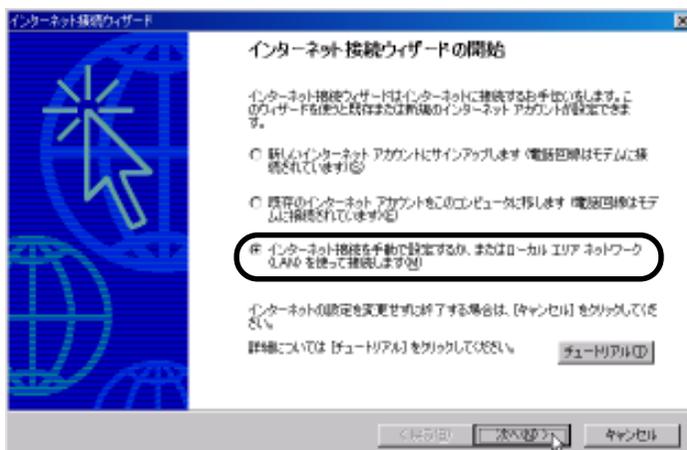
3 [次へ] ボタンを押します。



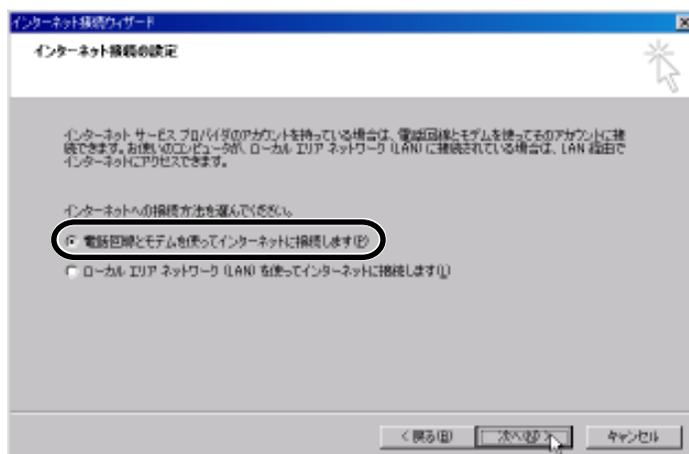
4 [インターネットにダイヤルアップ接続する] を選択し、[次へ] ボタンを押します。



5 [インターネット接続を手動で設定するか、またはローカル エリア ネットワーク (LAN) を使って接続します] を選択し、[次へ] ボタンを押します。

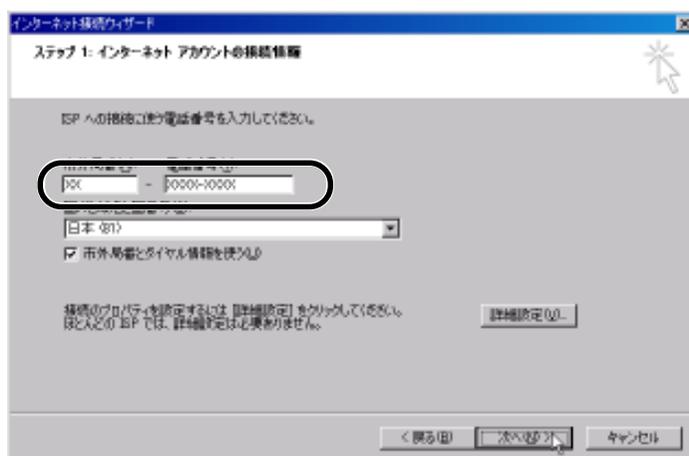


6 [電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します] を選択し、[次へ] ボタンを押します。

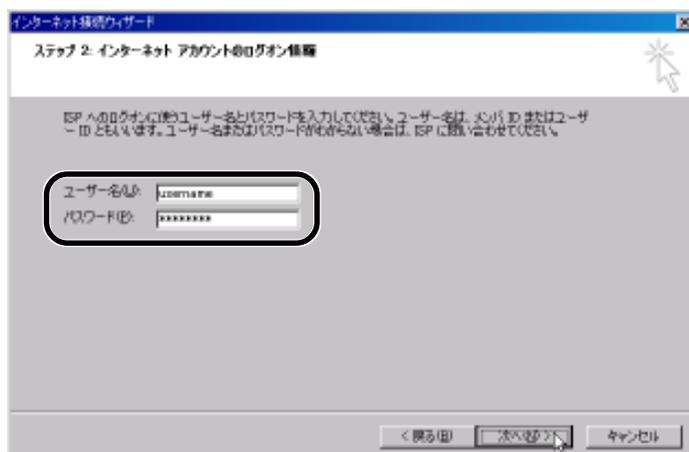


MEMO ・ [モデムの選択] の画面が表示された場合は、“YAMAHA RTA54i (USB)” を選択して [次へ] ボタンを押してください。

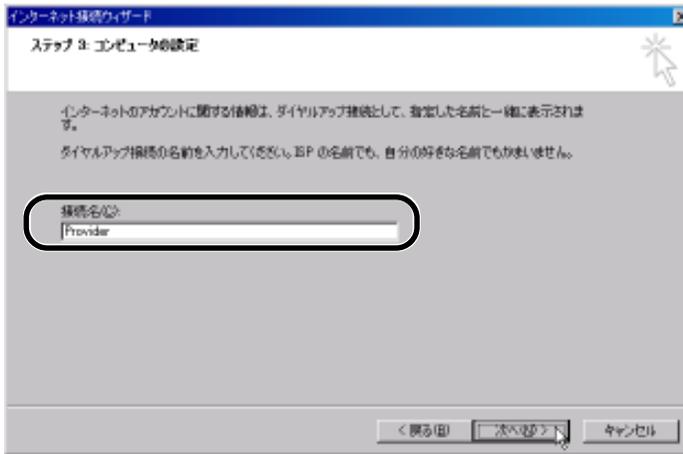
7 ISDN 対応アクセスポイントの電話番号を入力し、[次へ] ボタンを押します。



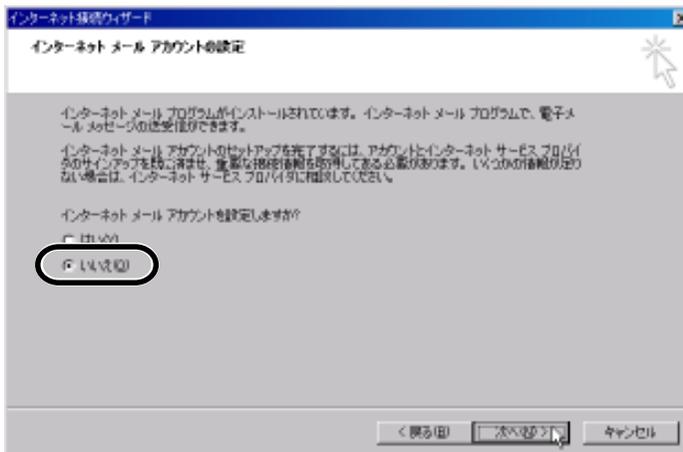
8 ユーザー名とパスワードを入力し、[次へ] ボタンを押します。



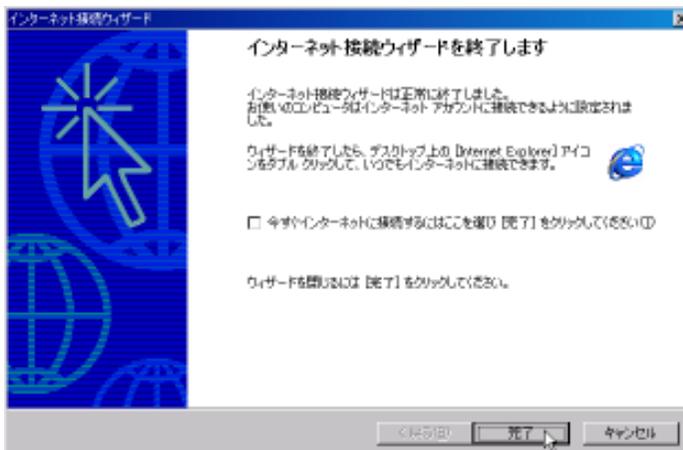
9 [接続名] に任意の名前を入力し、[次へ] ボタンを押します。



10 [いいえ] を選択し、[次へ] ボタンを押します。



11 [完了] ボタンを押します。

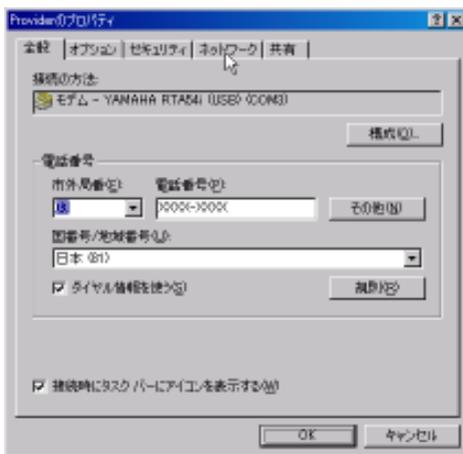


「ネットワークとダイヤルアップ接続」フォルダ内に登録したプロバイダ名のアイコンが表示されます。

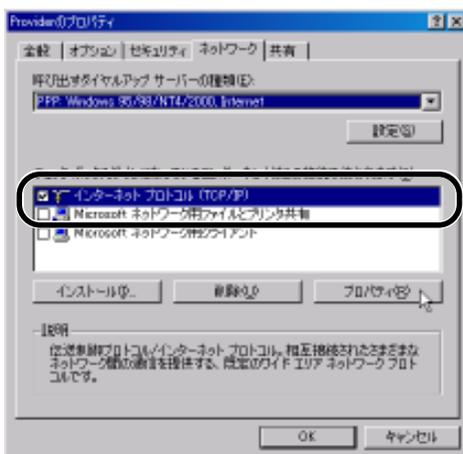
12 プロバイダのアイコンを選択し、ファイルメニューの【プロパティ】を選択します。



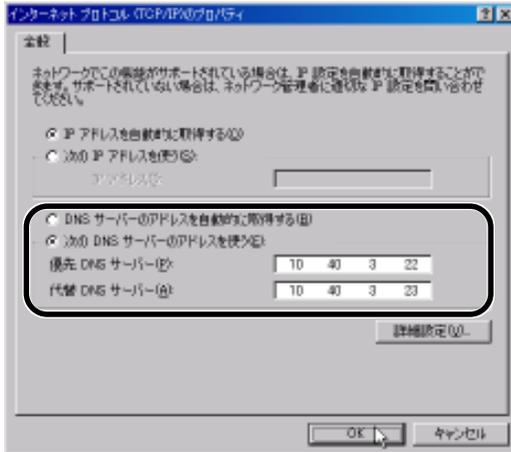
13 【ネットワーク】 タブを押します。



14 【インターネットプロトコル (TCP/IP)】 を選択し、【プロパティ】 ボタンを押します。



15 [次のDNSサーバーのアドレスを使う]にチェックを付けてDNSサーバアドレスを入力し、各ウィンドウの [OK] ボタンを押してウィンドウを閉じます。

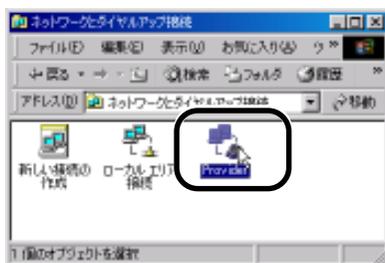


これで、インターネット接続の設定が完了しました。

MEMO ・プロバイダからDNSサーバのアドレスが通知されない場合は、[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する] を選択します。

■ インターネットへ接続する

1 [ダイヤルアップネットワーク] フォルダのプロバイダ名アイコンを開きます。



2 [ダイヤル] ボタンを押します。



インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。インターネットへ接続中は、B1 ランプまたは B2 ランプが点灯します。

MEMO ・ [パスワードを保存する] をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

3 ブラウザを開き、“<http://NetVolante.rupro.yamaha.co.jp/>” と入力して [enter] キーを押します。

NetVolante のホームページが表示されることを確認してください。

4 接続を解除するときは、[切断] ボタンを押します。



プロバイダとの接続が切れます。

MacOS 9 の場合

MacOS 9では、ネットワーク機能の設定とリモートアクセス（PPP）の設定を行います。作業を始める前に、RTA54i用 CCL ファイルを付属の CD-ROM の [CCL ファイル] フォルダから [システムフォルダ] - [機能拡張] - [Modem Scripts] フォルダ内へコピーしてください。

ここでは MacOS 9.0.4 の画面を例に説明しています。



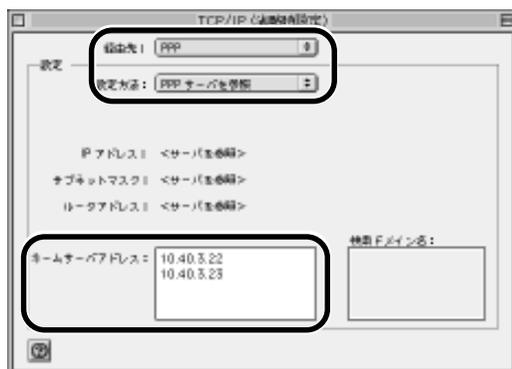
注意

・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定またはリモートアクセス設定（TA接続利用時）の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

■ ネットワーク機能を設定する

コントロールパネルの [TCP/IP] と [モデム] を設定します。

- 1 コントロールパネルの [TCP/IP] を開き、[経路先] を "PPP"、[設定方法] を "PPP サーバを参照" に設定して、[ネームサーバアドレス] 欄にプロバイダから入手したネームサーバの IP アドレスを設定します。



- 2 設定が終わったら、「TCP/IP」ウィンドウを閉じます。

- 3** コントロールパネルの [モデム] を開き、[経由先] を "USB Modem"、[モデム] の種類をプロバイダの通信速度に合った "RTA54i XXXX"、[ダイヤル] の種類を "トーン" に設定します。



プロバイダの回線速度	選択項目名
同期 64k (制御文字変換なし)	RTA54i 64k
同期 64k (制御文字変換あり)	RTA54i 64k(v1.2)
同期 128k (制御文字変換なし)	RTA54i MP
同期 128k (制御文字変換あり)	RTA54i MP(v1.2)

- MEMO**
- ・プロバイダとMP接続の契約をしている場合は、[RTA54i MP] を選択してください。また、アクセスポイントは必ずMP対応の電話番号を入力してください。
 - ・同期接続では通常は制御文字変換なし ([RTA54i 64k] または [RTA54i MP]) を使用してください。

- 4** 設定が終わったら、「モデム」ウィンドウを閉じます。

■ ダイアルアップ接続を設定する

- 1 コントロールパネルの「リモートアクセス」を開き、プロバイダから入手したユーザIDとパスワード、ISDN 対応アクセスポイントの電話番号を設定します。



- 2 設定が終わったら、「リモートアクセス」ウィンドウを閉じます。

MEMO ・「パスワードを保存」をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

■ インターネットへ接続する

- 1 [コントロールパネル] の [リモートアクセス] を開きます。
「リモートアクセス」ウィンドウが表示されます。

- 2 [接続] ボタンを押します。



インターネットに接続すると、接続速度や時間が表示されます。インターネットへ接続中は、B1 ランプまたは B2 ランプが点灯します。

MEMO ・ [パスワードの保存] をチェックすると、次回からパスワードの入力が不要になります。他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

- 3 ブラウザを開き、“<http://NetVolante.rtpro.yamaha.co.jp/>” と入力して [enter] キーを押します。
NetVolante のホームページが表示されることを確認してください。

- 4 接続を解除するときは、「リモートアクセス」ウィンドウの [接続を切る] ボタンを押します。



プロバイダとの接続が切れます。

6.4 擬似LAN接続を設定する

本機に内蔵の“擬似LAN機能”を使うと、USBポートに接続したパソコンもTCP/IPプロトコルでLANにアクセスできるようになります。LANボードを取り付けられないパソコンや5台目のパソコンを接続するときは、この方法で接続してください。LANに接続すると、TCP/IPプロトコルのファイルサーバにアクセスできるようになり、ダイヤルアップルータの自動接続機能によるインターネット接続も利用できます。ただし、Windowsのファイル共有やAppleShareのファイル共有は利用できません。

擬似LAN機能を使うときは、以下の接続や設定を行ってください。

Windows 98SE/Meの場合

擬似LAN機能を使うときは、ダイヤルアップネットワークのアイコンを作成し、本機へダイヤルアップ接続します。

1 [マイコンピュータ] の [ダイヤルアップ ネットワーク] を開きます。

Windows Meの場合は[コントロールパネル]の[ダイヤルアップ ネットワーク]を開きます。Windows 2000の場合は[コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]を開きます。

2 [新しい接続] アイコンを開きます。

「ダイヤルアップネットワークへようこそ」ウィンドウが表示された場合は、[次へ]ボタンを押します。

「所在地情報」ウィンドウが表示された場合は、市外局番を入力してください。



- 3 [接続名] に“RTA54i-LAN”と入力し、[モデムの選択] に“RTA54i USB(Sync)”を選択して、[次へ] ボタンを押します。

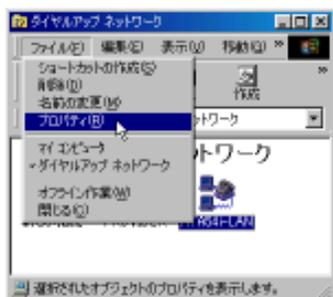


- 4 市外局番は空欄のまま、電話番号に“****”を入力し、国番号に“日本 (81)”を選択して [次へ] ボタンを押し、[完了] ボタンを押します。



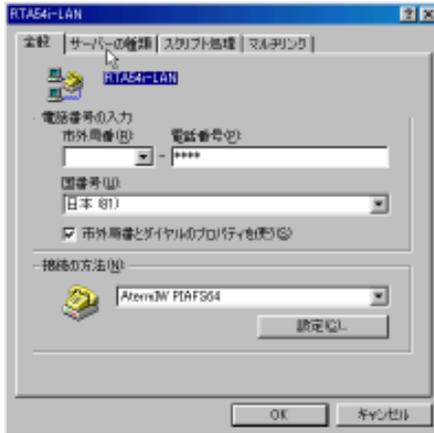
「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダ内に登録したプロバイダ名のアイコンが表示されます。

- 5 [RTA54i-LAN] アイコンを選択し、ファイルメニューの [プロパティ] を選択します。

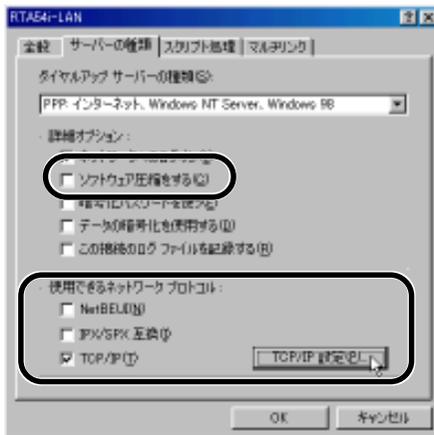


6 [サーバーの種類] タブを押します。

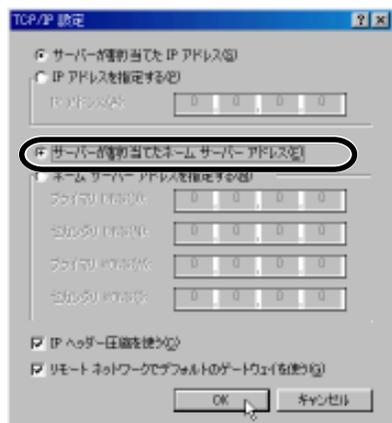
Windows Me の場合は、[ネットワーク] タブを押します。



7 [詳細オプション] の [ソフトウェア圧縮する] と [使用できるネットワーク プロトコル] の [NetBEUI] と [IPX/SPX 互換] のチェックを外し、[TCP/IP] にチェックを付けて [TCP/IP 設定] ボタンを押します。



- 8 [サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス] を選択し、各ウィンドウの [OK] ボタンを押してウィンドウを閉じます。



これで、インターネット接続の設定が完了しました。

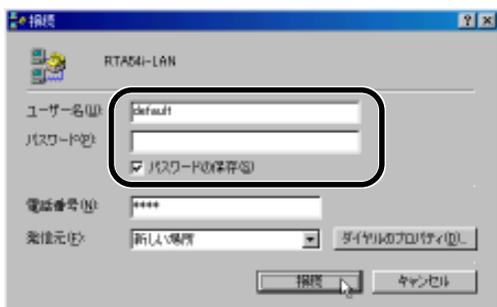
■ LAN への接続

LANへ接続するときは、[RTA54i-LAN] アイコンを開き、本機の擬似LAN機能にダイヤルアップします。

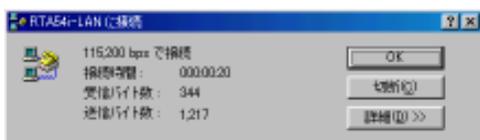
- 1 [ダイヤルアップネットワーク] フォルダの [RTA54i-LAN] アイコンを開きます。



- 2 [ユーザー名] に任意の名前を入力し、[パスワード] は空欄、[パスワードの保存] をチェックして [接続] ボタンを押します。



本機の擬似LAN機能に接続し、LANにアクセスできるようになります。



MEMO ・作成した [RTA54i LAN] アイコンのショートカットをスタートメニューの [スタートアップ] に追加すると、Windows起動後 [RTA54i LAN] ウィンドウが開くようになります。[接続] ボタンを押せば、簡単にLANにアクセスできます。

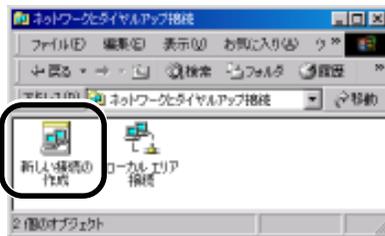
Windows 2000 の場合

擬似 LAN 機能を使うときは、ダイヤルアップネットワークのアイコンを作成し、本機へダイヤルアップ接続します。

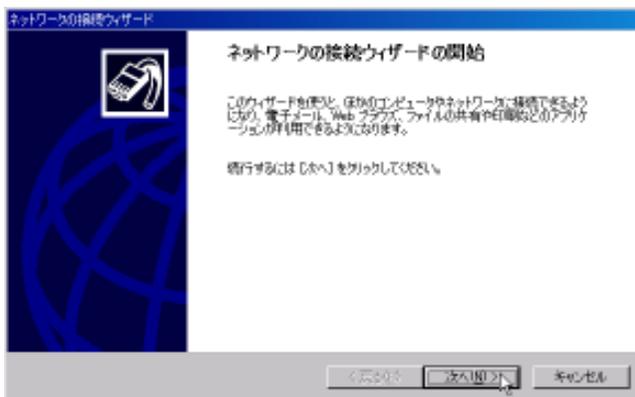
- 1 [コントロールパネル] の [ネットワークとダイヤルアップ接続] を開きます。



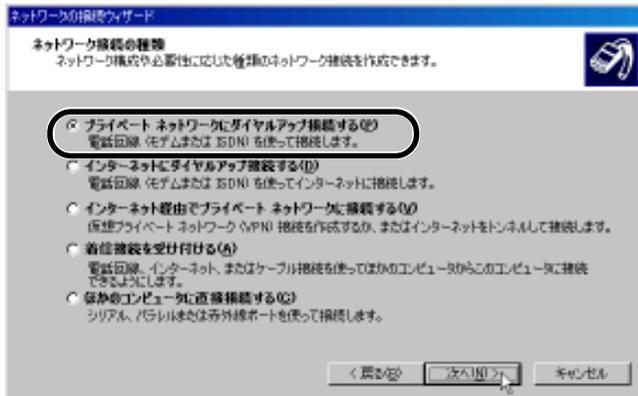
- 2 [新しい接続の作成] アイコンを開きます。



- 3 [次へ] ボタンを押します。

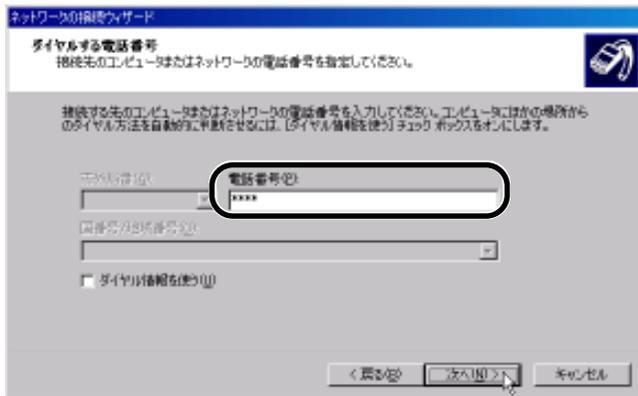


4 [プライベートネットワークにダイヤルアップ接続する] を選択し、[次へ] ボタンを押します。

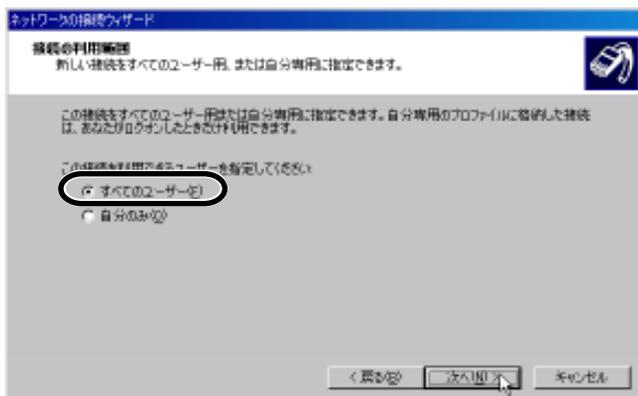


MEMO ・ [デバイスの選択] の画面が表示された場合は、[YAMAHA RTA54i (USB) (COMx)] のみをチェックし、他のデバイスのチェックを外してから [次へ] ボタンを押します。

5 電話番号に “****” を入力し、[次へ] ボタンを押します。

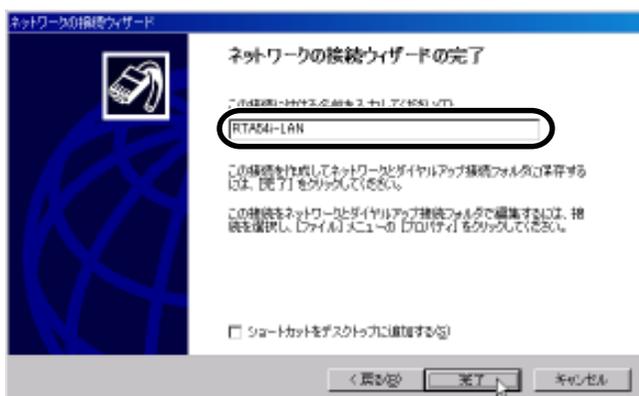


6 [すべてのユーザー] を選択し、[次へ] ボタンを押します。

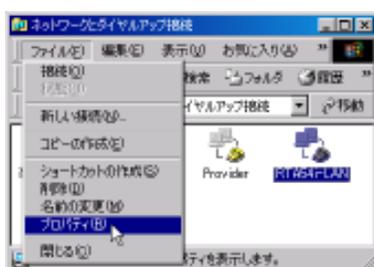


6
USB接続で使うときは
Win

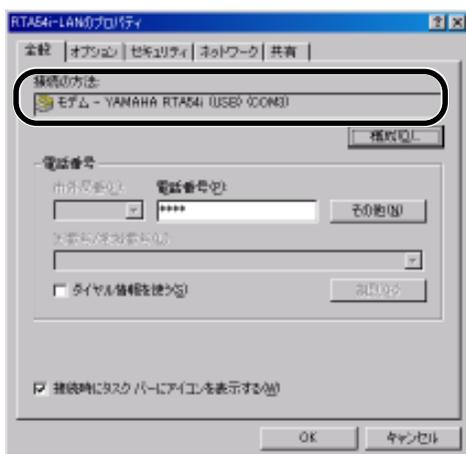
- 7 [接続名] に“RTA54i-LAN”と入力し、[完了] ボタンを押します。



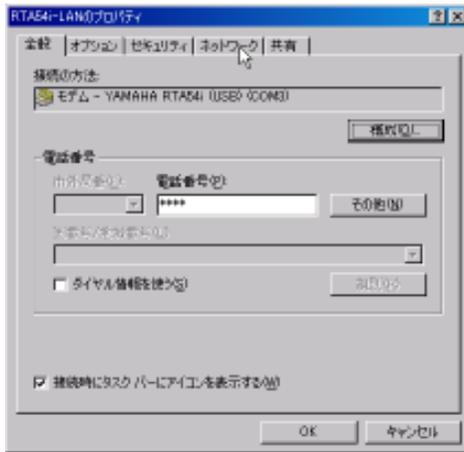
- 8 [RTA54i-LAN] アイコンを選択し、ファイルメニューの [プロパティ] を選択します。



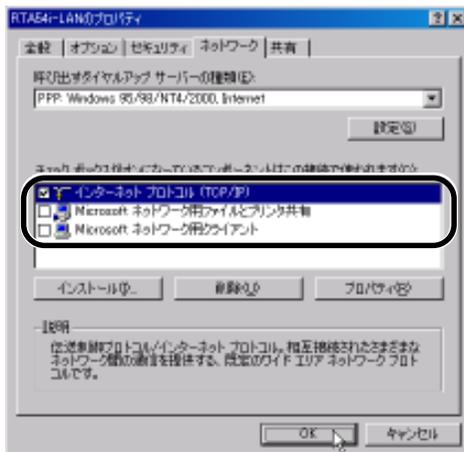
- 9 [全般] タブの [接続の方法] から [YAMAHA RTA54i (USB) (COMX)] を選択します。



10 [ネットワーク] タブを押します。



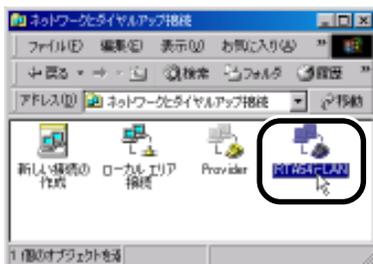
11 [インターネットプロトコル (TCP/IP)] にチェックを付けて [Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有] と [Microsoft ネットワーク用クライアント] のチェックを外し、[OK] ボタンを押します。



LAN への接続

LAN へ接続するときは、[RTA54i-LAN] アイコンを開き、本機の擬似 LAN 機能にダイヤルアップします。

- 1 [ネットワークとダイヤルアップ接続] フォルダの [RTA54i-LAN] アイコンを開きます。



- 2 [ユーザー名] に任意の名前を入力し、[パスワード] は空欄、[パスワードの保存] をチェックして [ダイヤル] ボタンを押します。



本機の擬似 LAN 機能に接続し、LAN にアクセスできるようになります。



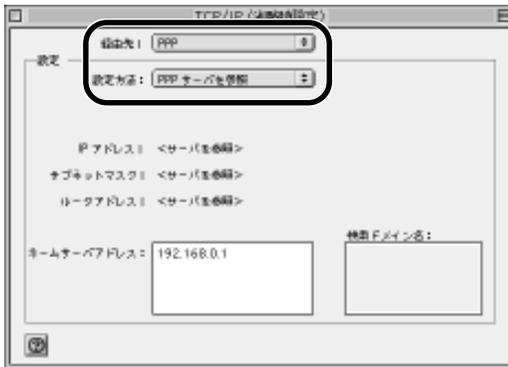
MEMO ・作成した [RTA54i LAN] アイコンのショートカットをスタートメニューの [スタートアップ] に追加すると、Windows 起動後 [RTA54i LAN] ウィンドウが開くようになります。[接続] ボタンを押せば、簡単に LAN にアクセスできます。

MacOS 9 の場合

■ ネットワーク機能の設定

コントロールパネルの [TCP/IP] と [モデム] を設定します。

- 1 コントロールパネルの [TCP/IP] を開き、[経由先] を“PPP”、[設定方法] を“PPP サーバを参照” に設定して、[ネームサーバアドレス] 欄に本機の IP アドレス（工場出荷時は 192.168.0.1）を設定します。



設定が終わったら、「TCP/IP」ウィンドウを閉じます。

- 2 コントロールパネルの [モデム] を開き、[経由先] を“USB Modem”、[設定] 欄の [モデム] に“RTA54i 64k”、[ダイヤル] の種類に“トーン”を設定します。



設定が終わったら、「モデム」ウィンドウを閉じます。

■ ダイヤルアップ接続の設定

- 1 コントロールパネルの「リモートアクセス」を開きます。
- 2 [ユーザ ID] に任意のユーザ名を入力し、[パスワード] は空欄、[パスワードを保存] をチェックし、電話番号に“****”を入力します。



設定が終わったら、「リモートアクセス」ウィンドウを閉じます。

■ LAN への接続

LANへ接続するときは、コントロールパネルの [リモートアクセス] を開いて本機の擬似LAN機能にダイヤルアップ接続します。

1 コントロールパネルの [リモートアクセス] を開きます。

2 [接続] を押します。



本機の擬似LAN機能にダイヤルアップ接続し、LANにアクセスできるようになります。



MEMO

・ [リモートアクセス] のエイリアスをシステムフォルダ内の [起動項目] フォルダに入れておくと、Macintosh起動後 [リモートアクセス] ウィンドウが開くようになります。[接続] ボタンを押せば、簡単にLANへアクセスできます。

第7章 付録

付録では、スタートマニュアルの索引を収録しています。

索引.....	7-2
---------	-----

索引

英数字

10BASE-T ポート	1-12
AC アダプタ	2-16
ADSL	1-4
ADSL モデム	2-9
B1 ランプ	8, 5-11
B2 ランプ	8, 5-11
[CONN/DISC] ボタン	8, 5-8, 5-10
DHCP サーバ	2-24
DSU	2-5, 2-7, 2-12
DSU スイッチ	9, 2-5, 2-7, 2-12, 2-13
FAX 機器の接続	2-17, 2-19
INS キャッチホン	1-5
Internet Explorer	5-32
IP アドレス設定	4-36
ISDN S/T ポート	10, 2-5, 2-8, 2-14
ISDN U ポート	10, 2-6, 2-13
ISDN 回線	1-3
ISDN 付加サービス	1-5
ISDN ランプ	8, 2-20, 5-11
i・ナンバー	1-5
LAN カード	1-12
LAN ボード	1-12
LAN ポート	10, 1-12
LAN ポートの接続	2-24
LAN ランプ	8, 2-27, 5-11
MAC アドレス	9
MediaPlayer	5-32
MP 接続	6-28
MSG ランプ	8, 5-11
Netscape Communicator	5-34
Outlook Express	5-31
POWER ランプ	8, 5-11
RealPlayer	5-29, 5-33
RTA54i パソコンセットアップ	3-2, 3-3, 3-5
RTAssist	3-2, 3-4, 3-5
TEL ポート	10
TEL ポートを使用しない	2-23
UPLINK (カスケード) ポート	2-26
USB ポート	10, 6-2
USB ランプ	8, 5-11

WAN ポート	10
WAN ランプ	8, 5-11
Windows MediaPlayer	5-32

ア行

アースコード	2-15
アース端子	10, 2-16
一般回線	1-4
インストール	
Macintosh	3-5
USB ドライバ	6-3, 6-8, 6-11, 6-14
Windows	3-2

カ行

各部の名称	8
かんたん設定ページ	5-12
擬似 LAN	6-31
極性反転スイッチ	9
ケーブルモデム	2-9

サ行

サブアドレス通知	1-5
三者通話	1-5
自動アップデート	5-28, 5-31
自動接続	5-7
自動切断	5-9
手動接続	5-8, 5-13
手動切断	5-10
シリアル番号	9
接続形態	1-2
接続契約	
ADSL	1-9
CATV	1-8
端末型ダイヤルアップ	1-6
フレッツ・ADSL	1-10
フレッツ・ISDN	1-7
接続状態の確認	5-5
接続情報	1-6, 1-7, 1-8, 1-9, 1-10
専用線	1-4
専用線接続契約	1-11

タ行

ターミネータスイッチ	9, 2-5, 2-7, 2-12
ダイヤルイン	1-5
着信転送	1-5
チャンネル	1-5, 5-11
チャンネル	5-30
通信記録	5-14, 5-26, 5-27
通信中着信通知サービス	1-5
通信中転送	1-5
通信履歴	5-26
電源コネクタ	10
電源の接続	2-15
電池ボックス	9
電池ボックスカバー	8, 2-3
電話機の接続	2-17, 2-19

ナ行

認証番号	9, 1-3
ネットワークアドレス	4-36
ネットワーク設定	
Macintosh	3-19
Windows	3-14, 3-16

ハ行

バックアップ電池	2-17
発信者番号通知	1-5
発信制限	5-15
ブザー	5-22
不審な自動接続	5-25
フレックスホン	1-5
フレッツ・ADSL	1-4
ブロードキャストアドレス	4-36
プロバイダとの契約	1-6

ヤ行

ユーザ間情報通知	1-5
ユーティリティソフト	3-2

ラ行

料金情報	5-26
料金情報通知	1-5
料金情報の確認	5-5
ルータの動作確認	2-20

製品サポートのご案内

■ 最新情報を入手するには

本機に関する最新情報は、インターネットのホームページで入手することができます。設定に関する初歩的な情報からルータの専門的な情報まで、それぞれの目的別に用意していますので、十分ご活用ください。

● NetVolante シリーズのホームページ

本機や NetVolante シリーズに関する最新情報をご覧ください。

<http://NetVolante.rtpro.yamaha.co.jp/>

● NetVolante シリーズの FAQ

本機や NetVolante シリーズに関する Q&A をご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RTA54i/FAQ/>

● NetVolante シリーズのリビジョンアップ情報

本機や NetVolante シリーズの最新ファームウェアに関する情報をご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RTA54i/RevUpper.html>

● RT シリーズのホームページ

RT シリーズのルータに関する最新情報やルータの技術情報、高度な利用方法などをご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>

■ ご質問・お問い合わせについて

本機に関する技術的なご質問やお問い合わせは、下記へご連絡ください。

● ネットボランチコールセンター

RTA54i 専用サービス窓口

TEL: 03-5715-0350

土日祝日を除く 9時～12時、13時～17時

● 電子メールでのお問い合わせ

Web お問い合わせページ: <http://NetVolante.rtpro.yamaha.co.jp/>

メールアドレス: support@volante.rtpro.yamaha.co.jp



注意

- ・本機を修理等の理由により輸送される場合には、電池をすべて外した状態にしてください。輸送中に電池から液が漏れて、火災やけが、周囲を汚損する原因となることがあります。電池の液漏れによる修理は、保証期間中であっても実費を請求させていただきます。
- ・本機を修理等の理由により輸送される場合には、お客様の責任において必ず本機の設定を保存してください。修理の内容によっては、設定を工場出荷時の状態にさせて頂く場合がございます。あらかじめご了承ください。

ヤマハ株式会社

●ネットボランチコールセンター

RTA54i専用サービス窓口

TEL: 03-5715-0350

土日祝日を除く9時～12時、13時～17時

●電子メールでのお問い合わせ

Webお問い合わせページ: <http://NetVolante.rtpro.yamaha.co.jp/>

メールアドレス: support@volante.rtpro.yamaha.co.jp